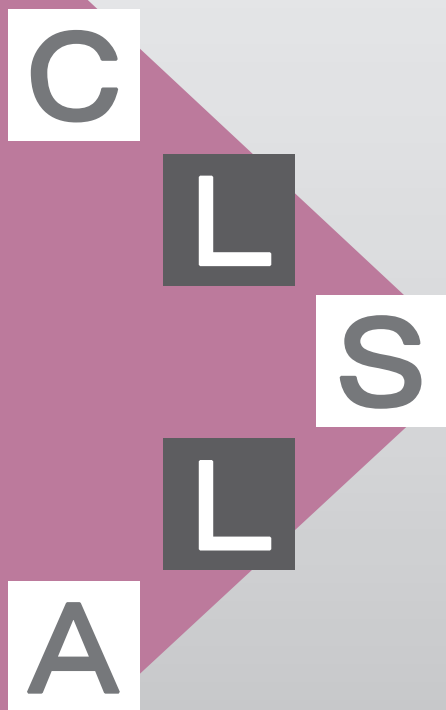


学習支援センター(SLAサポート) 年次活動報告書 2019年度

Annual Report 2019 / Center for Learning Support(SLA Support Office)



東北大学
高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education,
Tohoku University

学習支援センター（SLA サポート）
年次活動報告書
2019年度

巻頭言

未来の「感染対策」としての学習

—器の外へ—

学習支援センター長 芳賀 満

実は事情があってこの巻頭言を書いている今は未来で、この過去の世界を未来に於いてコロナ禍が襲うことを知っている。しかし 2019 年にはそのようなことは世界の誰の念頭にもなかった。2019 年 12 月に最初の事例が検出されたが、その後に世界各地でのパンデミックがおこるとは多分人類の誰も考えていなかった。さらにその後にもコロナ禍が一再ならず何回も世界や日本を襲い収束せず、その都度に人類特有の楽観主義を裏切るとは思いもしなかった。

ウイルス自体は生物とも言い切れないような存在だが、ウイルスの感染・拡大は人間社会の歴史的・文化的現象に他ならない。少人数の社会集団が広い大地に点在した狩猟採集時代には個々の群で集団免疫が得られればウイルスは行き場を失った。農耕牧畜が始まり大人数の社会集団が共同作業を行うようになりエピデミックが発生した。シュメールで始まった都市文明とは 3 密の創成に他ならずパンデミックは必定となった。3 密を避けるとは本来都市文明の放棄である筈だが現代は世界人口の半分以上が都市に住む。たしかにウイルスに直接に対峙するのはその専門家であるが、ウイルス対策を決定するのは政治・経済であり、実践するのは市民社会である。

知り得ない未来。ならば専門研究が大事であり、同時に教養教育もこの為にあるのだろう。「君子は器ならず」(論語)と謂う。「器」とは他者により一種一個に限定されている状態のことで、そうではなく君子は一つに限定しないで全てに幅広く対応できるべきである、との孔子の教えである。我々は未来を予見できないから、「器」ではなくその器外の「想定外」にこそ対応できないといけない。そのためには君子であるエリートこそ、受動的ではなく主体的・自律的な態度と覚悟が必要である。それが大学での学習である。

そのような学びを、専門学識は勿論、ライティング、語学、企画などの面からも支えようと、学習支援センターとその SLA たちは奮闘努力している。本巻はその 2019 年度の報告であるが、その活動は、「想定外」が叫ばれた 2011 年の過去をも踏まえ、2020 年、2021 年、さらにはその先の未来にも大いに良い影響を与えることを知っている。

目次

巻頭言 「感染対策としての学習一器の外へ」 センター長 芳賀満	1
◆2019年度事業内容・成果	3
1. センター概要	5
2. センター活動・実績報告	9
3. 部会活動報告	20
1) 物理部会 (21)	
2) 数学部会 (27)	
3) 化学部会 (33)	
4) ライティング部会 (37)	
5) 英語部会 (39)	
6) 日本語部会 (43)	
7) 企画部会 (47)	
4. SLA の採用と育成・研修活動実績報告	51
1) SLA の採用・育成 (50)	
2) 活動説明会・リフレクション会・活動報告会 (52)	
3) 夏期研修 (80)	
4) 北海道大学との合同研修の実施 (82)	
5) 学びの転換セミナー「アートから学ぶ創造的思考」実施 (85)	
5. SLA による活動振り返りレポート	89
資料：2019年度発行ポスター	93
編集後記	101

◆2019年度事業内容・成果

1. スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施

SLA (Student Learning Adviser) とは本学学生による学生のための学習支援スタッフを指し、主に学部生の授業時間外の学習に対する支援を行っている。2019年度のSLA数は、前期43名、後期は36名であった。うち当該年度中に新規採用したSLAは計17名である。

このSLAによる学習支援は、①理系科目の学習支援、②英会話・日本語会話学習支援、③ライティング支援、④学習イベント企画という4つに大きく分けられる。2019年度の利用者数は延べ2,414名、1活動日あたりの利用者数は16.1名であった。

①理系科目

質問受付カウンターでSLAが学生への学習支援にあたる個別対応型を中心としている。平日2限から5限の一部の時間帯に、ドロップイン（予約不要）の形態で、個別もしくはグループでの質問を受けるという窓口対応を行っている。また、OJTやOff-JT、学生対応の標準化と研修機会の拡充を通して学習支援の質向上を推進した。2019年度の利用者数は延べ1011名、実数では257名であった。

②英会話（主に日本人学生対象）および日本語会話（留学生対象）

「英会話カフェ」（ワークショップ）および「1 on 1」（個別対応）を通して、利用学生の多様なニーズに応じた学習支援を行った。2019年度の英会話支援の利用者数は延べ449名、実数で91名であった。

留学生の日本語学習支援としては、「日本語会話」ワークショップ（週2回、1時間/回）を開催した。参加者は延べ243名（前期99名、後期144名）であり、昨年度に比べて利用者が大幅に増加した。

③ライティング支援

ライティング支援の2019年度の窓口利用者は延べ224名、実数で111名であった。留学生に向けた日本語ライティング支援としても積極的な広報を行うことで利用を促し、留学生利用者数は延べ81名だった。

また、『東北大学レポート指南書』に準じたアカデミックスキルセミナー「レポート指南書入門ゼミ」（全6回）を定期開催した。実施回数は合計で15回、参加者は延べ202名だった。

④学習イベント企画

学習イベント等の企画実施については、新入生を対象とした企画「SLA体験 week」、哲学カフェ「かんがえるソファ」を開催したほか、「チャレンジボード」など掲示・常設型の学習支援を実施した。また前年度に引き続き、宮城県美術館の協力を得て「美術館の楽しみ方、教えます！」を実施した。具体的な活動状況と成果については、下記4で詳述する。

④学習情報の発信および広報活動

以上の各分野について、2018年度に引き続き、情報発信に重点的に取り組み、相談窓口を利用しなくても様々な学修情報に学生がアクセスできる環境づくりを目指し、積極的な情報発信活動を行った。学修情報ポータルサイト「学びのヒント by SLA」を運用・更新したほか、物理・化学に関しては、ポスター掲示やブログ・SNSを活用した情報配信を定期的に行った。

2. 学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践

2019年度も、「シニア SLA」制度の運用をはじめ、部会活動やメンター制度、その他の OJT の仕組みも合わせて、SLA 同士の自律的な研修・育成システムを継続的に運用した。特に学習支援者としての SLA を育成するための研修体系を継続的・定期的に運用すると共に、日常的な学生対応について SLA が自律的に考えて行動し、相互に検討し学び合う環境醸成に努めた。

当該年度も例年通り、全ての SLA を対象として、各セメスターの始期に活動説明会、終期に全体リフレクション会や活動報告会を実施した。これらの活動により期間を通じた SLA サポート活動の目標の共有と、その目標に対する成果・課題のふりかえりを行った。セメスター中には SLA の担当分野別に「部会」(担当別研修会)を実施し、担当科目等に関する学習支援の課題の共有と対応の検討等を行った。SLA 共通研修として、「学びの転換セミナー：アートから学ぶ創造的思考」(後述)のほか、ファシリテーションに関する研修を開催した。

セメスター末には全 SLA に対してアンケートやヒアリングを実施し、個別課題に応じた育成方針をセンター教職員で検討すると同時に、個々の課題を総合的に把握・整理することにより全体課題の精査を行った。2月には本学にて、北海道大学と、学習支援に従事する学生スタッフ(主に理系・英語担当)の合同研修を実施した。

3. 情報還元による正課カリキュラムの改善・充実への貢献

半期ごとに、学務審議会においてセンターの利用状況・活動報告を行った。また、正課カリキュラムと学習支援センターでの活動を有機的に連携させるため、TGL プログラム必修科目「グローバルゼミ」の複数クラスに対して、センター教員がアカデミックライティング教育に関する「出前授業」を行った。その他、理系の初年次基礎科目を中心として、学習支援センターに集まる学生の学修情報を要望のあった科目委員会にフィードバックした。

4. 正課カリキュラム外における学生の自主的な学習支援の支援・促進

学生の学習意欲の向上や教養への興味喚起、正課カリキュラム外での学習活動推進を図るため、SLA による学習支援活動を中心に様々な学習企画を実施した。新入生を対象とした学習企画イベントとして、4月の授業期間初週(平日)の昼休みから3講時に、SLA サポートを体験できる企画「SLA 体験 week」(4月計3回開催、参加者延べ39名)、を開催した。履修相談等に訪れる1年生が多かった。その他、哲学カフェ「かんがえるソファ」(前期4回、後期14回開催、参加者延べ132名)を開催したり、「チャレンジボード」など掲示・常設型の学習支援を行った。また、美術館を訪れた経験をあまり持たない学生を主たる対象にして、宮城県美術館の協力を得て実現した「美術館の楽しみ方、教えます！」(後期4回開催、参加者延べ25名)を開催した。

前期には、初めて「TUJP×SLA Language Exchange」を開催した。この企画は、英語・日本語の両言語を用いながら、日本人学生と接する機会の少ない短期留学プログラム TUJP の留学生と、英会話を通して留学生と交流したい日本人学生を結びつけることを目的とした交流企画ワークショップ(90分)である。国内学生・留学生合わせて42名の参加があった。

他に、学外講師としてアーティストを招聘した「学びの転換セミナー：アートから学ぶ創造的思考」を、2月5日に開催した。参加者は32名だった。

5. 学内外における学習支援ネットワークの構築

学内では、機構教員の協力を得て SLA 共通研修を実施したほか、附属図書館から各種イベントの実施や広報に定常的な協力・支援を得た。また、留学生等への学習支援に関する情報交換や広報等において、グローバルラーニングセンターとの連携を強化した。

学外との学習支援ネットワークとしては、2月に本学にて北海道大学と合同で、学生学習支援スタッフ研修を開催した。

1. センター概要

学習支援センターは、2014年度の高度教養教育・学生支援機構の発足に伴い設立された業務センターの一つである。その前身となったのは、高等教育開発推進センターにおける「SLA サポート室」の活動（2013年度）であり、さらにはそれ以前の「全学教育学習支援プロジェクト—SLA（Student Learning Adviser）制度の実践—」（総長室付け、2010年度～2012年度）の活動が土台となっている。

2019年度6月、「学習支援センター運営要領」を一部改訂した。

（1）理念・使命

学習支援センターの使命には、次の3点を掲げている。

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を実践的に支援・促進し、研究大学で学ぶ学生が習得すべきコンピテンシーを育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、大学における学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の中に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

学習支援センターの支援対象は主に学部生を対象とした全学教育（教養教育）である。特に1・2年次学生にとっては、高校教育から大学教育への移行において「学びの転換」が課題となっており、その転換を実践的に支援・促進するのが本センターの重要な役割の1つである。

本センターの学習支援の特徴は、学習支援活動の主な担い手が「SLA（Student Learning Adviser）」と呼ばれる学生スタッフであることにある。「学生による学生のための学習支援」の在り方を模索し、開発していくことも本センターの使命の一つである。

（2）事業

学習支援センターが行う事業は、次の4点である。

- (1) スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA, Student Learning Adviser）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施
- (2) 正課カリキュラムの改善・充実への貢献および全学教育に対する教育開発支援
- (3) 正課カリキュラム外における学生の自主的な学習の支援・促進
- (4) 学内外における学習支援ネットワークの構築

本センターでは、高大接続の円滑化と大学教育での「学びの転換」、そして「単位制度の実質化」に対応するため、大学初期段階での学びのスタートアップ支援を行う。研究中心大学における学習支援としては「リメディアル教育」に資する支援を行うと同時に、学生が学修を深化させ、あるいはより幅広い学習へと拡張していくための「レベルアップ」のための支援を開発・実施していく。

(3) センタースタッフ構成 (2019年度)

センター長 芳賀 満 高度教養教育・学生支援機構 教授, 考古学
 副センター長 佐藤智子 同 准教授, 生涯学習・社会教育
 センター員 縣 拓充 同 助教, 教育心理学・認知科学・美術教育
 頼 羽廷 同 助教, 教師教育, 教員評価
 鈴木真衣 教育・学生支援部 教務課, 事務職員 (限定)
 SLA 前期 43名, 後期 36名 (下表のとおり)

<2019年度 SLA 一覧>

	担当	名前	所属	学年	活動期間	備考
1	物理	佐藤 諒	理	D 3	2013 後期～	
2		高根 大地	理	D 2	2014 前期～	シニア SLA ～2019 前期
3		早坂 遼一路	工	M 2	2016 前期～	～2019 前期
4		野本 大作	理	M 1	2017 前期～	～2019 前期
5		小沢 耀弘	理	D 1	2018 前期～	
6		赤池 瑞生	理	M 1	2018 後期～	
7		早部 希	工	B 4	2018 後期～	
8		有沢 洋希	理	M 2	2019 前期～	
9		重藤 真人	理	B 4	2019 前期～	
10		木下 豊	理	B 4	2019 前期～	
11		松井 理輝	理	B 3	2019 前期～	
12	数学	浅野 喜敬	理	D 1	2015 後期～	
13		三宅 庸仁	理	D 2	2016 前期～	シニア SLA
14		渡辺 孝佳	理	M 2	2018 前期～	
15		佐藤 俊	工	B 4	2018 前期～	
16		森 祥仁	理	M 2	2018 後期～	
17		吉澤 研介	理	D 1	2019 前期～	
18		木村 藍貴	理	M 2	2019 前期～	～2019 前期
19		竹平 航平	理	B 4	2019 前期～	
20	長坂 篤英	理	B 4	2019 前期～		
21	化学	三上 進一	理	D 1	2017 前期～	シニア SLA
22		中村 祐輝	工	B 4	2018 後期～	
23		能沢 真由	理	M 1	2019 前期～	
24	英語	樋口 靖浩	工	M 2	2016 前期～	～2019 前期
25		米田 佑	教	M 2	2016 前期～	～2019 前期
26		韓 吉輝	工	M 1	2018 前期～	
27		水野 彩子	薬	B 4	2018 前期～	
28		田村 惇	文	M 2	2018 後期～	
29		市川 サラ	工	M 2	2019 前期～	
30		大槻 俊介	経	B 4	2019 前期～	
31		千葉 絵理奈	工	B 4	2019 前期～	
32		金 弋	工	M 1	2017 前～後期 2019 年後期～	復帰

33	ライティング	玉田 優花子	文	D 3	2016 前期～	シニア SLA
34		木村 真理子	文	D 3	2017 前期～	～2019 前期
35		相原 貴次	文	M 2	2018 前～後期 2019 年後期～	復帰
36		伊藤 愛莉	教	D 1	2019 前期～	
37	日本語	鏡 耀子	文	M 2	2018 後期～	
38		工藤 さやか	文	B 4	2018 後期～	
39		松谷 凌雅	文	B 3	2019 前期～	
40		金 亮輔	工	B 3	2019 前期～	～2019 年前期
41		高山 翔園	経	B 3	2019 後期～	
42	企画	鈴木 あすみ	文	D 2	2016 前期～	シニア SLA
43		鈴木 志保	文	B 4	2018 前期～	
44		西塚 孝平	教	M 2	2018 前期～	
45		飯田 司	工	B 3	2019 前期～	



2. センター活動・実績報告

2019年度 学習支援センター活動報告

◆SLAの体制: 前期**43名**(新規16名)、後期**36名**(新規1名)

内訳	物理	数学	化学	英会話	ライティング	企画
前期	11	10	3	8	3	8
後期	8	8	3	7	3	7

◆年間総利用者数延べ数): **2,414人** 1日平均: **16.1人**

	2019年		2018年	
	利用者数	開設コマ数 /開催回数	利用者数	開設コマ数 /開催回数
理系科目[窓口利用]	1,011	59コマ	729	52コマ
英会話[1on1 & WS]	449	18コマ	489	18コマ
ライティング[窓口利用]	224	12コマ	52	10コマ
ライティング[セミナー]	216	19回	262	30回
日本語会話[WS]	243	57回	55	30回

※その他、学習イベントなど 273名

2019年度重点目標とその概要

①対応と企画発信の連動・循環

- 窓口によらない学習支援の拡充と、窓口利用促進を狙い、
1)講義棟内のポスター掲示、2)SNS等を用いて情報発信
- センターHP内の学習情報ブログ「学びのヒント by SLA」に、
20記事を掲載

②正課教育との連携強化

- グローバルゼミへの出前授業(教員)
- 授業と連携したライティング支援(教員・ライティングSLA)

③留学生支援の基盤構築

- 「日本語会話」ワークショップの拡大実施 (企画SLA)
- 留学生に対する日本語ライティング支援 (ライティングSLA)
- 英語による理系窓口対応(物理・数学・化学SLA)

①「対応と企画発信の連動・循環」の成果

- 学内のポスター掲示や、SNSを用いて情報発信
 - 「今月の物理の学習ポイント」(物理SLA)
 - 「有機化学の理解のポイント」(化学SLA) など



- 窓口利用者の増加

- 理系科目 利用者実数

257名 (2019年度) ← 224名 (2018年度)

- 英会話 利用者実数

91名 (2019年度) ← 73名 (2018年度)

①「対応と企画発信の連動・循環」の成果

- 「学びのヒント by SLA」での学習記事掲載



<http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp/learningtips/>

記事閲覧数ランキング (2019.4.1~2020.3.11)

記事名	科目／分類	閲覧数
1 広義積分の計算方法とその理解の仕方	数学／ 学習ポイント	7,079
2 Suicaはどうして電池なしで改札と通信できるのか？	物理／コラム	1,163
3 日本の建物が地震で簡単に崩壊しないように設計するための物理量	物理／コラム	762
4 中心力運動	物理／ 学習ポイント	354
5 英会話カフェへの招待	英語／コラム	318

②正課教育との連携強化

• 授業との連携によるライティング支援

- TGLプログラム「グローバルゼミ」(Gゼミ)への出前授業
 - 前期4クラス、後期2クラス
 - 各クラス:1コマ90分
- 連携授業に関わる窓口利用数の増加
 - 連携授業:「グローバルゼミ」(6クラス)
基幹科目「人間と文化」(2クラス) ほか
 - 日本人学生の利用者数の増加(延べ人数)
143名(2019年度) ← **31名**(2018年度)
 - 特に、複数回利用する学生が増加



• 出前授業を利用したGゼミ教員からのフィードバック

教員A)

多くの学生が、参考文献の表し方等の比較的習得しやすいテクニカルな点から、アウトラインの作り方やパラグラフライティングの方法などの、より本質的なライティングへの取り組み方まで、多くの学習成果があったことがリフレクションシートに書かれ、実際に2回目の小レポートにその成果が表れた。

教員B)

出前授業前後の学生ライティングを比較したところ、ほとんどの学生が「序論・本論・結論」を意識した構成に改善されていた。

教員C)

出前授業導入の顕著な効果はライティングの形式面に現れており、出前授業前と後の担当教員によるライティングの評価を見比べ、受講学生自身も可視できるような出前授業の効果がありました。

③留学生支援の基盤構築

- 留学生向けの各活動を拡大して展開し、いずれも利用者数が大幅に増加

- 日本語会話の利用者数(延べ人数)
243名(2019年度) ← 55名(2018年度)
- ライティングの留学生利用者数(延べ人数)
81名(2019年度) ← 21名(2018年度)
- 理系科目の留学生利用者数(延べ人数)
約30名(2019年度) ← 数名(2018年度)



その他、様々なイベント企画を実施

- 「レポート指南書」入門ゼミ
 - センター教員が、レポートの書き方を全3回でレクチャー
→延べ参加者数: 216名 (計19回開催)
- 哲学カフェ「かんがえるソファ」
 - 「当たり前」を問い直し、学生同士で対話するイベント
→延べ参加者数: 125名 (計14回開催)
- 美術館鑑賞ツアー「美術館の楽しみ方、教えます！」
 - 宮城県美術館との共同企画。学芸員と常設展示を鑑賞
→延べ参加者数: 35名 (計4回開催)
- TUJP × SLA 「Language Exchange」
 - 短期留学プログラムの学生と、日本人学生との交流企画
→参加者数: 42名
- 学びの転換セミナー「アートから学ぶ創造的思考」
 - アーティスト・山本高之氏をゲスト講師に招いたセミナー
→参加者数: 32名



学習支援センター（SLA サポート）2019 年度活動報告 （詳細版）

1. 2019 年度 SLA サポート事業重点目標とその成果

<p>①対応と企画発信の連動・循環：窓口対応の知見を活かした学習情報・教材の積極的な発信 →SLA のホームページ「学びのヒント by SLA」や、ポスター、SNS での学習記事発信拡充 http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/learningtips/</p> <p>②正課教育との連携強化：授業と連携したライティング支援、「レポート指南書ゼミ」出前授業 →グローバルゼミ等と連携、出前授業の拡充</p> <p>③留学生支援の基盤構築：留学生ライティング支援、日本語会話の発展 →日本語会話の拡大実施、留学生の日本語ライティング支援、留学生に対する理系支援の増加</p>

2. 2019 年度 SLA サポート体制・利用状況

1) 2019 年度 SLA 人数

【前期】SLA 数：43 人（新規 16 人）

【後期】SLA 数：36 人（新規 1 人）

＜表 1-1-2. 2010～2019 年度 SLA 人数推移＞

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
前期	21	38	37	36	46	62	50	52	33	43
後期	30	37	37	37	49	55	55	45	39	36

（単位：名）

2) 2019 年度 SLA サポート利用数

【前期】全利用者数：延べ 1,393 人（1 活動日当たり 18.3 人）

【後期】全利用者数：延べ 1,021 人（1 活動日当たり 13.8 人）

【年間】全利用者数：延べ 2,414 人（1 活動日当たり 16.1 人）

2) 理系科目支援：昨年度とは異なる科目ごとの利用傾向

- 利用者数：前後期とも、直近の3年間では最も多い利用者
- 利用傾向：
 - ◆ 「解析学」「線形代数学」などの数学関連科目（昨年度増加）の利用者が、さらに増加。
 - ◆ 「物理学A・B」「数学物理学演習I」の物理関連科目（昨年度大きく減少）の利用が、回復。
 - ◆ 留学生の利用が増加（後期の「物理学A」など）。
- その他：学生が窓口に来なくても利用できるよう、学習情報の発信活動を拡充。
 - ◆ 昨年度センターHP内に開設した、「学びのヒント by SLA」に20本の記事を掲載。
Ex. 「広義積分」記事：アクセス最多、後期で約7,400ビュー。全国からアクセス有。
 - ◆ 「今月の物理の学習ポイント」「身近にある物理現象の仕組み」「有機化学の理解のポイント」などを情報発信（ポスター掲示およびSNS配信）。

＜表 1. 2012～2019 年度利用者数等変遷 理系＞

	2015	2016	2017	2018	2019
前期（延べ）	1,545	972	468	441	625
後期（延べ）	786	762	332	288	386
合計（延べ）	2,331	1,767	800	729	1,011
合計（実数）	517	356	240	224	257
開設コマ数	126	112	68	52	59

＜表 2. 2015～2019 年度 科目群別利用者のべ数比較 理系＞

科目群(授業)名	2015	2016	2017	2018	2019	増減
物理	553	463	247	138	271	+133
数学	736	666	285	349	436	+ 87
化学	309	181	82	98	112	+ 14
自然科学総合実験	98	82	21	52	45	- 7
数学物理学演習	619	359	155	90	136	+ 46

＜表 3. 所属別利用者数（実数） 理系＞

	2018	2019	増減
文	0	3	+ 3
教	2	2	± 0
法	4	2	- 2
経	2	3	+ 1
理	50	59	+ 9
医	3	9	+ 6
歯	11	5	- 6
薬	0	4	+ 4
工	125	155	+30
農	27	15	-12

＜表 4. 学年別利用者数（実数） 理系＞

	2018	2019	増減
1年	175	181	+ 6
2年	39	65	+26
3年	5	4	- 1
4年	1	4	+ 3
その他	4	2	- 2

<表 5. 2019 年度前・後期別上位 8 授業の利用者のべ数比較 (対 2018 年度) 理系>

前期	授業名	2018	2019	増減	後期	授業名	2018	2019	増減
1	数学物理学演習 I	44	86	+42	1	線形代数学 B	28	60	+32
2	解析学 A	75	85	+10	2	解析学 B	37	59	+23
3	物理学 A	41	74	+33	3	数学物理学演習 II	48	49	+ 1
4	化学 A	54	64	+10	4	物理学 B	14	46	+32
5	物理学 D	28	60	+32	5	情報数学	5	30	+25
5	線形代数学 A	26	42	+16	6	自然科学総合実験	14	13	- 1
7	自然科学総合実験	38	32	- 6	7	物理学 A	0	12	+12
8	数理統計学	20	23	+ 3	8	電磁気学 I 演習	4	11	+ 7
					10	化学 C	23	9	-14

3) 英会話支援：利用者数は前年度水準

- 実施形態 複数人参加型の「英会話カフェ」とマンツーマンの「1on1」
 - ◆ 新規利用者獲得・利用促進のため、前後期 2 回ずつ「英会話カフェ体験会」を開催。
 - ◆ 新たに「一人で行える英会話練習の方法」を教える取組を行い、多くの新規利用者が参加。
- 利用傾向
 - ◆ 昨年度に比べ、前後期とも利用者実数は増加したものの、延べ利用者数は減少。

<表 6. 2012~2019 年度利用者のべ数変遷 英会話>

	2015	2016	2017	2018	2019
前期 (延べ)	427	312	306	242	232
後期 (延べ)	224	206	180	247	217
合計 (延べ)	651	518	486	489	449
合計 (実数)	150	130	110	73	91
開設コマ数	46	44	30	18	18

<表 7. 所属別利用者数 (実数) 英会話>

	2018	2019	増減
文	17	15	- 2
教	4	7	+ 3
法	5	5	± 0
経	7	9	+ 2
理	10	12	+ 2
医	8	6	- 2
歯	1	1	± 0
薬	1	1	± 0
工	16	29	+13
農	4	4	± 0
情報	0	1	+ 1

<表 8. 学年別利用者数 (実数) 英会話>

	2018	2019	増減
1 年	34	36	+ 2
2 年	14	30	+16
3 年	12	6	- 6
4 年	4	7	+ 3
その他	9	11	+ 2

4) ライティング支援：窓口利用者の大幅増

- 個別対応型支援（窓口型）
 - ◆ 前期は、複数の授業との連携を行った影響で利用者が大幅増。
 - ◆ 前後期とも、留学生による日本語チェックを中心とした利用が大幅増（計 81 件）。
- 企画発信型支援（イベント型）『レポート指南書』入門ゼミ
 - ◆ ライティングセミナー（センター教員が担当）を、2つの時期に計 15 回開催。参加者は延べ 191 人。昨年度の 1 回 45 分×6 回シリーズから、1 回 90 分×3 回シリーズに変更。
 - ◆ 中国語圏出身の留学生向けに、中国語解説による日本語ライティングのセミナー（センター教員が担当、1 回 90 分×2 回シリーズ）を 2 度開催。参加者は延べ 25 人。
- 授業連携型支援：出前授業を実施
 - ◆ TGL プログラム「グローバルゼミ」に対して、レポートの書き方についての出前授業 1 コマ（90 分）を実施（センター教員が担当、前期 4 クラス、後期 2 クラス）。

＜表 9. 2015～2019 年度利用者のべ数変遷 ライティング＞

A. 個別対応型支援（窓口型）						B. 企画発信型支援（イベント型）					
	2015	2016	2017	2018	2019	2015	2016	2017	2018	2019	
前期（延べ）	54	34	68	31	146	-	40	84	262	202	
後期（延べ）	21	27	35	21	78	17	-	4	-	14	
合計（延べ）	75	61	103	52	224	17	40	88	262	216	
合計（実数）	68	56	70	37	111	-	-	-	-	-	
開設コマ数 ／開催回数	29	21	14	10	12	5	9	47	30	19	

＜表 10. 出前授業に関する教員からのフィードバック ライティング＞

<p>❖ 成果</p> <p>教員 A) 多くの学生が参考文献の表し方等の比較的習得しやすいテクニカルな点から、アウトラインの作り方やパラグラフライティングの方法などの、より本質的なライティングへの取り組み方まで、多くの学習成果があったことがリフレクションシートに書かれ、実際に 2 回目の小レポートにその成果が表れた。</p> <p>教員 B) 出前授業前後の学生ライティングを比較したところ、ほとんどの学生が「序論・本論・結論」を意識した構成に改善されていた。複数の学生が出前授業後に学習支援センターを利用したとのことで、学生の継続的なセンターの利用を期待している。</p> <p>教員 C) 出前授業導入の顕著な効果はライティングの形式面に現れており、出前授業前と後の担当教員によるライティングの評価を見比べ、受講学生自身も可視できるような出前授業の効果がありました。</p> <p>教員 D) 出前授業内では、よくある間違いの例などを示しながら、何が間違いなのかを学生に答えさせていたが、そのような機会を通じて学生の理解が深まったように感じる。ライティングの中では、特に、フォーマットについてや、パラグラフライティングなどといった基本的な構成で改善されたところが多かったように感じた。</p> <p>❖ 要望</p> <p>教員 A) 英語でのアカデミックライティングは、日本の研究力を牽引する総合大学としての東北大学において将来の研究者を育てるために必須の指導項目の一つになりますので、ぜひ貴センターでの実現を将来に向けてご検討いただければありがたいです。</p>

5) 留学生向け日本語会話支援：週2回の企画として定期開催

- 実施形態 複数人参加型のカフェ形式による日本語会話支援
 - ◆ 昨年度から毎週の定期開催としている。今期は日本語会話支援担当のSLAを2名から4名に増員し、週2回（1回あたり60分）定期開催。
 - ◆ 各回について「敬語」「季節」「オノマトペ」など緩やかなテーマを設定して、そのテーマを事前にポスター等で告知。
- 利用傾向
 - ◆ 昨年度に比べて利用者が大幅に増加。
 - ◆ 4分の3以上の利用者が、中国または台湾の中国語圏出身者。
 - ◆ 研究生が4割弱を占める。所属学部・研究科は多様。
 - ◆ 約4分の3が複数回利用となっており、高いリピーター率となっている。

＜表 11. 2018～2019 年度利用者数等変遷 日本語会話＞

	2018	2019
前期（延べ）	21	99
後期（延べ）	34	144
合計（延べ）	55	243
合計（実数）	20	50
開催回数	30	57

6) 学習企画・イベント：学習イベントの拡大・定期実施

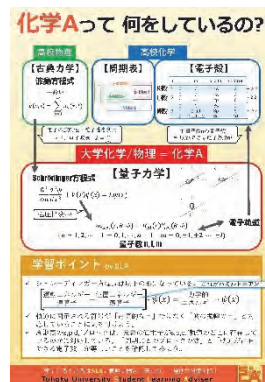
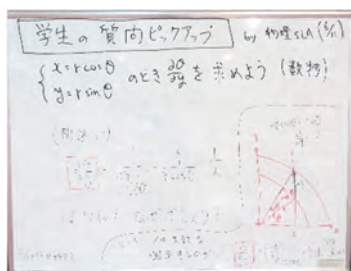
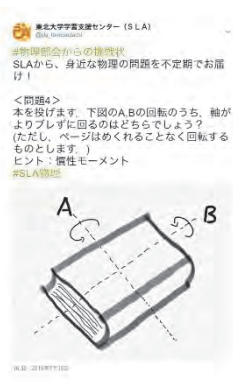
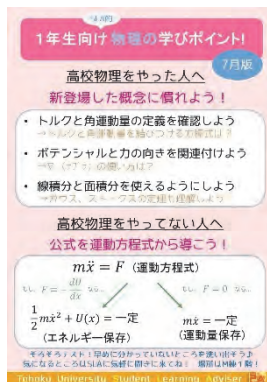
- SLAによる企画・イベント
 - ◆ 「SLA 体験 week」：4月の授業期間の初週（平日）の昼休み～3講時の時間に、SLAの活動を知ったり、体験したりする会を開催した。履修相談等に訪れる1年生が多かった。
 - ◆ 「かんがえるソファ」（イベント）：火曜・水曜の16:30～17:30を中心に開催（各回60分）。普段「当たり前」だと思っているような何気ないことについて、学生同士で考え対話する企画。後期は全学教育の授業とも連携して実施。
 - ◆ 「TUJP×SLA Language Exchange」【新規】：あまり日本人学生と接する機会を持たない短期留学プログラムTUJPの留学生と、日本人学生の交流を目的とした企画（90分）。ワークショップ形式で、日本語・英語のいずれも使ったコミュニケーションの場を設けた。
 - ◆ 「美術館の楽しみ方、教えます！」（イベント）：宮城県美術館と連携した新企画。全3回実施（各回120分）。「美術館に興味はあった最初の一步を踏み出せなかった人」を主たるターゲットに、学芸員のガイドのもと、対話を通して美術鑑賞を行う機会を提供した。
 - ◆ 「チャレンジボード」（常設型）：SLAラウンジ内に自由書き込み型の掲示板を設置し、問題を出し合うなど学生同士の知的交流の場を創出。

＜表 11. 2018～2019 年度 学習イベント利用者数＞

企画名	2018		2019	
	利用者数	開催回数	利用者数	開催回数
SLA 体験 week（旧：SLA 雑談会）	18人	5回	39人	3回
かんがえるソファ	27人	12回	8人	4回
TUJP×SLA Language Exchange	—	—	42人	1回

7) 学習情報の発信

- 学習支援センターホームページ内「学びのヒント」にて、学習ポイントやコラム記事を発信開始
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/learningtips/>
- 主に1年生に向け、「今月の物理の学習ポイント」、「身近にある物理現象のクイズ」、「最近の質問ピックアップ」、「高校化学と化学Aの結びつき」など、教科の学びに関わる情報を発信。(ポスター掲示やSNS配信)。



- センター（教職員）による企画・イベント

◆ 「学びの転換セミナー」

- 「アートから学ぶ創造的思考」：講師は山本高之氏（アーティスト）。参加者は学部生・大学院生・教員を含め、計32人。

<表 12. 2019年度 学習イベント利用者数>

企画名	実施日数（実施日）	利用者のべ数
■ SLA 企画		
SLA 体験 week	計 3 回 (4/8~4/12)	39 人
かんがえるソファ	前期	10 人
	後期	112 人
TUJP x SLA Language Exchange	1 回 (8/1)	42 人
美術館の楽しみ方、教えます！	計 4 回 (10/29~2/6)	35 人
■ センター企画		
学びの転換セミナー「アートから学ぶ創造的思考」	1 回 (2/5)	32 人
計		273 人



『レポート指南書』入門ゼミ（初年次学生向けライティングセミナー）の様子

8) 利用学生の声：高い満足度を維持

- 利用学生アンケート（イベント除く）では、満足度平均 96.7 点（有効回答数 1,152 件）

＜表 13. 利用学生アンケート（一部）＞

- ❖ 【理系】自分が長時間悩んでも解けなかった問題を短時間で、しかも分かりやすく解説されるのは気持ちが良かったです。/正直に言うと、SLA に来てほしい解き方と答えが教えてもらえるだろうし、それを望んでいた（楽しかった）という面はありましたが、「供に考える」という姿勢がブレずにしっかりしていて、相談して頼りつつ成長できたと思う。
- ❖ 【英会話】すごく楽しく英語に触れることができました。自分ももっと話せたらもっと楽しくできると思いました！/英語でたくさん話すのは久しぶりだったのでとてもいい機会になった。日本語がわかる人もいるのは英語が苦手な自分も安心した。
- ❖ 【ライティング】とてもわかりやすく教えてくださったので、実際にレポートを書く際のイメージや構想が練りやすかったです。/目の前で自分のレポートを見てもらうのは初めてだったのでとても緊張しました。とても丁寧に見て指摘してもらえたので、勉強になることが多かった。次のレポートも相談したいと思います。
- ❖ 【日本語会話】おもしろいけいけんだった。にちじょうあまり話すチャンスがないので、このクラスはべんりです。/パーフェクト！！I think this workshop is very useful. The instructors are very friendly and explain things patiently and nicely. :)
- ❖ 【企画イベント】
[かんがえるソファ] おもしろい意見が飛びかい、参加者も積極的参加しておりとても良い場であると感じた。/時間があつという間に過ぎていってしまう（笑）もっと話したかったなという-1。自分の持っていない意見を色々聞くことができ、自分の迷う部分を少し払えたなと感じる。
[TUJP×SLA] It was so nice to talk to the people, I am very happy :) I could also ask lots of questions to improve my japanese! This class could in the future be Held two times maybe! :) ありがとうございます！
- ❖ 【理系】あーだこーだ言いながら解き進めていく自分たちのペースに合わせながら教えてくれた。全く分からないところから理解することができました！ありがとうございました。/疑問点をピンポイントで納得できました。残りを自分で出来るように話を残してもらえたのも嬉しかったです。
- ❖ 【英会話】1on1 は初めてでしたが、本当に楽しく会話できました。英語力の向上も少し感じられました！/独力による英会話のリスニングとスピーキング能力向上について、NHK や abc ニュースなど、ユーチューブ以外の手段があるという情報が有益でした。本来であれば自分で調べて実践すれば良いのですが、これをきっかけに初めて SLA に参加し、その価値に気づきました。英語以外の教科についても、何か疑問がある時には SLA に伺ってみるのも良いのでは無いかというマインドになりました。
- ❖ 【ライティング】とても丁寧に教えていただき、自分でも分からないところわかるようになった。次もまた来たいと思えるような対応であった。/自分で書いた文章を客観的に見てもらうことで、自分では気がつかないミスにも気づくことができた。また一本の筋が通ったレポートを書くための手助けも受けた。
- ❖ 【留学生向け日本語会話】日付けの言い方を勉強しました。本当に助けた！！ありがとうございます！/SLA のみんなはとてもしんせつで、いろいろな日本語の問題をせつめいしてくれました。知らなかった言葉もいっぱい勉強しました。とてもたのしかったです！
- ❖ 【企画イベント】
[美術館] 美術館では解説を先に読みがちだったが、今回の企画の中で第一印象から興味を持って調べてみるのも面白いんだと感じた。/皆さんの好きな作品と自分のと全然違って、それらの理由を聞くのが楽しかったです！学年が上がっていくと、他学部の人との関わりも減ったので、こういうイベントすごくいい経験だと思っていました。また、学芸員の方かな、と S L A の方に親切に説明して頂いたので嬉しかったです。
[かんがえるソファ] 「忙しい」について考えをすごく深められた感じがしました。/ばく然としたテーマでやはり難しかった。1人で考えるのは好きだが他の人の意見を聞くのも面白いなと思った。

3. 部会活動報告

|| Summary ||

■各部会の活動概要

①物理部会

窓口対応では、利用者の特性に応じた対応を工夫することができた。留学生の利用が少しずつ増えてきたのは望ましいが、SLA側が英語でのコミュニケーションに十分に対応できない場合もあり、文化的背景の違いも含めて、相互理解が難しい面があった。情報発信については、Twitter、ホワイトボード、ポスターなど様々な媒体で積極的に発信することができた。

②数学部会

SLAサポート事業における窓口対応の質の改善と、対応外での情報発信活動の2つに注力した。成果として、ビデオレフレクションを効果的に活用できた点や、新しい企画・実施に挑戦する事ができた。課題としては、まだ利用者が少数に留まっているため、利用促進について今後検討していく必要がある。

③化学部会

学習情報をコンパクトに、かつ分かりやすく発信するため、Twitterやポスター掲示などの手段で工夫を凝らすことができた。また、これまでにない企画にも取り組んだが、参加者が限定的だったのは課題である。また、今期は部会内のコミュニケーションの重要性を実感する面も大きく、LINE等を活用する等、改善を図ることができた。

④ライティング部会

2019年度は授業連携により、ライティング窓口の利用者が急増すると共に、留学生の利用も徐々に増えてきた。利用者の増加により、経験値が蓄積した反面、SLA内で十分にピアレビューをしたり、情報発信を含む部会活動の時間を確保できなかった点は課題であった。

⑤英語部会

英会話カフェを安定的に運営すると同時に、新しいアクティビティの開発に意欲的に取り組むことができた。また、英会話SLA独自のTwitterアカウントを作成し、発信力を強化した。一方で、Twitterをどう活用していくかは課題として残った。また、ピアレビューを十分に実施できなかった。

⑥企画部会（日本語担当）

SLAの体制を拡充し、これまでの試行錯誤の実践から、留学生を対象とした日本語学習支援の基盤を構築することができた。日本語会話カフェの定期開催を実現できた。今後は1回あたりの準備に要する時間を短縮化し、より多くの時間を直接、留学生とのセッションの時間に割くことができるよう、運営を工夫していくことが課題である。

⑦企画部会（企画担当）

前年度までで「かんがえるソファ」などのイベントの定期開催ができる体制を整えることができたが、哲学カフェとしての対話の質について十分に深められていなかった。そこで2019年度は、対話の場としてのさらなる質の向上を目指して、運営や実施の内容の見直しを図った。SLAのファシリテーション力の向上と共に、ブログ更新等の情報発信にも注力できた。

1 物理部会

物理部会活動報告

理学研究科物理学専攻 博士課程前期1年
SLA 物理担当 (2019年度物理部会 部会長) 赤池 瑞生

1. はじめに

今年度の物理部会は、前期11人(学部生4人、修士生4人、博士生3人)、後期は8人(学部生4人、修士生2人、博士生2人)の体制で活動を行った。部会全体としての活動では、メンバーの入れ替わりもあったため、学生への発信活動のうち作業が重いものを抑えて、今までのやり方の見直しと新しいやり方の模索を行った。窓口対応では、昨年度と比較して実験レポートの対応が減少した代わりに、今まで少なかった留学生からの質問が増えたと感じる一年だった。

2. 部会活動概要

窓口対応を除いて、特記すべき活動は主に3つある。(1)1年生向けの授業の進度にマッチした発信、(2)ツイッターを用いた物理部会自体の広報、(3)SLAの活動の新たな方向を探索するためのイベントの試行 この3つについて具体的な内容を以下にまとめる。

(1) 1年生向けの授業とマッチした発信

この活動の狙いは高校での勉強から大学への学びへとシフトしていく1年生に、具体的な物理の学習法とともに、大学での学習法をアドバイスすることである。具体的な活動としては、重要な学習ポイントをまとめたポスターを作成・掲示する、ホワイトボードを使って質問が多い問題の解法を説明するというを行った。これら二つの発信に共通して、1年生にとって実用的・具体的なポイントに絞って載せるという点に強くこだわった。ポスターについては昨年度の物をベースに内容を再検討して編集することが主な作業であり、スパンとしてはひと月に一枚発信するペースでポスターを掲示することができた。ホワイトボードに問題の解法を示す活動は基本的に週替わりで更新担当の曜日を決めて、各曜日のメンバーの中で問題の検討・発表を行った。ポスターを作る活動と比べて、具体的な一題を取り上げるだけで済むこの活動は運営面では大きなトラブルなく進めることができた。そのため、窓口対応の妨げにもならない、バランスの取れた活動であったように感じる。

(2) ツイッターを用いた物理部会自体の広報

この活動は物理部会及びSLAの活動自体を広報することが狙いである。学生に興味を持ってもらうきっかけを作るために、身近で、アッと驚くような物理の問題をSLAアカウントから発信した。具体的な作業としては、それぞれのメンバーが物理に関連したテーマを提案し、その中から発信しやすい内容、面白い内容について交代式の担当メンバーが中心となって問題形式にして絵をつけて発信するという活動を行った。この活動はメンバー個人の発想力に依存するところが大きく、スムーズに発信までたどり着けるかどうかの個人差が大きいというものが課題になった。これは来年度に向けた課題になる。

(3) SLAの活動の新たな方向を探索するためのイベントの試行

現在、SLAの活動は質問対応をベースに勉学についてのセーフティネット的な役目をこなすことが中心となっている。これを拡張させて、通常窓口を訪れない成績上位層をターゲットとした活動へと幅を広げる可能性を模索する、ということがこの活動のメインテーマであった。具体的なイベント内容としては、ハイレベルなテーマを事前に発表し、それについての題材を自由に持ち寄ってSLAメンバーを含めた他学生と議論する場を提供するイベントを目指した。イベント運営メンバー

の中で検討した結果以下の流れのイベントにすることになった。まず、事前問題を配布してテーマの事前知識を持ってイベントに来てもらう。加えて、学生に自由に議論する問題を持ち寄ってもらうことを目指した。そして、イベント内でSLAが用意した問題も含めて、題材を決定し、時間内で可能な限り議論を深めることにした。しかし、イベント内容を具体化することが難しく、適度なレベルの題材を見つけることが難しかったこともあり、イベント自体はほとんど参加者がゼロの結果となった。今後の課題としては、イベント内容を具体的にしつつ議論を深める場をどう作るかという点が課題である。これは来年度以降のSLA全体の課題でもある。

3. 定例ミーティング記録

一年を通してミーティングでは、主に各発信内容やその方向性の議論を行った。

- 第1回（4月）昨年度までの方向性の確認と具体的な作業方針の共有
- 第2回（6月）発信ネタとその進捗の共有
ホワイトボードを使って問題の例示をする活動の提案・検討
- 第3回（7月）発信ネタの共有。ビデオリフレクション
（複数対応、一般的な対応の振り返りと共有）
- 第4回（8月）直近の窓口対応の傾向の共有
前期の部会活動の振り返りと、後期への課題共有。企画イベントの提案・検討
- 第5回（10月）後期の発信活動の方針と具体的なテーマの共有
情報共有のためのSlackの導入についての提案
- 第6回（11月）発信活動の進捗共有。Slackによる情報共有の仕方の再確認
企画イベントの課題と今後の議論
- 第7回（12月）留学生対応が増えてきたため、対応時のポイントの共有
企画イベントの総括。歳差運動の事例検討
- 第8回（2月）今年度、前期後期を通しての課題・成果の共有
ともそだち本の物理部会のページの編集についての方向性の確認

4. 成果と課題

今年度の部会活動では新しいことへの挑戦が多かった分、課題も多く見つかった一年であった。特に大きな課題は、発信活動時のマネジメントである。今年度はいくつかの発信活動を行ったが、それに共通して発生した問題は安定して発信内容を作ることであった。というのも、ポスターの作成などの手を動かす作業は不規則に発生する窓口対応の合間を縫って進めないといけなものであり、最低限のクオリティを担保したうえでコンスタントに作業を進めるのは非常に困難であった。この不安定性を乗り越えるために、どうしてもシフトの曜日などに応じて、個人の作業重量に差をつけざるを得なかった。作業をできるだけ均質に振りながらも、進捗を安定させるマネジメントの探索が来年度への課題である。

今年度のメンバー一人一人の成果としては、個々人で窓口対応の方法を身に付けようという気概を高く保てたことがある。ミーティングなどで部会全体として対応方法を深める機会は少なかったものの、窓口にて問題が生じたケースはほとんどなかった。これは物理部会という枠にとらわれずに、メンバーが対応方法を深める姿勢を保っていたために他ならないだろう。

部会全体としての成果は、幅広い手段による発信活動を行うことができたことである。これは課題と表裏一体でもあるが、ポスター・ホワイトボード・ツイッターによる発信活動を通して、それぞれの方法の功罪を実際に確認することができた。これらの活動の影響力については来年度中に評価することが必要であるが、なにかしらポジティブな効果を生んでいるはずである。以上が今年度の物理部会活動を振り返っての課題と成果である。

物理部会の活動報告

2019年度後期 活動報告会

①-1学生対応：今期の総括

前期の学生の特徴

- ・ **基本的なことを教えると納得**
内容を深めることをあまり求めない
- ・ **直観的な説明** > 数式での説明
数式に不慣れ



- ・ 大学での難しい&不親切な授業への**戸惑い**
- ・ 分かりやすい解説で**少しでも分かったような感覚が欲しい**（特に直観的な部分）

イメージ重視で、授業についてける安心感を与えるような対応

後期の学生の特徴

- ・ 9月入学の**留学生**がたまたま利用
Web Work を大量に持ってくる
- ・ 難しめのレポートや数物の質問が中心
定義など**基本的な部分がダメ**なことも



- ・ 授業にも慣れ、**純粹に分からない所**を質問
自分で考える前に持ってくる場合に注意
- ・ 留学生は特に**答えだけ**を求めてくる印象

数式も多く使い、学生自身に深く考えることを促すような対応

使い分け

①-2学生対応：来期に向けて

① 工学部の授業どうする？

- ・数物演習
 - 工学部特有のテキスト
 - 理学部SLAが想定するニーズと学生のニーズとのずれ
 - 質問数が非常に多い
- ⇒数物に適した対応の開発・実践
数学部会との連携強化
- ・物理学B
 - 理物があまり勉強しない連続体力学
 - 工学部SLAの減少問題
- ⇒一緒に教科書を読みつつ理解する
工学部・地物・天文SLAの知識を生かす

② 留学生の対応どうする？

- ・留学生対応の特徴
 - 大量のWeb Work：平均5～6問対応
 - 授業が多く、時間をかけた対応が難しい
 - 自分ではあまり考えずに持ってきて、SLAに解かせつつ考えていく印象
- ・留学生対応の難しさ
 - 英語でのコミュニケーション
 - SLAの理念を説明できない
&理解してもらえない
 - 文化の違いによる相互理解の難しさ
- ⇒英語部会との協力が必要？
留学生対応を一度真剣に議論する必要がある

②-1 発信に関して

・Twitter

不特定多数への学習の動機付け/身近な物理を発信/8回

・ホワイトボード

フロア利用者へのSLA利用促進/よくある質問を掲載/週1回

・学習ポイントポスター

SLAの存在を知らせる/月ごとの学習ポイントを掲載/月1回

②-2 Twitter (身近な物理)

- **課題**

フィードバックが得られない

平均エンゲージメント/平均インプレッション = 56/1120

SLA側の労力が大きい

- **来期の計画案**

アンケート形式のtweetを試みる

Twitter発信をやめる

など

②-3 ホワイトボード (よくある質問)

- **課題**

“よくある質問”がない時期がある

その際、SLAが“質問”を作った→敷居を上げることにもなる

- **来期の計画案**

複数の同じ質問が来た時だけ行う

③-1 物理部会イベント実施概要

- 実施イベント
教科書が省いた物理
- イベント内容, 目標
教科書では扱わない発展的な内容（非線形振動）を参加者と議論することにより, 参加者に物理への興味を深めてもらう。
- 対象者
1, 2年生の中上位層
- 想定参加人数
5人程度
- 準備期間
8月下旬～10月下旬

③-2 物理部会イベント実施結果

- 参加人数
2人（うち1人は友情出演）
- 目標の達成度
参加者と議論するのではなく, SLAが内容を教える形になった。
1人は, 物理の新たな側面を知ることが出来たので満足と言っていた。
- 参加者の声
内容が難しすぎると, 忙しいので来る時間を作れない。
- 総括
 - ・1人に対しては, 物理の面白さを伝えることが出来たので良かった。
 - ・参加者の知識量（と時間の兼ね合いで）SLAが一方向的に教える形になったので, 内容が難しすぎた可能性あり。
 - ・参加者は想定人数より少なかったため, あまりニーズが無い層を狙っていたと思われる。
- 今後の展望
当初の目標を貫くのなら, 内容の難易度は落とさずに（参加人数は少なくなりそうだが）このまま続ける。
参加人数を増やす方向でイベントを計画するのなら, 難易度を落としてニーズがありそうな（テスト対策などの）内容を扱う。

2 数学部会

数学部会活動報告

理学研究科数学専攻 博士課程後期 1 年
SLA 数学担当 (2018 年度数学部会 部会長) 浅野 喜敬
理学研究科数学専攻 博士課程前期 2 年
SLA 数学担当 森 祥仁

1. はじめに

今年度は計 8 名で活動を行った。数学部会構成員の内訳は以下の通りである：博士 3 名、修士 2 名、学部生 3 名 (博士 1 名、学部生 2 名が新加入)。専門の内訳は幾何学 2 名、代数学 2 名、解析学 3 名、自然言語処理 1 名であり、各分野がバランスよく揃い、応用分野にも対応できる年度であった。

2. 部会活動概要

今年度の数学部会は「対応の見直し、Tips の利用、数学の情報発信」を目標として活動した。以下、前期・後期に分けて概要を報告する。

(1) 前期の活動

前期の部会活動において特筆すべき活動としてビデオリフレクションがある。ビデオリフレクションとは、SLA の対応を録画し反省・改善を促す活動である。具体的な活動内容は、普段の対応時の様子をビデオで撮影し、次の観点を重視して対応を振り返るというものである。

- ・オープニング (利用学生との対面・挨拶等のコミュニケーション・学生の対応に使える時間の確認)
- ・コンサル (質問内容の聞き取り及び学生の分からない点の把握)
- ・対応時の SLA の様子 (対応時、学生への配慮は適切であったか)
- ・クロージング (対応のまとめ・対応終了時の円満なコミュニケーションは達成されていたか)

今年度は録画した全映像のうち、重要だと思われる部分を定例ミーティングで共有し、議論した。その結果、良い対応は数学 SLA 全員に共有され、悪い対応についても全員で議論し改善できた。この中で挙げられたよい対応の 1 つに、「SLA がほとんど発話・誘導することなく学生自身が疑問を解消することができた」対応がある。このような事例は SLA が目指す対応の 1 つであり、共有されたことは数学部会において非常に意義があると考えられる。

(2) 後期の活動

特筆すべき活動として以下の 2 点が挙げられる：

1. HP に掲載するための記事の作成、
2. 学部 1、2 年生に挑戦してもらいたい問題の作成・発信。

以下、順を追って概要を述べる。

1. SLA の HP に「学びのヒント」というページがある。学びのヒントは新入生が躓きやすい話題を SLA が対応経験を活かしてわかりやすく解説するという趣旨のもと運営されている。様々な分野の話題が解説されているが、特に数学に話題を絞ると 7000 件以上のアクセスがある。そこで、学びのヒントに新たな話題を追加することは新入生の学びの貢献に有用であると考えた。具体的には微積分学や線形代数学のうち、初学者が躓きやすいポイントをいくつかピックアップし、記事を作成した。作成の際には、これまで SLA が数年間の対応で蓄積された対応のコツ集である Tips を参考にした。Tips は SLA が持つ知見の継承を目的として作られたものであったが、今年度には広報・発信活動にも用いられ、SLA の対応をよりよくする以外の用途でも活用できることが分かった。
2. 数学部会 SLA は窓口対応が主な活動である。これは質問に来た学生に対して SLA が答えるという受動的な対応であり、学生の能動性に期待せざるを得ないものである。また、「数学を専門にして

はないが、数学の問題を考えるのが好きだ」という学生はあまり SLA を利用しない傾向にある。

このような事情から「SLA からの挑戦状」という活動を開始した。これは様々なバックグラウンドの学生に積極的な学びを促すことを目的としている。具体的な内容は、SLA による自作問題を掲示し、解答を窓口に提出してもらい添削・コメントをして返却するというものである。問題は難易度別に SLA ラウンジに掲載されており、どの段階の学習者であっても利用できるように配慮を試みている。

3. 定例ミーティング記録

今年度は前期 3 回、後期 3 回の計 6 回、定例ミーティングを開催した。前半に情報共有・事例検討を行い、後半にビデオリフレクション・発信素材の検討を行った。各回の詳細は以下の通りである。

- 第 1 回（4 月 10 日） 各メンバーの自己紹介を行い、今後の定例ミーティングの準備の方法、およびミーティングの進め方について確認した。また、次回ミーティングのビデオリフレクションに備えて各自の対応を録画しておくことが決定した。
- 第 2 回（6 月 3 日） 前半は情報共有、後半はビデオリフレクションを行った。各 SLA の対応を全員で振り返ることで良い対応のために必要なものは何かという話題の議論を行った。
- 第 3 回（7 月 22 日） 前半は情報共有と事例検討、後半はビデオリフレクションを行い、最後に前期の活動について総括した。前期は窓口対応に追われて発信活動が出来なかったことが指摘された。
- 第 4 回（10 月 16 日） 後期最初の定例ミーティング。前半は夏休み中の活動を共有し、後半で発信素材の検討をした。夏休み中の活動として HP に掲載予定の記事作成が報告され、発信素材として SLA からの挑戦状が提案された。
- 第 5 回（11 月 18 日） 前半は情報共有・対応検討、後半は SLA からの挑戦状作成の詳細に関する議論および問題作成の進捗報告に充てられた。現在の挑戦状のシステムが決定した。
- 第 6 回（1 月 17 日） 前半は情報共有・対応検討、後半は発信素材作成の進捗報告および「ともそだち本」に掲載する記事の内容・作成者に関する議論に充てられた。ともそだち本の記事の内容・作成者を決定した。

4. 成果と課題

今年度は SLA の対応改善と発信活動を主目的として活動した。その成果として

1. ビデオリフレクションの改善、
2. HP に掲載するための記事作成、
3. 数学部会からの挑戦状

が挙げられる。

数学部会全体で、録画した対応映像を振り返ることで本人が気づきにくい長所・短所を議論することが出来た。結果として数学部会の窓口対応を改善できた。

また記事作成・自作問題の出題によって、学習環境・意欲の向上を積極的に促す土壌を作り上げた。学習者への積極的な情報発信は（数学部会内では）目立った前例のない活動であり特筆するに値する。


残された課題として、SLA からの挑戦状の周知がある。SLA からの挑戦状は後期から始めた活動ということもあり、解答者が少ない（現在 4 名程度）。来期は SLA からの挑戦状を積極的に周知することで、SLA の利用を学習者に促すことが重要であると考えている。

数学部会の活動報告

2019年度後期 活動報告会



報告内容

1. 目標と成果
 2. それぞれの成果と課題
 3. 来期の目標
- 

1. 目標と成果

目標	成果
● 対応の質の向上	1. ビデオリフレクション 2. 事例検討
● Tipsの活用・改善	3. Tipsの改善と学びのヒントの作成
● 対応の合間にできる発信	4. SLA数学部会の挑戦状

成果1. ビデオリフレクション

今まで: 本人が一人で反省 → 今回: 部会みんなで検討

□良かった点

1. 普段見られない、他の曜日のメンバーの対応を知ることができる
2. 雑談の仕方や表情まで、幅広い部分のヒント・アドバイスがもらえる

□改善すべき点

- 人によってはカメラが音を拾えず検討のしようがない
- 一人一人の対応を見ようとすると時間がかかる



成果2. 事例検討

□検討例

1. 計算が重すぎるwebworkの対応
2. 多人数の対応で理解力に差がある時の対応

□成果

- SLA間に対応の方法を共有でき、対応の幅が広がった

成果3. Tipsの改善と学びのヒントの作成

過去に作られた**Tipsの誤りの発見・修正**



修正したTipsをもとにHPIに載せる記事を作成
重積分の記事などは多数のアクセス！（6400 view）

成果4. SLA数学部会の挑戦状

概要

- 数学部会で問題を作成・提示し、提出された解答を採点
- 学生の数学への興味を促進させ、窓口利用増も狙う

成果

- 採点&コメントは、合間に行う作業として丁度よい
- 問題のストックもたまった

課題

- 回答者は2名と伸びなかった→周知不足？
- 数学部会として他の発信もすべき？→Twitterなど？



3. 来期の目標・やりたいこと

1. 挑戦状を周知する
2. 挑戦状以外の発信を考える

- オススメの参考書の紹介など……？



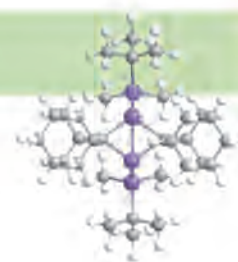
2019年度 後期
化学部会活動報告

報告内容

1. 1年を通じた化学部会の活動に関して
 - 1-1. 化学Aに関するポスターの作成（前期）
 - 1-2. 昨年からの引継ぎ－Twitterでの化学Cに関する投稿（後期）
 - 1-3. 化学Cに関するイベント（通称－中村企画, 後期）

2. 来年度に向けての課題および引き継ぎ事項

化学Aに関するポスターの作成（前期）



成果

- ・化学Aまとめのポスター作製
- ・ビデオリフレクション

課題

- ・コミュニケーション不足
- ・当初の予定（月1回）と大きく異なる結果（前期1回）
→キャパオーバー
- ・なんだかんだみんなビデオ撮ろうとしない

改善策

- ・LINE導入（後期～）
- ・キャパ（人数的な問題）を見直してもう少し余裕をもつ
- ・選り好みせず撮ろう

Twitterでの化学Cに関する投稿（後期）

成果

- ・11月から週1ペースでtwitterを投稿（～140字+画像4枚）
- ・同時進行で投稿素材を作成
→三上2コ, 能沢3コ
- ・昨年までの貯蓄素材と合わせて9コのテーマに関する投稿ができた

課題

- ・慢性的な時間不足による素材作成ペースの低下および推敲不足
- ・昨年と比較して投稿に対する反響は小さかった



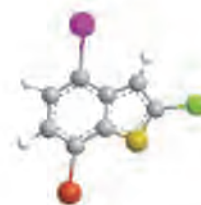
Twitterでの化学Cに関する投稿（後期）

改善策

- ・枚数やデザイン等を事前に取り決めておき、推敲の必要回数を減らす
- ・学びのコンテンツやブログ等に切り替えていくタイミング…？

課題

- ・慢性的な時間不足による素材作成ペースの低下および推敲不足
- ・昨年と比較して投稿に対する反響は小さかった



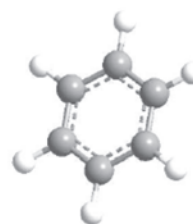
中村企画（後期）

成果

- ・つまづき分野”共鳴”について
内向きには具体的な対応例、
外向きには利用促すポスター
- ・新しい試みだったが今年度中に納得いく形にできた
- ・部会LINEがそこそこ機能した

課題

- ・それほど利用者が多くなかった
- ・企画自体の形の部会合意に時間がかかった



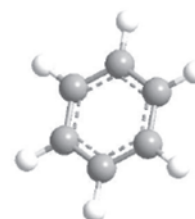
中村企画（後期）

改善策

- ・ 新たな発信案の検討
ex.) "数学科からの挑戦状"スタイル

課題

- ・ それほど利用者が多くなかった
- ・ 来年度は早い時期から発信を
- ・ 企画自体の形の部会合意に
時間がかかった



来年度に向けて

**■引継ぎ事項**

1. Twitterの素材作成（残4コ）
2. 化学Aのポスター見直し（発信は6月下旬を予定）

■新規活動案

1. 学びのコンテンツ
2. 化学Aに関する発信（挑戦状形式を予定）

ライティング部会報告

2020年2月20日(木)
後期活動報告会



2019年度後期活動報告会 ©Writing in A Room, Center for Learning Support(CLS) Support, Keio University 執筆指導部会誌



成果 窓口対応

- 対応件数の増加
留学生+日本人学生(授業連携)
- 対応の質の向上
対応件数の増加+情報共有+分業制

2019年度後期活動報告会 ©Writing in A Room, Center for Learning Support(CLS) Support, Keio University 執筆指導部会誌



成果 部会活動

- 対応前後の変化分析
対応後に授業で提出されたレポートを対象に、
対応で伝わりやすい・伝わりにくいカテゴリを分析

伝わりにくいカテゴリ: 引用に関わるもの

夏の延長戦～後期全体。来月、京大フォーラムで発表

2019年度後期活動報告会 ©Writing in A Room, Center for Learning Support(CLS) Support, Keio University 執筆指導部会誌



課題 窓口対応

- 授業連携以外の日本人学生の利用少
窓口利用を促進するよい方法はあるか？
- ピアレビューができなかった
少数精鋭部会では難しい？

2019年度委員会活動報告書 Writing SLA Team, Center for Learning Support(SLA Support), Tohoku University 留学協働部会誌



課題 部会活動

- 変化分析の結果の現場活用△
学会発表以外に、部会の後進への引継ぎ
- ライティング通信が出せなかった
対応が忙しく、シフトでの部会ToDoはほぼ進捗せず

2019年度委員会活動報告書 Writing SLA Team, Center for Learning Support(SLA Support), Tohoku University 留学協働部会誌



Tohoku University | Student Learning Center | 2-6-608-21, 2-6-610-10 | Together we learn, Together we grow. TDM0400A0117

ご清聴ありがとうございました♪



2019年度委員会活動報告書 Writing SLA Team, Center for Learning Support(SLA Support), Tohoku University 留学協働部会誌



5 英語部会

英語部会活動報告

薬学部 4年

SLA 英語担当（2019 年度英語部会 部会長） 水野 彩子

1. はじめに

今年度の SLA 英語部会は、博士課程前期に所属するメンバーが 2 名、学部学生が 5 名というメンバー構成で始まった。なお、そのうち留学生が 1 名、日本人学生が 6 名であった。後期からはメンバーが 1 名加わり、博士課程前期の学生が 3 名、学部学生が 5 名というメンバー構成となった。なお、そのうち留学生が 2 名、日本人学生が 6 名であった。

今年度の英語部会では、Slack での連絡の開始や英語部会 Twitter の作成等、新しいシステムの導入が活発に行われた。

2. 部会活動概要

今年度の SLA 英会話利用者は例年に比べ、1 年生が少ない傾向が見られた。そのため英語部会としても新規獲得に焦点をあてた活動が多い一年間であった。

(1) Twitter を使った発信

今まで英語部会は構内に張り出すチラシや学務情報システムでの発信が主であった。しかし、より日常的に発信ができるという点から英語部会で Twitter アカウント作成し、発信を始めた。課題としては、発信が不定期であることや、Twitter 管理担当の SLA がいないことが挙げられた。今後はセメスターの最初に全 SLA から発信するコンテンツを予め集めておき、それを担当 SLA が定期的に発信していくといった工夫が必要であると考えられる。

(2) 利用者ニーズの分析

利用者アンケートの電子化を行い、アンケート実施後に SLA も蓄積されたデータが見やすいようにした。また例年と比べて英検や TOEIC 等資格試験の勉強をきっかけとして SLA を利用する学生が目立ったため、「英語の勉強法」を学ぶ曜日を設定し通常の英会話以外の入り口を設け、より多様なニーズを持った学生が利用するきっかけを作った。

(3) 新規利用者向けイベントの実施

通常はセメスターの最初にのみ実施する英会話体験イベントを多く行った。また、実施場所も M 棟のみではなく屋外でも行い、新規獲得に力を入れた。またイベント実施の告知を学務情報システムで行うことが有効であることがわかったため、今後も利用するべきだと考えられる。

3. 定例ミーティング記録

今年度の定例ミーティングでは例年通り、各曜日の状況や日々の対応の中で気になった事を共有する「情報共有」、議論したいことや共有しておきたいことをあらかじめ設定しておき、その項目について時間をとって話し合う「事例検討」の 2 軸を中心に行った。

■ 第 1 回（4 月）

第 1 回目の部会ミーティングでは、活動の概要説明および部会長の決定を行った。新規 SLA が比較的多かったため、活動のイメージを作ることが中心となった。

■ 第 2 回（6 月）

第2回部会ミーティングでは、「情報共有」が行われた後、特に「アンケートと活動記録書類の電子化」「英会話体験会の実施」「Slackの利用」について話し合った。今年度は5月中旬から新規利用者が少なくリピーターが多い傾向にあったため、新規獲得のため6月末に体験会を実施することを決定した。

■第3回（7月）

第3回部会ミーティングでは、主に「Slackの利用について」「カフェの運営」について話し合った。カフェの運営では過去のtipsやピアレビューシートの確認をし、ファイルで保存されているディスカッションの話題のレベル分けや話題選びの注意点について議論した。

■第4回（8月）

第4回部会ミーティングでは、「ピアレビュー」「利用学生の傾向、ニーズ」「部会活動の振り返り」「夏休みおよび来期の活動予定案」について話し合った。学生の傾向としては中～上級のリピーターが多く、新規が比較的少なかった。また書類の電子化はかなり進められた。

■第5回（10月）

第5回部会ミーティングでは「夏休み中に行った活動」「前期の課題」「後期行う活動」について話し合った。前期の課題としては「リピーターとの1on1での話題選び」が挙げられ、対策としては毎対応前にヒアリングシートを確認することが提案された。後期行うこととしては、①毎シフト前のTwitterでの発信、②新規利用者獲得のためのSLA体験week実施、③ピアレビューが挙げられた。

■第6回（11月）

第6回部会ミーティングでは「対応に関する情報共有」を主に行った。各曜日のSLAがそれぞれ何を行っているか、対応で困っていることと改善策を議論した。また、日本語会話に参加したメンバーから、アイスブレイクとクロージングの重要性の提案があった。

■第7回（1月）

第7回部会ミーティングでは利用者の減少について議論された。テスト期間で利用者が少ないため、試験勉強をメインとしたイベントを行う案が出た。

■第8回（2月）

第8回部会ミーティングではイベントの振り返りと今期のまとめを行った。イベントは参加者が少なかったが、学務情報システムを見て参加した学生が多いことがわかった。

4、成果と課題

今年度は、英語部会twitterアカウントの開設や新規獲得のためのイベント開催、英語の勉強法を学ぶ曜日を作る等新しい取り組みが多くなされた年であった。しかしただ新しいことを始めただけでなく、活動記録の書式の見直しのように、過去にSLAが蓄積してきたものを改善しながら活用することができた。一方で今年度の課題としては、開設したtwitterへの投稿が不定期になっていることや、曜日ごとのアクティビティの共有ができていないこと、ピアレビューがほとんどできなかったことなど、シフト間の連携が取れていないことが挙げられた。また、一年を通してイベントを多く打ち出したにも関わらず、新規利用者が少ない印象があった。来期はtwitterに関しては発信内容を予め決めておき、定期的に発信していく形式にする、部会ミーティングでアクティビティの実演による共有を行う、参加者が多いと考えられるイベント時にピアレビューを行うなどして、英語部会全体としての活動を増やしていくことを目標としたい。来年度も新しいアイデアを積極的に取り入れ、対応に活かしていけるような工夫をしたい。



Contents

- 今期達成したこと
- 課題
- 来期に向けて

今期達成したこと



- 1 Twitterアカウントの作成
- 2 新しいアクティビティの開発
- 3 新しいニーズの発見



今期達成したこと

1 Twitterアカウントの作成

目的

- ・SLA英語部会の知名度を上げる
- ・新規利用者を増やす

現状

- ・英語の豆知識発信
- ・シフトが始まる際の担当者挨拶
- ・2019年9月アカウント開設 (7フォロー/53フォロワー)

今期達成したこと

1 Twitterアカウントの作成

人気のあったツイート



SLA 東北大学SLA委員会
委員会 自由人Akiyoshi

高校生の時にワサビのつーんとした感覚を英語でどういふのか知りたくて、ワサビのりというお菓子をカナダ人のALTにあけて味の感想を聞いたことがあった。「This bites my nose(鼻を噛む)」と涙目で教えてくれた。僕の知的好奇心のために被験者にごめんねDan(彼はワサビが苦手ということも知れた)。

9番? 45 - 2019年11月13日

14 リツイート 40 いいね

今期達成したこと

1 Twitterアカウントの作成

クイズ形式



東北大学SLA委員会 @SLA_Anglish 2019年11月13日

【Quiz of the Day】
前回のアンケート結果からクイズの定番率が低かったため、リベンジです！

以下に英語単語はいくつあるでしょうか？

- ・サインペン
- ・赤鉛筆
- ・ノートブック

回答は昨日の14:00ごろまで！

全て英語！	0%
1つ	29.8%
2つ	58.3%
すべて英語単語！	29.8%

今期達成したこと

2 新しいアクティビティ開発

現状

曜日ごとにアクティビティの特徴があった

曜日	内容
月	ゲーム
火	アイスブレイク開発
水	留学アドバイス
木	プレゼン練習
金	英語自主トレ

今期達成したこと

3 新しいニーズの発見

経緯

英検・面接対策のためのSLA利用が多かった

↓

SLAが把握していなかったニーズがあった

↓

他にもSLAが把握していないニーズがあるかも？

今期の課題

- 1 英会話Twitterが活用できていない
- 2 ピアレビュー未実施
- 3 利用者ニーズが不明

今期の課題

1 Twitter活用

課題

- ・不定期更新
- ・フォロー・フォローバック担当者がいない

>アウトリーチができない
 >フォロワー数も伸び悩む
 >自然消滅しそう...



今期の課題

2 ピアレビュー


現状

- ・センターに相談し、いつでもピアレビューできる環境だった
- ・シフトは基本一人なので別の人が事前に日程を決めて入る必要があった

課題

誰もピアレビューしなかった

>シフト間での活動内容の理解が深まらなかった
 >他者の意見をふまえた自分の対応を反省できなかった



今期の課題

3 利用者ニーズが不明

現状


初回利用者にはヒアリングで目的確認
大半は「英語を話したい」など漠然

課題

利用者のニーズを反映する対応ができない

>リピーター獲得が困難

英語を話したい



来期に向けて

- 1 Twitter活用
- 2 ニーズの分析
- 3 ピアレビュー



来期に向けて

1 Twitter活用

月～金の定期的な発信

>担当者を任命
 発信内容を事前に作成割り当て




来期に向けて

2 ニーズの分析

SLA英会話にどんなニーズがあるのか調査
ex)英語学習?プレゼン?テスト対策?

>利用者アンケートに項目を追加・集計
 >ニーズの高いコンテンツを集中的に実施




来期に向けて

3 ピアレビュー

前学期やるやると言ってやらずじまいになってしまった

>体験ウィーク時にする
 毎日二人ずつ組んで、その日の活動を評価

>アクティビティ共有が可能になる



2019年度 日本語会話後期活動報告

企画SLA: 鏡耀子 工藤さやか
松谷凌雅 高山翔園

目次

1. 目標と結果
2. 開催状況
3. 良かった点
4. 工夫した点
5. 課題点と対策
6. 来期に向けて

目標と結果

今年度の目標

昨年出来上がった型を活かしながら、さらに発展させよう

結果

今年度の実践で発展させ、日本語会話の安定した型をつくることができた
落ち着いた開催ができるようになってきた

開催状況

	2019年前期	2019年後期
実施回数	28回	29回
参加者数（延べ数）	99人 （平均3.5人）	144人 （平均4.9人）

約1.4倍

流れ

- ①Opening talk（アイスブレイク）
例）Good & New、嘘を混ぜた自己紹介、共通点探し、他己紹介、自分の性格を漢字一文字で表すなど
- ②Main Activity（会話）
トピック例）社の都仙台、旅行、年末年始、川柳、日本語学習、フリートーク
- ③Reflection（まとめ）

- ・利用者の特徴：研究生が多い。学部は多様。
中国・台湾出身者が多いがブラジルやインドなども。
- ・後期は終了後の雑談が盛り上がった。

良かった点

- ①**利用者が多かった。**
(広報のタイミング◎、リピーターの獲得に成功)
- ②**メインとサブの役割交代をスムーズに行えた。**
- ③**宗教上の配慮ができた。**
- ④**シフトが流動的になったことで、多くの参加者、SLAと関わることもできた。**
- ⑤**事前に決めた時間配分や内容に縛られすぎず、余裕を持って進行ができるようになった。**
- ⑥**アイスブレイクが多様になった。**
(日本語の練習の要素も含めることができた)

工夫した点

- ①**雰囲気づくり**
 - ・ 教師と生徒ではなく、友人同士のような話し方や会話内容を心掛けた。
 - ・ 参加者がつまづいたときこそ笑顔でいるようにし、安心感のある場になるよう意識した。
- ②**カルテの導入**
 - ・ 利用者の雰囲気、好きなもの、留意点(宗教等)を記録するようにした。
 - ・ 開始前に目を通しておくことで、リピーターの対応時に役に立った。
- ③**振り返りの共有**
 - ・ 終了時には毎回MTGを行い、その内容をメーリスで共有した。
 - ・ SLA同士で対話することにより、客観的な反省ができた。
 - ・ 他の曜日の様子が分かって参考になった。

課題点と対策

①レベルが高い参加者への対応

- ・SLAが自信を持って回答できない質問がくる

②グループ分けの方法

- ・参加者のレベル差を考慮した分け方の指針がまとまっていない

★これまでの振り返りをもとにTipsを作成することで対応

③新規の日本語会話SLAの育成

- ・メインとサブを両方こなすというスタイルをどのように継承するのか

★メインorサブを単体で担当してもらう今まで通りの育成+Tips

来期に向けて

①日本語会話の1on1の実施

- ・日本語運用能力が高くない参加者への対応の一案

②個人カルテの改善

- ・カルテに書き込む情報を統一する
- ・カルテを電子化することで、いつでも編集・確認ができるようにする

③日本語会話のGoogleドライブの作成

- ・カルテを電子化して保存することで、日本語会話の最中にも確認できるような状態を整える

④他部会との情報共有

- ・かんがえるソファや美術館企画、英語部会との情報共有がしたい

哲学カフェ「かんがえるソファ」



美術館の楽しみ方、教えます！



企画SLA 2019年度後期活動報告

西塚孝平 鈴木志保 飯田司

2020/2/20

2019年度後期SLA活動報告会（企画SLA）

1

今期の目標と成果

（西塚）

目標	成果
前期同様の場づくりの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・遵守できた（Ex: 90分開催・メモの活用/思索の軌跡・資料の活用・ビデオ撮影&録音・ファシリ&グラフィック&参加者の3人体制・イベント後に感想を聞くなどの声かけ） ※開催日時が日本語会話と重ならないように
利用者増	前期4回計8名→後期14回計124名（のべ）
ビデオ・リフレクションの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼできず ※開催数の増加のため
ファシリテーション&グラフィックのスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的に哲学カフェ等に参加した ・回数を重ねたことで自信が生まれた
ブログを随時更新する	概ね達成（ https://kikakusiatohoku.wixsite.com/sla-project ）

2020/2/20

2019年度後期SLA活動報告会（企画SLA）

2

かんがえるソファ

(飯田)

★目的

「当たり前」「常識」と思って普段考えることのないような身近なこと
⇒「常識」を問い直し、他者の考えや経験を踏まえて考える

★内容

他の参加者との対話

⇒自分一人の経験からでは得られない深い理解を得る

ただし、討論のようにベストアンサーを求めるものではない



今期テーマ(例)

2019年11月7日 『「つまらない」についてかんがえる』

2020年1月24日 『「空気を読む」についてかんがえる～なぜKYではダメなのか?～』

2020/2/20

2019年度後期SLA活動報告会(企画SLA)

3

かんがえるソファ

(飯田)

11/19(水)かんがえるソファ

16:20-16:35 アイスブレイク
16:35-17:35 かんがえる時間
17:35-17:50 スピーチタイム

グラフィックの一例
(グラフィッカー: 鈴木志保)

図やグラフの作成

意味の微細な違い

経験に基づく具体例

構造化による思考の整理

2020/2/20

2019年度後期SLA活動報告会(企画SLA)

4

かんがえるソファ

(飯田)

★成果

全14回の実施・延べ124名の参加

⇒佐藤先生の授業関連での参加が多く、授業とは関係なく来てくださる方も

→複数回参加することで、対話形式に慣れる

→参加者を2か所に分ける

→参加者によるファシリ

⇔回数を増やしたことで、一回一回の実施について振り返る時間が
あまりとれなかった

2020/2/20

2019年度後期SLA活動報告会(企画SLA)

5

美術館の楽しみ方、教えます！

(鈴木(志))

★目的

せっかく美術館が近くにあるのに、
「いつかは行きたいけど機会が...」「なんか敷居高いなあ」
→もったいない！美術館をもっと身近に感じてもらいたい！

★内容

- ・解説なしで常設展を自由鑑賞、「気になる作品」を一人一つ選ぶ
- ・選んだ作品について一人ずつ発表し、感想を周りシェア
- ・学芸員の方から解説

実施日時	参加者数
10月29日(火) 13:00-14:30	9名
12月3日(火)13:00-14:20	8名
12月5日(木) 13:00-14:20	9名
2月6日(木)13:00-14:30	9名

2020/2/20

2019年度後期SLA活動報告会(企画SLA)

6

美術館の楽しみ方、教えます！

(鈴木(志))

★成果

- 毎回定員いっぱいの参加者獲得
- 昨年度からの継続開催実現
→ イベント進行・空気づくりがスムーズにできるように
イベントのイメージが学芸員の方にしっかり伝わっていた
- 方針転換が成功
昨年度と今年度の初め: まずは解説つきで鑑賞→感想シェア
今年度12月以降: 解説なしで鑑賞→感想シェア・解説
→ 前知識を入れない方が素直な感想を引き出した
より参加者の興味・関心に合った解説をして頂けた

2020/2/20

2019年度後期SLA活動報告会(企画SLA)

7

来期に向けて

(西塚)

★ カルテ作成による活動と振り返りの一体化

★ 利用者を増やす試み

① ディベート&哲学対話

- ✓ 高齢者に席を譲るべきか→老いとは何か
- ✓ 大学に教養教育は必要なのか→教養とは何か

② 参加者: ファシリテーター・グラフィッカーも希望選択OK!

③ チャレンジボードでテーマを随時募集

④ オリエンテーションで宣伝・各学部/研究科棟でポスター掲示等

★ Tipsの更新とこまめな共有(活動前の意識づけ)

① アイスブレイク集の整理

② 「良い問い」の作り方を探求(初発の問いの考え方など)

③ 美術館企画のマニュアル作成

★ 部会横断型の企画

2020/2/20

2019年度後期SLA活動報告会(企画SLA)

8

4. SLA の採用と育成・研修実績報告

|| Summary ||

■ SLA 採用

2019 年度は、前期 43 名、後期 36 名の体制で活動を行った。そのうち新規採用は、前期採用 16 名、後期採用 1 名であった。

■ 活動説明会・リフレクション会・活動報告会

活動説明会（前期・後期）では、今年度の重点目標として「1. 対応と企画発信の連動・循環」「2. 正課との連携強化」「3. 留学生支援の基盤構築」の 3 つを挙げた。第 1 の点は、SLA サポートで受け入れられる学生数には限りがあるため、窓口に来なくても利用できる学習支援の機会を拡充すると共に、窓口の利用促進をねらいとしたものである。第 2 は、近年重点化してきている留学生の学習支援を引き続き拡充していくという方針である。以上の方針を各セメスターの活動説明会にて全 SLA に共有し、リフレクション会や活動報告会では、先だって各部会でのふりかえりを行った上で、各重点目標に沿いながら活動の全体的なふりかえりを実施した。

■ 夏期研修

夏期研修は、①前期セメスターの活動の振り返り、②大学教育、学習支援に関する知識習得、③センター内部での交流と課題等の共有を目指し、SLA 全体のチーム力を高めることを目的としている。2019 年度は、「対応の“+α”を考えよう！」というテーマで実施した。参加者は 28 名（参加率 78%）と、例年と比べても高い参加率であった。

■ 北海道大学との合同研修の実施

2019 年度は、2 月に、北海道大学ラーニングサポート室の教職員及び TA 学生 6 名の皆さんに本学に来ていただき、合同研修会を開催した。SLA からは 5 名の学生（担当：数学、物理、英会話、企画）が参加した。

■ 学びの転換セミナー

近年、アートの視点や文化の学びを、研究・教育やビジネスにつなげていくことの重要性・有効性が各所で叫ばれている。その一方で、アートとはそもそもどういうものであり、私たちはアートを通して何を学ぶことができるのかということについて、未だ共通の見解はないように思われる。

そこで、芸術文化に関わる研究を行ってきた当センター所属の 2 教員に加え、これまで「教育」の問題をテーマにした作品制作を行い、国際的に活躍している現代美術家・山本高之氏をゲストに招き、アートを通じた学びについて考えるセミナーを開催した。

1 SLAの採用・育成

(1) 採用の概要

SLAの採用募集は、一般公募の形で行っている。SLAからの推薦・紹介での応募もあるが、採用までの流れは一律であり、近年は Semester末（前期 7~8月、後期 1~2月）を基本の募集・採用期間としている。

募集から採用の流れは、次の通りである。

①募集説明会：

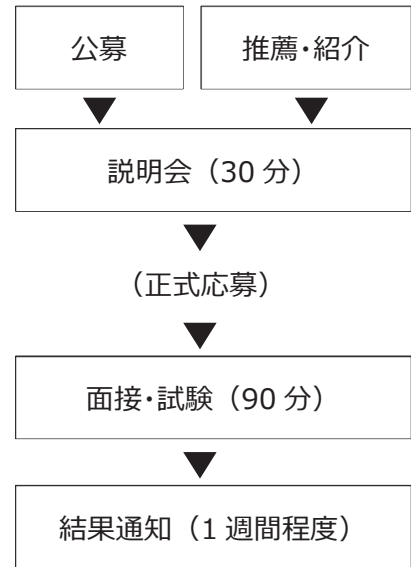
SLAの活動に興味を持った学生に向けて、まず30分程度の「説明会」を開催する。SLAの活動の様子を知ってもらい、希望と実態のミスマッチを防ぐ目的である。

②正式応募（一次書類審査）：

説明会后、正式応募する意思のある学生には、エントリーシートと一緒に、一次審査課題を提出してもらう。

③面接・試験：

学生に対して、個別に「面接+試験」を実施する。「面接」は約30分の所要時間で、a)志望動機、b)支援（教育）観、c)学習観、d)人柄や能力に関する幅広い質問を行う。その後、約1時間の所要時間で「試験」を実施する。「試験」は、理系・ライティング・英語によって形態が異なるが、筆記試験は一部であり、口頭試験を多く取り入れている。

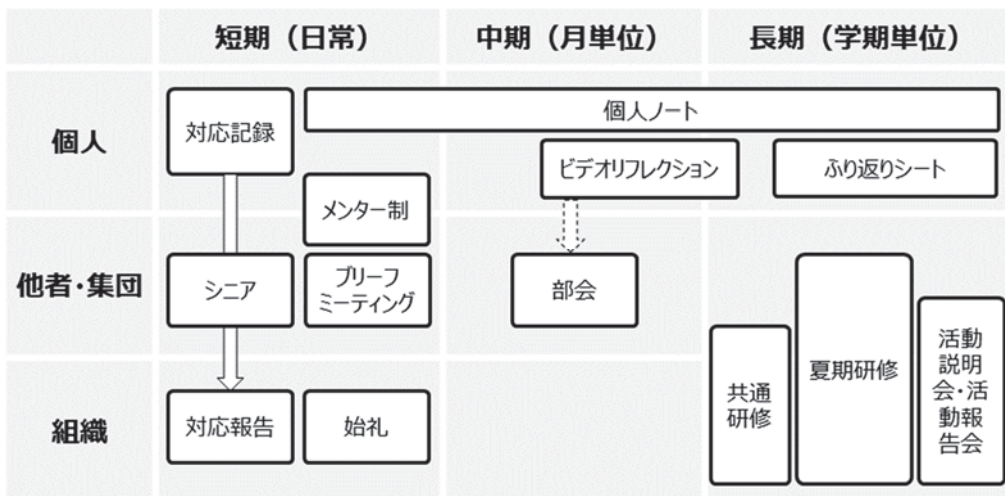


<図 1-2. SLA 採用までの流れ>

(2) 育成の概要

育成活動はOJTを中心としながら、Off-JTも組み合わせる形で整備を進めている。現状の全体像は下図に示す通り、個人・集団（グループ）・全体の単位と短期的・中期的・長期的の研修活動を組み合わせる形で、SLA育成に関わる活動を組織している。

全体を通して、「振り返り」「学び合い」をキーワードとしながら、SLA同士が自立的に学び合う持続可能な組織運営と学習支援の質保証・維持向上を図る体制を構築している。



<SLA 育成に関する取り組み全体図>

SLA 育成の取り組み概要は以下の通りである。

- **初任者研修会**：学習支援に関する基礎的な知識・スキルを学ぶ「初任者講習」（約 1 時間半）を活動開始前～初期の時期に実施。
- **初任者向け OJT 研修**：OJT としては①他者（主にメンター）の対応の観察記録、②自身の対応のビデオリフレクション、③自身の対応について他者（主にメンター）からコメントをもらうという 3 課題を、新規採用時の 1 セメスターをかけて実施。
- **メンター制**：世話役の先輩 SLA がメンターとなって新規メンバーのフォロー・育成を行う体制。
- **シニア SLA**：SLA 内の自律的成長を促進するため、主に後輩 SLA の育成や SLA 活動改善に寄与する役割を担う先輩 SLA。
- **始礼**：週の初めの勤務時に、前週の情報共有・連絡伝達を行う。
- **対応記録作成・報告**：学生対応ごとに記録を作成し、自分自身の活動をふり返るとともに、センタースタッフや他のメンバーと情報を共有するための資料とする。
- **ブリーフミーティング**：その日の活動終了後、同じシフトのメンバー全員で行い、その日の活動の成果や反省点を共有する。チームワークを高める機会でもある。
- **部会**：SLA の担当科目（物理、数学、化学、英語、ライティング、企画）毎の集まり。①SLA の情報共有、②科目ごとの対応スキルの向上、③SLA 全体のチーム力の強化（情報共有促進を含む）を主目的とし、定例ミーティングでは情報共有と勉強会を行っている。

全 SLA を対象として、セメスターの開始時に「活動説明会」を、終了時に「リフレクション会」や「活動報告会」を開催している。「活動説明会」は当該年度もしくは当該セメスターの目標を共有することを主目的に、「リフレクション会」と「活動報告会」は当該セメスターの活動を振り返り次期活動に繋げることを主目的に行っている。どの会でも基本的にはリフレクションペーパーの記入を求めており、また欠席者にはビデオ視聴等により内容把握・情報共有を要請している。

(1) 前期活動説明会

2019年4月2日(火) 16:00~17:30に開催。出席23名、欠席7名。

2019年度 SLA前期活動説明会

2019.04.02

本日の予定

副センター長挨拶・趣旨説明 16:00-16:15

▶2019年前期メンバー+部会紹介 16:15-16:35

今年度の目標の共有 16:35-16:50

▶新メンバー自己紹介 16:50-17:05

基本事項の確認 17:05-17:20

▶WS記入・写真撮影 17:20-

活動説明会の目的

1. 2019年度のSLAの仲間を知る

- これから半年(1年)一緒にSLAとして活動する仲間について、顔と名前を覚えましょう!

2. 2019年度の学習支援センターの取組方針を共有する

- センターの一員として、SLA全体の共通目標を理解しましょう!(勤務する時に突然聞かれても答えられるようにしましょう)

3. 2019年度のSLAとしての自分を具体的にイメージする

- これからSLAとして活動していく上で、みなさん一人ひとりが行動目標を立てましょう!

SLA前期体制 43名

物理 11名	数学 10名	化学 3名	英語 8名	企画 8名
佐藤(錦) D3	三宅 D2	三上 D1	樋口 M	鈴木(あ) D2
高根 D2	浅野 D1	能沢 M	2	伊藤 D1
小沢 D1	吉澤 D1	1	米田 M	西塚 M
早坂 M	渡辺 M	中村 B4	2	2
2	2	ライティング 3名	田村 M	鏡 M
有沢 M	稲吉 M	2	2	2
2	2	玉田 D3	市川 M	工藤 B4
野本 M	森 M	木村(真) D3	2	鈴木(志) B4
1	2	伊藤 D1	韓 B4	飯田 B3
赤池 M	木村(藍) M	2	水野 B4	金 B3
1	2	2	千葉 B4	松谷 B3
早部 B4	佐藤(俊) B4	2	大槻 B4	
青藤 B4	竹平 B4			

部会紹介チャレンジ

- ・継続メンバーから、各部会とメンバーについてプレゼンテーションしてもらいます
 - ・その時、時計を見ずに、全員で**既定時間ぴったり**に終わることを目指して
- ・プレゼンテーションの中では、下記を含めてください
 - ・メンバーそれぞれの自己紹介
 - ・名前と、最低一つは趣味や好きなことを、覚えてもらえるように
 - ・部会の紹介
 - ・特徴や雰囲気、アピールポイント
- ・部会ごとのチームワークが試されます
 - ・どう進めるかも、即興的に(誰かが仕切っても、バラバラでもOK)
 - ・最後はメンバーで揃って「〇〇部会です、よろしく願います」と挨拶をして終了
 - ・終わりのタイミングはメンバー間でアイコンタクトなどをして

今年度の 目標の共有

2019年度 学習支援センター 重点目標

1. 対応と企画発信の連動・循環
2. 正課との連携強化
3. 留学生支援の基盤構築

1. 対応と企画発信の連動・循環

▶【全部会】

- ・普段の対応との連動や循環、バランスを意識しながら、発信作業を進めていこう！
- ・昨年度、部会ごとにできることを模索しながら、継続して発信できたことは大きな成果
- ⇔他方で、普段の対応とは結び付かない作業が多くなってしまったなど、様々な課題も

発信の位置づけ

◎窓口対応の知見を活かした発信

例：東北大生がつまづきやすいポイントなどを資料化

◎窓口利用を促すための発信

・例：SLA利用の敷居を下げたり、SLAに親しみを持ってもらうことを目的とした情報発信

△発信のための発信

例：窓口対応と切り離されたコンテンツの作成・発信

- ・SLAのHP内に、新ページも構築！積極的に活用していこう！



2. 正課との連携強化

▶【ライティング】【企画】

- ・昨年度に引き続いて授業との連携を強化し、より効果的な学習支援を実現していこう！
- 例えば...
- ・特定授業と連携したレポート執筆支援
- ・レポート指南書入門ゼミの出席講座
- ・教員から依頼を受けたセミナー、授業と連動した企画の開発・実施

3. 留学生支援の基盤構築

▶【ライティング】【企画】【理系】

・これまでの経験の蓄積を基にしながら、留学生を安定的に支援していく基盤を構築しよう！

【ライティング】

- ・留学生対応の知見まとめ、効果的な支援の方法を構築しよう

【企画】

- ・昨年度作り上げた日本語会話の「型」を活かしながら、さらに持続可能な形に発展させよう

【理系】

- ・できる範囲で窓口対応の件数を増やしていこう



3. 「引き継ぎ」について

・継続メンバーが持っている知見やノウハウなどを、新メンバーにうまく伝え、引き継いでいこう

- ・今年度はメンバーの入れ替わりが多いので、特に意識的に

・先輩SLAの活動の蓄積を活用していこう

- ・理系部会のTIPSや、英語部会のactivityなど、使えていない、でも有益な素材が結構ありそう。それらをうまく活用しよう。

4. 部会を越えた活動の可能性

・「様々な専門性を持ったメンバーがいる」というSLAの特徴を活かし、部会を越えた活動の可能性を探ろう

- ・シフト単位の活動の可能性
- ・企画部会と他部会との連携

その他の目標【全体編】

1. 対応について

・「教科」の対策をするだけでなく、「学習支援」の部分についても、より良い対応のあり方を考えよう

- ・特に理系部会は「専門的な知識」の部分に焦点を置きがち

⇒ピアレビューやリフレクションを部会を越えて積極的に行い、「学習支援」のスキルを高めていこう

2. 「入口のデザイン」について

1) まずはより多くの学生に知ってもらい、興味を持ってもらうこと

- ・学生の目に触れる機会やチャンネルを増やすこと(e.g., 図書館での実施、物理の学習ポイントのポスター掲示)
- ・学生の興味を引くような企画タイトルやコピー、デザイン

2) 利用の敷居や、参加のハードルを下げること

- ・気軽に利用・参加しやすい雰囲気づくり
- ・初めての人が来やすい企画(e.g., 英会話カフェ体験week)

3) 初回参加者に、「また来てほしい」「また来たい」と感じてもらえるようにすること

- ・対応の質を上げること、ちょっとした声かけや雑談の重要性
- ・カフェや企画の中では、初回参加者に特に配慮を！

その他の目標【各部会編】

【理系】

- ・対応スキルの向上が第一。特に、教科よりも学習支援のスキルを高めよう
- ・対応と結び付いた発信案を考え、継続的に展開しよう

【ライティング】

- ・留学生支援の知見をまとめよう
- ・授業連携を通して、対応の質を向上させよう

【英語】

- ・うまく引き継いで、より良いやり方を探ろう

【企画/日本語】

- ・昨年出来上がった型を活かしながら、さらに発展させよう

新メンバー自己紹介

新メンバー・・・16名

物理	有沢 洋希	ありさわ ひろき	理 / 物理学	M2
	重藤 真人	しげふじ まさと	理 / 物理学	B4
	木下 豊	きのした ゆたか	理 / 物理学	B4
	松井 理輝	まつい りき	理 / 宇宙地球物理学	B3
数学	吉澤 研介	よしざわ けんすけ	理 / 数学	D1
	木村 藍貴	きむら あいき	理 / 数学	M2
	竹平 航平	たけひら こうへい	理 / 数学	B4
	長坂 篤英	ながさか あつひで	理 / 数学	B4
化学	能沢 真由	のざわ まゆ	理 / 化学	M1
英語	市川 サラ	いちかわ さら	工 / ロボティクス	M2
	千葉 絵理奈	ちば えりな	工 / 建築・社会環境工学	B4
	大槻 俊介	おおつき しゅんすけ	経 / 経営学	B4
ライ 企業	伊藤 愛莉	いとう あいり	教 / 教育政策科学	D1
企画/日本語	飯田 司	いらいだ つかさ	理 / 地球惑星物質科学	B3
	金 亮輔	こん りょうすけ	工 / 電気情報理工学	B3
	松谷 凌雅	まつや りょうが	文 / 文化人類学	B3

基本事項の確認

1. SLAの使命

- 学生の主体的・自律的な学習を促進・支援する。
- 学生の中に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体(ラーニング・コミュニティ)の形成に寄与する。

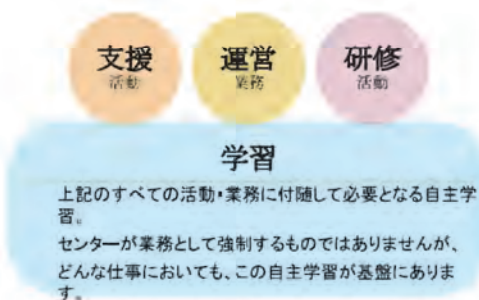
学習支援のコンセプト

ともと学ぼう、ともに育とう、ともそだち

Together we learn, Together we grow,
TOMOSODACHI!

• SLAとしての4活動

- 大学の教育活動に従事する者としての責任を持つて！



2. 勤務について

1) 基本的なマナーとして

- 明るく、笑顔であいさつを！
- 原則5分前には準備完了 & 始礼開始
- やむをえず遅刻する場合は、早めに連絡を！
(直前の場合は、原則電話で)
- 利用者のことを考え、「清潔感」をもって！
(服装、口臭、汗のニオイなど)
- 待機スペースでの「飲」はOK・「食」はNG！
- SLAとしての自分と、プライベートとしての自分をきちんと切り分けましょう。
(勤務中に学生と連絡先の交換などはしないように)

2) 勤務時に対応のない場合にやること、その優先順位

1. 1週間の情報を確認する

- ・「(今週・先週の)カルテ」を閲覧し、自分の教科でどんな対応があったか、どんな質問が来そうかを確認しておく
- ・質問が来そうな箇所について不安があれば、簡単に予習

2a. 部会のTO DOを進める／アクティビティの検討

- ・何もなければ、発信する情報のネタ作りなどもぜひ積極的に

2b. ピアレビュー／ビデオリフレクションなど

- ・特に強化週間・月間には、こちらに力を入れよう

3a. 作業の合間などに「シニア申し送り書」をチェック

3. 対応について

1) 対応時間

・対応の目安時間(理系・ライティングの基本形)

- ・ **本対応: 45~50分間**
 - ・ 待ち札が出ていなければ、必要に応じて時間延長可
- ・ **対応記録: 5~10分**
 - ・ 記録を書き終わるまでが1つの対応!
- ・ **対応の報告 経験メンバー: 5分 新規: 10分**
 - ・ 続けての対応がなければ、メンターやシニア、スタッフと一緒に対応のリフレクションをしよう

・対応の終了時刻: 基本17時40分まで

- ・ 50分からブリーフミーティングを始められるようにしよう!

2) 対応のコツ・注意点

・開始時

- ・ 話しやすい雰囲気づくり
- ・ 相手が聞きたいことを全て聞く
- ・ 相手の学習状況を把握
- ・ 対応の順序や流れ、それぞれに必要な時間などもイメージし、その日の対応の方針を相手と共有

・対応中

- ・ 「大丈夫、これは簡単だよ」は要注意。専門用語にも要注意
- ・ 注意をしたい時も、「ポジティブ言葉」に変換!
- ・ 「あいづち」が上手い人は会話上手!
- ・ 「分かった?」と聞くのではなく、説明を求めたり、手が動かしてもらって相手の理解度を把握しよう

・終了時

- ・ 利用者に時間があれば、雑談もしてみよう!
- ・ 最後の一言が次の来やすさにつながるかも!

3) アンケート

・対応終了後、忘れずにお願いをしてください

- ・ 原則、記入をしてもらっているときは席を離れるなどし、率直な意見を書いてもらえるように配慮すること

・少し改訂しました!

- ・ 「窓口(理系&ライティング)」「英会話」「日本語会話」はそれぞれ別のアンケートに!

・ブリーフミーティング前後に、ぜひ確認を!

- ・ 励みにも叱咤にもなります
- ・ 自分の対応を利用者がどう感じていたかを知る一つの方法



4. ブリーフミーティングについて

BMにおける報告内容のガイドライン

① その日に行った活動を簡単に、一言で

- ・ 「数物の対応〇件と、部会作業で△△を行いました」など

② その日の活動の中で得られた気づきや議論したいことを中心に、

些細なことでも何か1つは話せるように、予め考えておいて

- ・ 対応に関わる新しい気づき、面白かったこと
- ・ 難しかったこと、辛かったこと、もやもやしたこと
- ・ 気をつけるべき、意識すべきだと感じたこと
- ・ 他のメンバーの対応を見て感じたこと
- ・ こういうケースはどうしたらいい? という疑問や悩み など

③ シフトや部会を超えて共有すべきこと

- ・ また来そう利用者 テスト情報 など

※企画部会や4限までの勤務でBMに出られないメンバーは、スタッフに報告を!

5. メンター/シニアについて

・メンター: 新任SLAのお世話・指導役

- ・ 所属部会に関わらず、メンターは新規SLAがスムーズに適應できるよう、サポートしてあげてください!

・シニア: SLA全体のスキルアップや、組織としての成長を担うベテランメンバー

- ・ シフトやブリーフミーティングにおける助言やサポート
- ・ SLAの活動をよりよいものにしていくためのアイデアを!

※「シニア申送り書」と「日誌」を統合します

⇒シフトを超えての、情報共有と交流のプラットフォームに!

- ・ 各メンバーの日誌ページ
 - ・ その日にやったことを書こう。多少碎けた内容でもOK!
 - ・ 企画のメンバーも書いてね
- ・ ブリーフミーティングの記録ページ
 - ・ 議論を仕切るのはシニア。書記は誰かを指名してもOK!

6. 部会について

- 部会MTGの役割
 - 部会ごとの情報共有と、学びの場
 - ⇒目安として前期に4回、各回1時間20分が原則
 - 部会MTGの中身
 - シフトごとの情報共有
 - ⇒理系部会はできるだけ事前に済ませ、この時間を短く!
 - 対応の中で難しかったこと、悩ましかったことなどを共有・議論(対応の振り返り)
 - これから質問が来そうな問題を、事前に検討(対応の予習)
 - 部会として進めていくことの検討・共有
 - 対応や支援方法の相互レビュー(ビデオリフレクションなど)
 - ⇒今年はこちらを積極的に!
- ※本日の説明会の後、初回の部会MTGの日程調整をします!

7. 今年度前期の大まかな予定

- 全メンバー
- 4/4(木)~19(金) 第1回 部会MTG(部会ごとに調整)
 - 4/9(火) シフト仮案通知
 - 4/11(木) シフト決定案通知
 - 4/15(月)~8/8(木) 前期活動(窓口対応期間)
 - 8/9(金) 前期 活動報告会(全体リフレクション)
- 協力者のみ
- 4/8(月)~12(金) 新入生何でも相談会(仮)
 - 7/30(火)~31(水) オープンキャンパス

新入生向け SLA体験WEEK

- 目的: ①SLAの活動を身近に感じてもらうこと
- ②利用促進
- 開催日: 4/8(月)・10(水)・12(金)
- 12:00~14:30(昼・3限)
- 内容-時間:
 - 1)新入生何でも相談会 12:00-14:30
 - カウンターで、学習のこと、大学生生活のこと、履修のことなど、新入生の疑問や不安について、何でも相談受付
 - 2) 英会話カフェ体験会 13:40-14:30(退出自由)
 - 英会話カフェを体験する会
 - 3) SLA利用ガイダンス & 事前登録会 12:10-25・13:10-25
 - SLAの概要を説明し、SLAに事前登録

この後の流れ

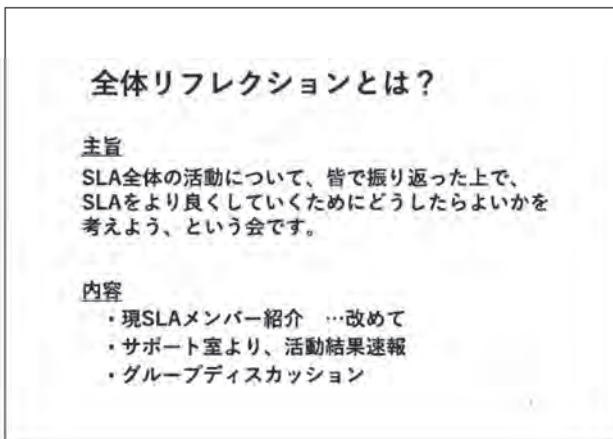
- 17:20- ワークシート記入・提出
- 17:30 写真撮影
 - 継続メンバー、主導してください!
- 18:00 懇親会に向けて移動開始!

(2) 前期全体リフレクション会

2019年8月9日（木）16:00～17:30 に開催。出席 21 名、欠席 11 名。



A	B	C	D	E
木下 B4	重藤 B4	野本 M1	有沢 M2	松井 B3
佐藤(俊) B4	渡辺 M2	吉澤 D1	森 M2	三宅 D2
中村 B4	長坂 B4	能沢 M1	玉田 D3	竹平 B4
伊藤 D1	鏡 M2	金 B3	松谷 B3	工藤 B4
市川 M2	水野 B4	田村 M2	千葉 B4	米田 M2



SLA前期体制 43名

物理 11名	数学 10名	化学 3名	英語 8名	企画 8名
佐藤(隼) D3	三宅 D2	三上 D1	樋口 M2	鈴木(あ) D2
高根 D2	浅野 D1	能沢 M1	米田 M2	伊藤 D1
小沢 D1	吉澤 D1	中村 B4	田村 M2	西塚 M2
早坂 M2	渡辺 M2		市川 M2	鏡 M2
有沢 M2	稻吉 M2	ライティング 3名	韓 B4	工藤 B4
野本 M1	森 M2	玉田 D3	水野 B4	鈴木(志) B4
赤池 M1	木村(剛) M2	木村(真) D3	千葉 B4	飯田 B3
早部 B4	佐藤(俊) B4	伊藤 D1	大槻 B4	金 B3
重藤 B4	竹平 B4			松谷 B3
木下 B4	長坂 B4			
松井 B3				



火曜日



水曜日午前



水曜日午後



木曜日



金曜日



かんがえるソファチーム



本日の参加者

物理 5名		数学 7名		化学 2名		英語 5名		企画 4名	
有沢 M2	三宅 D2	熊沢 M1	米田 M2	鏡 M2					
野本 M1	吉澤 D1	中村 B4	田村 M2	工藤 B4					
重藤 B4	渡辺 M2	市川 M2	金 B3						
木下 B4	森 M2	水野 B4	松谷 B3						
松井 B3	佐藤(俊) B4	千塚 B4							
	竹平 B4	玉田 D3							
	長坂 B4	伊藤 D1							

13

SLA 2019 活動結果速報

2018.08.09

14

理系部会 (物理・数学・化学)

15

1. 利用の状況

利用者数 (前期)	2019	2018	2017	2016
	延べ数	625	440	468
実数	196	168	174	271

・科目別利用件数 (利用者数)

	2019	2018	2017	2016
物理	141 (174)	98	153	273
数学	219 (244)	169	164	326
化学	63 (79)	51	41	112
総合実験	33 (33)	33	7	34
数物	73 (86)	39	66	135

・授業別利用件数・利用者数

授業名	2019前		2018前		2017前	
	件数	(人数)	件数	(人数)	件数	(人数)
1. 解析学A	75	(85)	62	(76)	44	(47)
2. 数学物理学演習 I	73	(86)	39	(44)	66	(75)
3. 物理学A	65	(74)	40	(41)	59	(65)
4. 化学A	49	(64)	41	(54)	16	(20)
5. 物理学D	41	(60)	27	(29)	29	(29)
6. 線形代数学A	38	(42)	24	(26)	34	(36)
7. 自然科学総合実験	31	(31)	35	(41)	7	(7)
8. 数理統計学	23	(23)	19	(20)	28	(29)

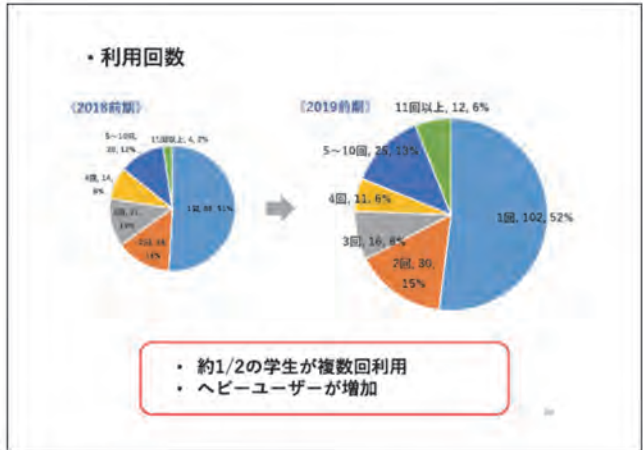
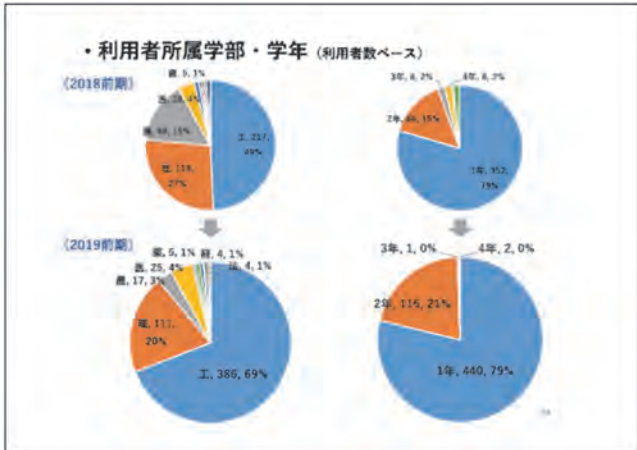
17

・質問分野別 利用者数

物理	2019	2018	数学	2019	2018
運動の概念と諸法則	27	16	1変数関数の積分	26	11
振動	24	17	線形空間	19	7
対角化 (物理数学)	20	1	数列・級数	19	32
剛体の空間運動	14	3	専門：集合論	17	3
固有値・固有ベクトル (物理数学)	13	4	1変数関数の微分	16	3

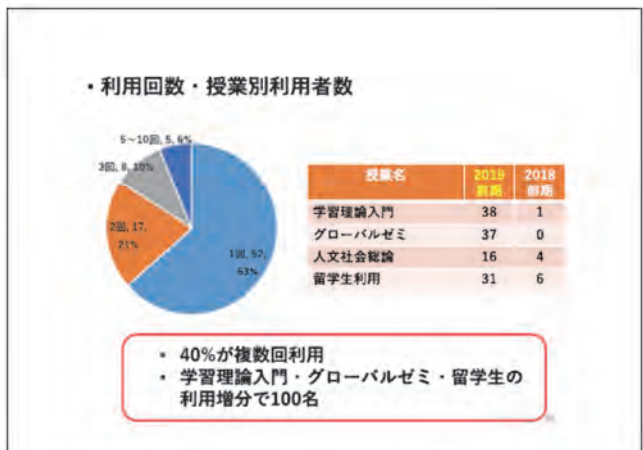
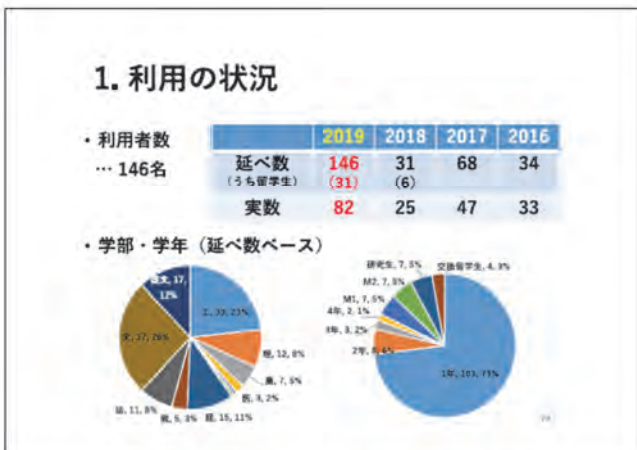
化学	2019	2018	数物演習	2019	2018
量子力学の基礎	28	17	8章 線積分・面積分	22	3
原子価結合法	13	12	2章 テイラー展開	14	12
分子軌道法	10	5	7章 重積分	13	6
			9章 勾配・発散・回転	12	5

18



対応の方法

	物理	数学	化学	実数	数物
1. 解説・説明をする	59%	55%	75%	46%	67%
2. ヒントを与えて考えさせる	41%	34%	27%	25%	27%
3. 教科書や板書/ノートを読み直す	25%	25%	47%	32%	28%
4. 参考書やサイトを探す	3%	1%	7%	11%	3%
5. 手を動かしてもらおう	32%	34%	13%	0%	27%
6. 問題を解かせる	2%	3%	0%	0%	5%
7. (利用者の解答や意見を)確認・コメントする	5%	5%	0%	14%	6%
8.一緒に考える/一緒に悩む	22%	18%	31%	43%	11%



3. レポート指南書入門ゼミ

	2019	2018	2017
第1弾 (4~5月)	154名 (全3回×3度ずつ)	244名 (全6回×4度ずつ)	64名 (全5回×4度ずつ)
第2弾 (5~6月)	37名 (全3回×2度ずつ)	18名 (全3回×2度ずつ)	18名 (全5回×2度ずつ)
中国語版 (7月)	11名 (全2回×1度)	-	-

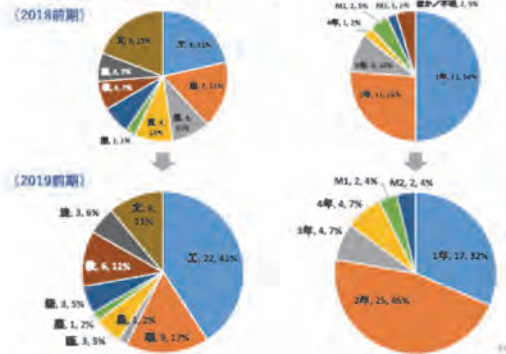
英語部会

1. 利用の状況

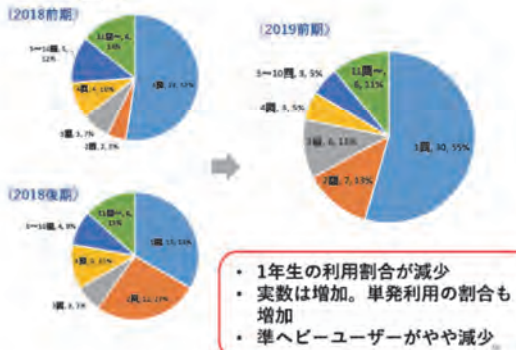
・利用者数…232名 (実数55名)

	2019前	2018後	2018前	2017後	2017前
延べ数	232	247	242	180	306
カフェ	188	182	242	171	235
lon1	44	65	9	9	71
実数	55	45	42	39	86

・学部・学年 (実数ベース)



・利用回数



日本語部会

利用後アンケート 結果概要

	回答数	平均点	80点未満率
物理	66	94.2	7% (4名)
数学	124	94.9	6% (7名)
化学	32	95.7	7% (2名)
総合実験	14	93.2	14% (2名)
数物演習	40	97.5	0% (0名)
ライティング	85	98.3	0% (0名)
英語	180	96.2	4% (7名)
日本語	93	97.0	1% (1名)

グループ・ディスカッション

これからの時間は

- 異なる部会メンバーで構成されたグループ毎に、
 - 各部会の活動について共有
 - ディスカッション

目的

- SLA全体として、どんな活動を行っているかを理解する
- 他部会から、自分の部会の活動についてヒントを得る
- SLA全体をより良くしていくために、取り組むべきことを考える

①各部会の活動のシェア (20分)

- 所属部会の代表になったつもりで、以下について1人3~4分程度で紹介してください。
 - 聞き手は、分りにくいところがあれば「突っ込み」を入れて、理解しようと努めてください

- 所属部会の雰囲気や特徴
- 今期、部会として(対応内外で)どんなことに取り組んできたか
- 今期達成できたこと、課題として残ったこと
- 今後、取り組んでいく予定の活動
- 個人としての、成果と反省

企画(かんがえるソファ)

今期の改革

- グランドルールの改訂(→具体的な行動目標を示して、参加者がどう振舞うべきか分かりやすく)
- ビデオフレクシオン、ファシリテーション研修会を実施
- 実施時間を変更 16:40-17:40 → 16:20-17:50
- 参加者に、メモ用紙「思索の軌跡」を配布(→議論の流れ・自分の考えを整理する意識をもってもらう)

来季の活動について

- 今期行った方法に手ごたえあり、来期も継続予定
- 引き続き利用者増を目指す

企画(かんがえるソファ)

従来

かんがえるソファ=何となく疑問に思っていることについて
みんなで話してみる場
⇒楽しい...一方で、議論が深まらないことも



目的意識を確認

- なるべく多くの人が納得できる新しい考え・知識を対話から生み出すこと
- 対話の中で価値観が広がったり変化したりする過程を感じてもらうこと

ディスカッションに入る前に

- ・活動説明会で取り上げた「入口のデザイン」の話、覚えていますか？

- ①まずはより多くの学生にSLAについて知ってもらい、興味を持ってもらうこと
- ②利用の敷居や参加のハードルを下げること
- ③初回参加者に、「また来てもいいんだ」「また来たいな」と感じてもらえるようにすること

- ・今日はこのうち、③に関わる議論をしたいと思います

- ①まずはより多くの学生にSLAについて知ってもらい、興味を持ってもらうこと
- ②利用の敷居や参加のハードルを下げること
- ③初回利用者に、「また来てもいいんだ」「また来たいな」と感じてもらえるようにすること

②ディスカッション (30分)

- ・各部会とも、広報活動の効果もあり、利用実数が増加しました
- ・他方、「リピーターの獲得」という部分はどうだったでしょうか？
- ・利用者に、「また来てもいいんだ」「また来たいな」と感じてもらい、継続的な利用を促すための方法を考えよう！

考えるためのステップ

1. まずは、個人や部会で意識したことや、実施して効果的だったことなどをシェア
2. 「初回利用時、こういうことがあると次も利用したいと思える」ことを、想像してリストアップ
3. 出たアイデアを抽象化し、観点別に整理！

③発表 20分

部会ごとの活動まとめ・振り返り

物理

発信系の活動

- ① 「物理部会からの挑戦状」(Twitter/6件)
- ② 「物理の学びポイント」(月ごとポスター/5-7月)
- ③ 「学生の質問ピックアップ」(ホワイトボード掲示/7回更新)

部会MTG

- ・ 発信全般についての確認と検討
- ・ ビデオリフレクション(新規メンバー中心)
- ・ 窓口対応に関する情報共有(よく来る質問、SHUの学習状況)

夏休み中：物理に関するイベント企画を検討

60

数学

発信系の活動

- ① 学生の質問ピックアップ(ホワイトボード掲示/3回更新)

部会MTG

- ・ これから質問が予想される問題の事前検討
- ・ ビデオリフレクション(ほぼ全メンバーの対応を検討)
⇒ 森メソッドの共有
- ・ 特徴的な利用者の対応方法の検討

61

化学

発信系の活動

- ① 「化学Aの学習ポイント」(ポスター/1件)
※高校の物理・化学とのつながりを意識し、化学Aの全体像と学習ポイントを示したもの

部会MTG

- ・ 化学A(量子化学)の復習(全員有機化学専門だったから)
- ・ (辛口)ビデオリフレクション
- ・ 後期へ向けて、有機化学のTwitter用資料準備

夏休み中：化学Cに関わる企画や発信案を検討予定

62

ライティング

部会活動

- ・ 連携授業(グローバルゼミ・学習理論入門)の対応方針の共有・確認
- ・ 留学生の対応方法の検討・知見の共有
- ・ 他のSLAの対応をビデオで検討

夏休み中の活動予定

- ・ 論理的思考の鍛え方に関わる知見を整理 ⇒ セミナーの実施もしくは資料化?
- ・ 文献の書き方に関わる資料の作成

63

英語

部会活動

- ・ 体験WEEKの開催(4月後半、6月後半)
- ・ Slackの導入
- ・ Googleドライブの導入(カルテの共有目的)
- ・ アンケートの電子化(Googleフォーム)
- ・ ビアレビューの実施(1人シフトのため他の曜日にも入る)

夏休み中の活動予定

- ・ 英語部会でTwitterアカウント新規作成 → 毎シフトで更新
- ・ ネタの検討、カルテの変更

64

日本語

部会活動

- ・ 開催スケジュール・テーマの検討
- ・ スキル向上のため、英会話カフェに参加
- ・ 留学生1人ひとりの参加状況や対応方針の共有
- ・ 事例検討：利用者のレベル差にはどう対処？ 迷い込んできた初級者のフォローはどうする？

夏休み中の活動予定

- ① 初級者向けの単発のイベントを検討
- ② 日本語会話のTips作成(実施にあたっての知見整理)
- ③ 来期の実施予定を決めて広報ポスターを作成(9月の留学生向けオリエンテーションで周知)

65

企画（かんがえるソファ）

今期の改革

- ・ グラドルールの改訂（⇒具体的な行動目標を示して、参加者がどう振舞うべきか分かりやすく）
- ・ ビデオリフレクション、ファシリテーション研修会を実施
- ・ 実施時間を変更 16:40-17:40 → 16:20-17:50
- ・ 参加者に、メモ用紙「思索の軌跡」を配布（⇒議論の流れ・自分の考えを整理する意識をもってもらおう）

来季の活動について

- ・ 今期行った方法に手ごたえあり、来期も継続予定
- ・ 引き続き利用者増を目指す

(3) 後期活動説明会

2019年9月27日(木) 16:00~17:30に開催。出席21名、欠席15名。

2019年度 後期活動説明会

2019年9月30日(月) 16:30-17:30
学習支援センター

本日の予定

1. 趣旨説明・新規メンバー紹介	16:30-16:40
2. 夏の活動報告	16:40-16:45
3. 後期活動目標	16:45-17:10
★終わりに	17:10-

…(全員で)コメントペーパー記入・写真撮影
…(部会ごとに)シフト確認、部会MTG日程調整

説明会の目的

- a. 今期活動メンバー顔合わせ
★新規SLA1人+復帰メンバー2人加わります!
- b. 夏休み中の各部会の活動を把握する!
- c. 「後期にはどんなことに重点的に取り組むのか?」という後期の活動目標を共有する。

1. 新メンバー紹介

新メンバー紹介

企画 (日本語)	タカヤマ ショウエン 高山 翔園	経済学部	B3
ライ	アイハラ タカツグ 相原 貴次	文学研究科	M2
英語	ジン イ (俊) (七)	工学研究科	M1

SLA後期体制 …計36名

物理 8名	数学 8名	ヒ字 3名	英語 7名	企画 7名
佐藤(俊) D3	三宅 D2	三上 D1	田村 M2	西塚 M2
小沢 D1	浅野 D1	能沢 M1	市川 M2	鏡 M2
有沢 M2	吉澤 D1	中村 B4	嶋 M1	鈴木(俊) B4
赤池 M1	渡辺 M2	ラウンジ 3名	ジン M1	工藤 B4
早部 B4	森 M2		水野 B4	飯田 B3
重藤 B4	佐藤(俊) B4	玉田 D3	大槻 B4	松谷 B3
木下 B4	竹平 B4	伊藤 D1	千葉 B4	高山 B3
松井 B3	長坂 B4	相原 M2		

【前期で終了】物/早坂、物/野本、数/福吉、英/樋口、英/米田、ラ/木村(真)、企/幹木(あ)
【一時休止】物/高橋、数/木村(真)、企画

2.夏の活動報告

【発信関連】

① 学習セミナーの企画

- 物理** ・「教科書のない物理～単振動はもう飽きた～」
…赤池、木下、重藤
- 企画 (日本語)** ・初級者向けイベントの企画
…藤、工藤、松谷

② 学習コンテンツの作成

- 英語** ・「学びのヒント」に掲載する記事の作成 …森
- 英語** ・英語学習に関する発信記事の作成 …田村、市川

【対応関連】

(対応スキル向上系)

- ライ** ・連携授業における利用者のレポート分析 …玉田、伊藤
- 化学** ・化学Cの理解を促す学習素材・企画の検討 …中村
- 英語** ・ディスカッション用のトピック整理 …田村

(運営マネジメント系)

- 英語** ・英会話のセッション記録フォーム修正 …田村
- 企画 (日本語)** ・日本語会話の運営Tipsの作成 …藤
- 企画 (日本語)** ・利用者の個人カルテフォームの作成 …松谷

3. 後期の活動目標

2019年度 学習支援センター 重点目標

覚えてい
ますか？

1. 対応と企画発信の連携・循環
2. 正課との連携強化
3. 留学生支援の基盤構築

前期説明会より

1. 対応と企画発信の連携・循環

▶【全部会】

- ・ 普段の対応との連携や循環、バランスを意識しながら、発信作業を進めていこう！

発信の位置づけ

- 窓口対応の知見を活かした発信
例：東北大生がつまずきやすいポイントなどを資料化
- 窓口利用を促すための発信
・ 例：SLA利用の敷居を下げたり、SLAに親しみを持ってもらうことを目的とした情報発信
- 発信のための発信
例：窓口対応と切り離されたコンテンツの作成・発信

前期説明会より

3. 留学生支援の基盤構築

▶ 【ライティング】 【企画】 【理系】

- これまでの経験の蓄積を基にしながら、留学生を安定的に支援していく基盤を構築しよう！

【ライティング】

- 留学生対応の知見まとめ、効果的な支援の方法を構築しよう

【企画】

- 昨年度作り上げた日本語会話の「型」を活かしながら、さらに持続可能な形に発展させよう

【理系】

- できる範囲で窓口対応の件数を増やしていこう

次のスライドからは

各部会前期活動の中から

◎大きな成果を取り上げながら
△ここは課題！を示します。

後期活動の中に

➢ 「もっと意識して活動を改善していこう！」という後期の目標を皆さんと共有します！

物理

【前期・活動の成果&課題】

- ◎対応の知見を活かし、より学生の目に触れやすい発信ができた！
- △内容更新のスピード感が出たものの、担当者以外の間で、内容の把握や事前チェックが不十分であった部分も。

【後期・部会重点目標】

- 確認し合えるワークフローを確立し、定期的・安定的に発信しよう！
- 窓口利用を促すような企画イベントを複数開催しよう！

数学

【前期・活動の成果&課題】

- ◎ビデオリフレクションを通して、個々の対応の実践知を部会内で共有・検討できた。
- △窓口対応に備える部会活動を積極的に行った一方、発信作業はほとんど着手できなかった。

【後期・部会重点目標】

- 対応の合間を活用し、個人ベースで進められる学習コンテンツを作ろう。

化学

【前期・活動の成果&課題】

- ◎少人数体制の中で化学Aの全体理解を図るポスターを仕上げた！
- △作業分担に関して、効率があまり良くなかった。

【後期・部会重点目標】

- 予定している発信素材を完成させよう。
- 作業効率を上げるための作業分担やシフト間の意思疎通の仕方を検討しよう。

ライティング

【前期・活動の成果&課題】

- ◎レポート相談に数多く対応！ またその知見を検討・共有できた。
- △例年にない忙しさで、部会活動を進める余裕がなかった。

【後期・部会重点目標】

- 引き続き、留学生支援やレポート対応の知見をまとめよう。
- 発信できるコンテンツを作成しよう！

英会話

【前期・活動の成果&課題】

- ◎体験weekやSlackでの情報共有など、実践的な取り組みをいろいろ試した。
- △新規利用者は増加したものの、リピーターの獲得には課題。

【後期・部会重点目標】

- 新規利用者が**また来たい!**と思わせる**カフェ・1on1**の運営を工夫しよう!

企画(かんがえるソファ)

【前期・活動の成果&課題】

- ◎丁寧なリフレクションで運営改善を図り、いづらか漠然としていた利用の目的やファシリテーションの姿勢が明確になった。
- △参加者数が伸び悩んでいる。

【後期・部会重点目標】

- **ファシリテーション・スキル**(論理的思考、話の整理の仕方)を向上しながら、学生の興味を引くような**「入口のデザイン」**をしよう!

日本語会話

【前期・活動の成果&課題】

- ◎週2回の定期開催が実現し、継続利用者の獲得にもある程度成功。
- △リピーターの多くが帰国、再び新規利用者を獲得する必要性

【後期・部会重点目標】

- より楽しく、また満足度の高いイベントになるよう、**トピック中心の「型」**を活かしながら、**新しいアクティビティも開発・実施**してみよう。

全体に向けた取り組み

- 発信について**
 - 対応時に利用者に伝えられるように、発信した内容を意識しよう。
 - ツイッターやポスターなど発信した内容をHP「学びのヒント」に集約しよう。
- 対応について**
 - ビアレビューやビデオリフレクションを活用して対応向上を意識しよう!
- 留学生支援について**
 - 部会を超える支援ポイントを共有し合おう。(ライティング、日本語)
 - TUJPIに限らず、language exchangeイベント検討してみよう。(英会話、日本語)
- ブリーフミーティングをコンパクトに!** ➢ 18:10までに終わらせよう!
 - 窓口対応や学生支援への気づきや困ったことを中心に報告する。
 - シフト間・部会メンバーに共有すべき情報を業務日誌に記入する。

後期の主な予定

- ・ **窓口活動**
 - 10月9日(火)~2月3日(月)
 - [年内:12月25日(水)まで/年明け:1月6日(月)から]
 - ・ **部会ミーティング** (主に窓口時間終了後)
 - 初回:10月初旬(本日調整)
 - 以降月1度程度のペースで開催
 - ・ **後期活動報告会&卒業生送迎出し**
 - 2月末~3月頃
 - ・ **各種研修**
 - 共通研修など、随時開催予定
- | | |
|--------------|------------|
| (その他) | |
| ・シフト中 | |
| 『ともそだち本』部分改訂 | …各部会 |
| 『年次報告書』執筆依頼 | …部会長・卒業生中心 |
| ・1月頃 | |
| 来期活動継続希望 調査 | …全員 |

★終わりに

1. コメントペーパー記入、集合写真撮影
2. シフト確認
3. 部会MTG日程調整

→各部会ごとに終了

(4) 後期活動報告会

2020年2月20日（木）16:00～18:00に開催。出席26名、欠席13名。

<p>2019年度後期 Semester SLA活動報告会</p> <p>2020年2月20日(木) 16:00~18:20 @SLAラウンジ 学習支援センター</p>	<h3>配布物の確認</h3> <ul style="list-style-type: none">① 学生の利用傾向速報（1枚）② 部会活動紹介（物理+数学）③ 部会活動紹介（英語）④ 部会活動紹介（化学+ライティング）⑤ 部会活動紹介（企画+日本語会話）⑥ センターからの総括⑦ コメントペーパー（1枚）
--	--

<h3>報告会（メ会）の目的</h3> <ul style="list-style-type: none">a. 後期活動のふりかえりb. 来期に向けて成果と課題の共有c. SLA終了生の送り出し	<h3>本日の流れ</h3> <ul style="list-style-type: none">① 学生の利用傾向速報② SLA活動報告（各部会より）③ センターからの総括④ 活動証明書授与 <p>★ 終わりに コメントペーパー記入&写真撮影</p>
--	---

<h3>スケジュール</h3> <ul style="list-style-type: none">16:00～ 会の趣旨説明+開会の挨拶（5分）16:05～ 学生の利用傾向速報（15分）16:20～ SLA活動報告（10分×7部会）17:30～ センターからの総括（15分）17:45～ 活動証明証授与17:55～ コメントペーパーの記入と写真撮影	<h3>① 学生の利用傾向速報</h3>
--	----------------------

理系部会 (物理・数学・化学)

1. 利用の状況

• 利用者数

	2019後	2019前	2018後	2018前	2017後	2017前
延べ数	386	625	288	440	332	468
実数	127	196	110	168	112	174

• 科目別件数

	2019後	2019前	2018後	2018前	2017後	2017前
物理	86	141	35	97	73	153
数学	160	219	121	170	109	164
化学	29	63	30	51	34	41
総合実験	12	33	14	33	13	7
数物	43	73	46	39	71	66

• 利用者所属学部・学年



• 利用回数



- 利用者実数は3年間大きな変化なし
- リピーター率が高く、特にSHUが増加
- 工学部利用者、2年生利用者が大幅増

• 授業別

授業名	2019後		2019前	
	件数	(人数)	件数	(人数)
1. 解析学B	54	(59)	36	(36)
2. 線形代数学B	51	(60)	24	(28)
3. 物理学B	42	(46)	14	(14)
4. 数学物理学演習 II	41	(48)	43	(48)
5. 情報数学	13	(30)	5	(5)
6. 自然科学総合実験	12	(13)	14	(14)
7. 化学C	6	(9)	19	(23)
8. 物理学A (主に留学生)	10	(10)	0	(0)

• 物理/数物 分野別利用件数

物理 分野	2019後	2019前
物理数学 / ベクトルの微分、線形微分方程式など	3	1
質点の力学 / 運動の概念と諸法則、相対運動など	16	5
質点系の力学 / 波、2体・多体問題など	30	11
電磁気学 / 静電場、静磁場など	16	8
流体力学 / 粘性流体の運動など	6	2
材料力学 / 歪・応力など	10	5

数物 章	2019	2018	数物 章	2019	2018
15章 / 発散と回転の応用	5	3	20章 / 偏微分方程式	3	6
16章 / Maxwellの方程式	18	10	21章 / 常微分方程式	3	5
17章 / テルタ関数	5	9	24章 / 固有値・固有ベクトル	2	1
18章 / フーリエ級数	2	2	25章 / 複素関数論	1	4
19章 / フーリエ積分・変換	1	2	26章 / 複素数の応用	2	2

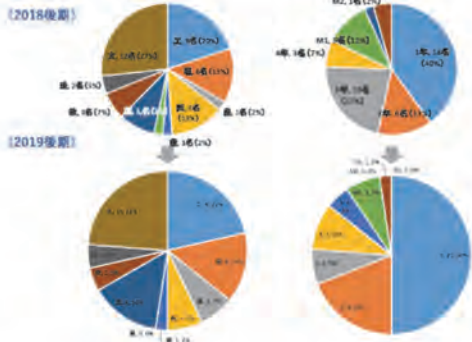
英語部会

1. 利用の状況

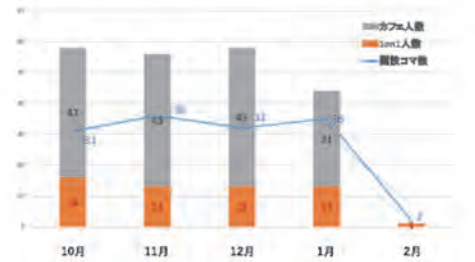
・利用者数…217名（実数41名）

	2018後期	2019前	2018後	2018前	2017後	2017前
延べ数	217	232	247	242	180	306
カフェ	161名	188名	182名	182名	171名	238名
1st	56名	44名	65名	62名	96名	71名
実数	43	55	45	42	39	86

・利用者所属学部・学年（実数ベース）



・月別利用者の推移



・利用回数



- ・特にカフェの利用者減
- ・リピーター率がやや低下

英会話の「合同自主トレ」が人気

・12月、1月に計3コマ開催。計16名



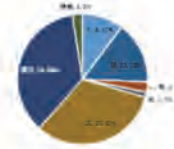
ライティング部会

1. 利用の状況

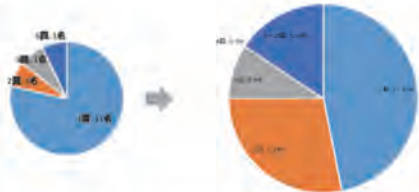
・利用者数
…78名

	2017年 延べ数 (15名/回)	2018年 延べ数 (31)	2019年 延べ数 (15)	2020年 延べ数 (6)	2021年 延べ数 (35)	2022年 延べ数 (68)
基本数	78	146	21	31	35	68
実数	32	82	14	25	23	47

・学部・学年（延べ数ベース）

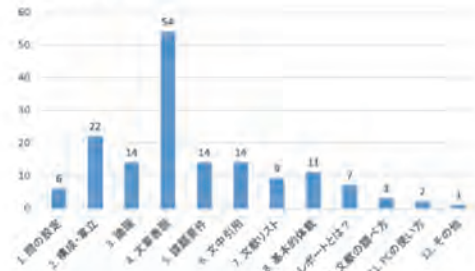


・利用回数



- ・ 利用実数がほぼ倍増
- ・ 特に留学生のリピーターが大幅増！

・ 質問内容



企画部会

1. かんがえるソファ

開催月・テーマ	開催回数	参加者数
10月 「目標を持つことにどんな意味がある？」 「やる気は必要か？」	2回	26名 (13名/回)
11月 「つまらない」「えらい」 「起きた」「うらやましい」	5回	30名 (6名/回)
12月 「社会人」「SNS」「コミュニティ」	3回	24名 (8名/回)
1月 「主体性」「時間」「空気を読む」	3回	35名 (11.7名/回)
後期計	13回	115名 (8.8名/回)

2. 美術館の楽しみ方、教えます！

開催日	参加者数
第1回 10月29日	9名
第2回 12月3日	10名
第3回 12月5日	7名
第3回 2月6日	9名
計	35名 (8.8名/回)

3. 日本語会話

開催月・テーマ	開催回数	参加者数
10月 「夏休み」「専門」「秋」 「自他勘測（初級者向け）」	7回	51名 (7.3名/回)
11月 「学校のイベント」「フリートーク」 「社の都合会」「ゲーム」	8回	88名 (11名/回)
12月 「リフレッシュ」「旅行」「年末年始」 「フリートーク」	7回	32名 (4.6名/回)
1-2月 「川柳」「フリートーク」「日本語学習」 「将来の夢」	7回	15名 (2.1名/回)
後期 計	29回	144名 参加者 (5.0名/回)

利用後アンケート 結果概要

	回答数	平均点	80点未満率
物理	40	95.3	0% (0名)
数学	88	97.7	1% (1名)
化学	20	96.9	11% (2名)
総合実験	5	97.5	0% (0名)
数物演習	11	98.0	0% (0名)
ライティング	49	99.0	0% (0名)
英語	150	95.7	1% (2名)
日本語	145	98.1	1% (1名)
かんがえるソファ	95	86.5	22% (21名)
美術館	14	92.9	0% (0名)

② SLA活動報告（各部会より）

2022.2.21 SLA事務局事務局 ©Center for Learning Support(CLSA Support),Tohoku university 事務局事務局



③ センターからの総括

2022.2.21 SLA事務局事務局 ©Center for Learning Support(CLSA Support),Tohoku university 事務局事務局



各部会への コメント

【理系支援について】 物理 数学 化学

a) 窓口対応

- ◎丁寧な対応でリピーター増加
 - ・テスト前の混雑はなかったが、利用者延べ数増加
 - リピーターの増加
 - ・コンスタントな利用だったため、時間にあまり追われることなく丁寧に対応できた

- △対応の振り返りがあまりできていない
 - ・発信作業もあり、対応報告やカルテ作成などがおろそかになりがち
 - カルテはタスクではなく振り返りのツール！

♪対応は多かったが、対応の振り返りも大事だということを意識しよう！

【理系支援について】 物理 数学 化学

b) 企画発信

- ◎「学びのヒント」の記事閲覧数が多い
 - ・閲覧数No.1 広義積分/数 (6460回～) エッセイ/フナキ
 - No.2 Suicaの仕組み(電磁誘導)/物 (730回～)
- ◎問かけ形式のポスターやホワイトボード掲示などが学生の関心を引き寄せた
- ◎窓口に来ていない利用者を想定した新企画を打ち出した

♪「分かりやすい解説系」、「読み応えがあって面白い系」、「つまみやすい質問系」の発信コンテンツが効果的！

- △Twitterの効果は不明...
 - ・しっかり見ている東北大生がどの程度いるのか把握できない
 - 「学びのヒント」やポスターでの発信を中心にして、Twitterはそのお知らせ程度にするか？

ライティング

a) 窓口対応

- ◎対応がとてども多かった！
 - ・特に留学生の利用が多い。博士課程の学生が投稿論文を持ってこられることも
 - ・対応方法について、いろいろ試すことができた

b) 部会活動・発信

- ◎前期授業連携のレポート対応分析
 - ・学会でポスター発表予定(玉田、伊藤)
- △空き時間が少なく、発信などの作業があまりできず
 - ・対応の合同での作業としては限界があり、なんかいい形でできる方法/ことを考えよう

英会話

- ◎「また来たい！」と思わせるカフェの工夫と試みをした！
 - ・新しいアクティビティを開発し、カフェのバリエーションが増えた
 - ・新企画「英会話の自トレ」は大フィーバー
- ♪「とても面白い!」、「すぐく役に立つ!」と思わせる内容だと、人が集まりやすいかも? (一企画の目指すポイントとも言える)
- ◎閉歇期でも「初めての方歓迎WEEK」は新規利用者の獲得に効果的!
 - ・開催広報を定期的に打ち出すと、都合がつく新規利用者が来てくれる。
 - ・新規利用者の2-3割はリピートしてくれた!
- ♪最初の打ち出し、「入口のデザイン」がポイントなのか?

△学生の利用ニーズ、学習モチベーションの変化している中で、どういふ方針・どのような形で英会話を回していくかは今後の課題!

・「現状の学生ニーズ」×「SLAしできないこと」→英会話支援の新展開を探る

企画

a) かんがえるソファ

- ◎ファシリテーション力が高まった
 - ・シート作成など、学びが深まる工夫もできた
- △「てつがくカフェ」が学生には分かりづらい
 - ♪ディベートも実施して、関連付けていく

b) 美術館の楽しみ方、教えます

- ◎実施方法を改善し、学びと楽しさを両立できる型ができた
- △今後SLAがいる意味をどこに据えるか?
 - ♪SLAが中心に回して、解説の部分のみ学芸員にお願いする?
 - 定期開催できるか/博物館なども?

日本語会話

- ◎継続利用者の確保、口コミで新規参加者も獲得!
- ◎SLAの運営スキルが目に見えて向上した!
- ◎定期的、安定的な日本語会話の広報もできた

△まだ初級者への対応に関しては課題がある

♪この調子で来期も引き続き頑張りましょう! その知見を新規メンバーに引き継げるように工夫しよう!

全体を通した 成果と課題

1. 対応について

- ◎対応が増え、対応の経験値もためやすくなった。
- ◎対応外の時間は部会作業に費やしたため、カルテはタスク化、対応報告もあまりできなかった
- ☞対応の向上のため、対応後の振り返りも重要！
 - ・振り返りを意識してカルテを記入しよう。
 - ・対応後の感想や気づきをスタッフや他のSLAと話そう。

2. 企画・発信について

- ◎それぞれの部会で、新しい企画・発信を打ち出した
- ◎意味のある企画・発信でも、一年生は強い動機がないと参加してくれない
- ☞入口は参加したくなるものの中身はSLAがする意味があるもの
 - 例：学生のニーズに沿った「学べる・役に立つ系」
：身近だけど未体験の学びに踏み出す「きっかけ作り系」
- ◎部会全員で取り組む際、シフトを超えた作業分担と連携が難しい
- ☞slackなどを活用、作り込むもの（興味を引くもの）に關しては、個人ベースで作成できるものを検討

3. 留学生支援について

- ◎留学生の利用が全体的に増加
(理系、ライティング、日本語会話、英会話)
始めの対応で他の支援を紹介され、利用につながったケースも
- ◎留学生のリピーターも！
 - ◎他の部会と対応のコツをあまり共有できていない
 - ☞未対応時、他部会と一緒に対応したり、定期的に関連部会と対応の気づきやコツの共有を試みよう

4. 運営について

- ◎共有すべき内容の厳選が上手になってきたため、BMTGの時間が短縮できた！
- ◎「シニア申し送り書・業務日誌」の情報共有機能は果たせず
- ☞シフト間のコミュニケーションを有効に取れる方法を考えたい！いいアイデアがあれば、ぜひ聞かせてください！

5. 授業連携

- ◎主に「学習理論入門」と「グローバルゼミ」と連携して、ライティングの利用者数が増えました。
- ◎同じ時期に利用が殺到。1シフト1人で対応しきれない。
- ☞今後授業連携のあり方について検討が必要



3 夏期研修

(1) 目的と概要

夏期研修は、①前期 Semester の活動の振り返りを通して今後の活動に活かせる知見を得ること、②大学教育、学習支援に関する知識やそれらの今日的課題についての知識を得ること、③SLA 同士やスタッフとの交流を深めると共に、センターの抱える課題や方向性を皆で共有し、SLA 全体のチーム力を高めることを目的としている。

2019 年度は、センター員の縣が担当し、9 月 30 日（月）10:30～16:00 に、「対応の“+α”を考えよう！」というテーマで実施した。なお、16:30 からは後期活動説明会を同日開催している。

夏期研修の参加者は、28 名（うち、午前のみ参加 3 名、午後のみ参加 1 名）であった。後期の SLA 全体の人数が 36 名であることを考慮すると、参加率は 78%と、例年と比べても高い参加率であったと言える。

<2019 年度夏期研修プログラム構成および参加者構成>

内容	10:30～12:30 1) アイスブレイク 2) SLA ができる／すべき支援とは？ 3) より深い支援のために 13:30～16:00 4) 利用者の傾向の分析 5) 対応の“+α”を考えよう
参加者	28 名（うち 4 名は午前・午後いずれかのみ参加） <参加 SLA28 名の構成> ・活動歴：半年未満...12 名、半年～1 年...7 名、1～2 年...6 名、2～5 年...3 名 ・担当：物理...7 名、数学...8 名、化学...2 名、英語...5 名、ライティング...1 名、企画...5 名

(2) 2019 年度夏期研修のコンセプト

SLA の日々の対応業務では、ただ利用学生の目的（テスト前の対策など）を満足させるだけでなく、自律した学習者へと導くような支援が重要となる。そこで 2019 年度の夏期研修では、「対応の“+α”を考えよう！」というテーマを設定し、SLA に「SLA ができる／すべき支援」を考えさせた上で、そのようなより深い支援をどのようにすれば達成できるかを検討した。

(3) 各プログラム内容詳細

<午前の部>

1) アイスブレイク

午前中は、これまであまり深く関わったことのない、異なる部会に属する SLA 同士でグループを構成した。そのため、最初にグループ間のコミュニケーション、および、参加者全体の関係性をほぐす目的で、アイスブレイクとして 2 種類のワークを行った。

2) SLA ができる／すべき支援とは？

SLA が行うべき支援は、テスト対策や特定の概念の理解など、利用者の利用目的を満たすことそのものではなく、より長期的な視座に立って、自律的な学習を促すような働きかけを行っていく必要である。このことを確認した上で、それでは SLA としてどのような支援ができるか、あるいはすべきかを、ワークショップ形式で検討させた。

まずは SLA 個人に考えさせた後、異なる部会に所属するグループで共有・整理を促した上で、グループごとに発表してもらった。

3) より深い支援のために。

2)のワークにより、「自律した学習者を促す」という目的を確認した上で、ここではその具体的な方法として、特に「学びのモチベーション」「より深い理解」「学習方略の獲得」という 3 側面を取り上げた。上記 3 点について、教育心理学的な知見を紹介した上で、SLA の活動の中で具体的にどのような方法でそれらの支援を行っているかを、議論させた。

< 午後の部 >

4) 利用者の傾向の分析

午後は、基本的には部会単位でグループ分けを行い、「物理・化学」「数学」「英語・日本語」それぞれ 2 グループずつによる構成でワークを行った。それにより、午前中に部会間で広く意見交換・議論した内容を、各部会の活動に落とし込むことを狙った。

午後の最初のワークは、利用者の傾向について 3)で扱った 3 つの側面を含めて検討し、重要な軸を抽出しながらいくつかのグループにカテゴリズすることをまず行った。その上で、SLA のヘビーユーザーと初回利用者をそれぞれ 2 人ずつピックアップし、典型的な利用者のペルソナと、仮想的な利用の状況を作成してもらった。

5) 対応の“+α”を考えよう

4)で作成したペルソナについて、①基本的な対応として（利用者の目的に準じて）行なうべきこと、②自律的な学習者を促すための+αの対応としてすべきこと、をそれぞれ具体的な方法まで考え、議論をしてもらった。

（4）成果と課題

日々の SLA としての対応や部会活動の中では、科目ごとの対応方法、すなわち、その科目の内容を理解してもらうための支援方法について議論する機会は多くある一方、「どのように自律的な学習を促すか」といった学習支援の側面について深める機会はあまり多くない。そのため、利用者の抱える問題の解決や、分かりやすい解説の仕方などを、SLA はどうしても優先してしまいがちである。

本研修によって、SLA の対応の中で目指すべき目標を意識づけできたことは最大の成果だったと言える。特に、活動歴の浅い SLA には学習者の自律性を育むという視点を持てていなかった者も多かったことが推察され、大きな意義があったと言える。

合わせて、対応の中で、利用者のモチベーションや学習方略をモニタリングする必要性や、それに沿った支援を行うための具体的な方法についても情報交換をし、リアリティの高い形で深められたことは意味があったと言える。

加えて、普段あまり交流することが多くない他部会の SLA と、「学習支援者」という共通項で深く議論できたことは、SLA にとって刺激になったようである。

本研修の課題としては、いくつかの典型例を想定し、深い支援を行うための方法について議論し合ったものの、当然ながら利用者はそれぞれ学習状況や抱える課題、あるいはキャラクターが異なる。それゆえ、実際の対応にどう活かしていくかは、各 SLA の即興的な判断力や柔軟な声かけの仕方やコミュニケーション能力に委ねられている。それらのスキルを伸ばすためには、実際の対応場面の記録を取りながら、それらのリフレクションを行っていくことが必要であろう。

(1) 概要

前年度までは福島大学・北海道大学の2校と合同研修を開催していたが、今年度は北海道大学との合同研修となった。合同研修の活動概要は次表の通りである。

<2019年度他大学合同研修開催要項>

企画名	2018年度 2大学学習支援スタッフ合同研修会
企画運営	東北大学 学習支援センター／北海道大学 ラーニングサポート室
趣旨	大学生に対する学習支援を担うセンター間の交流と情報交換、そして研修の合同実施等を通して、相互の組織運営体制や学習支援事業改善につなげる。特に、学習支援スタッフとして活動している学生同士を交流させることにより、自らを客観的に見つめ、これまでの活動を振り返る機会や場としつつ、学習支援者としてのさらなる能力向上やスキルアップを図る。
場所	東北大学 川内キャンパス SLA ラウンジ
事前準備	各大学の概要等情報共有など
日程	2020年2月21日(金)
参加者	<p>■東北大学 教職員：佐藤智子、縣拓充、頼翠廷、鈴木真衣 SLA：5名</p> <p>① 松井 理輝 理学 B3 物理 (SLA 歴：1年) ② 吉澤 研介 理学 D1 数学 (SLA 歴：1年) ③ 渡辺 孝佳 理学 M2 数学 (SLA 歴：2年) ④ 竹平 航平 理学 B4 数学 (SLA 歴：1年) ⑤ 韓 吉輝 工学 M1 英語 (SLA 歴：2年) ⑥ 西塚 孝平 教育 M2 企画 (SLA 歴2年) ※第2部のみ</p> <p>■北海道大学 高等教育推進機構高等教育研修センター ラーニングサポート室 教職員：須田 裕介 LSO 特定専門職員 数学 秋山 永治 LSO 特定専門職員 物理 TA：6名</p>
スケジュール	<p>12:50～13:00 集合 (SLA ラウンジ周辺) 13:00～13:30 【導入】趣旨説明、自己紹介、アイスブレイクなど 13:30～14:00 両大学からの取組概要説明 14:00～16:20 【第1部】英会話 模擬体験 (Workshop) 数学・物理 模擬対応 (1 on 1) 16:30～18:10 【第2部】「大学における学習支援」について考える (哲学カフェ) 18:10～18:20 閉会、写真撮影</p>

(2) 目標

◎基本レベルの研修として：

学習支援の場面では、相手が初対面の相談者/参加者であっても、話しやすい雰囲気を即座に構築し、安心して話せる信頼関係を構築することが求められる。さらには、支援内容に関する適切な問いかけや助言をすることも求められる。そこで、今回は「模擬学生対応」のワークを通して、対応冒頭のアイスブレイクの工夫や、相手が話しやすい問いかけや傾聴の態度、当該支援内容に関する適切な質問やアドバイスの仕方を学ぶ。

◎応用レベルの研修として：

上記の「模擬学生対応」を通して観察された多くの情報をしっかりと言語化し、「大学における学修・学習としてのあるべき姿」や、「大学生に対する学修相談対応ないし学習イベント」としての効果的な方法論を、参加者各位が、論理的・体系的に整理することを目指す。

（3）構成

今回の合同研修では、第1部として両大学合同での模擬対応や模擬体験を実施し、第2部ではその総括として「大学における学習支援」について対話的に思考し深めるためのワークショップを行った。

【第1部】

両大学それぞれの学習支援の活動について相互に聴き、さらには演習として相互に体験することを通して、自らの活動のふりかえりを促すとともに、課題状況と、その課題の解決に向けたアイデアを共有する。

【第2部】

東北大学で実施・開発している「かんがえるソファ」による哲学的対話実践を体験すると共に、テーマとして「大学における学習とその支援についてかんがえる」ワークショップを実施する。これにより、両大学のTA/SLA 同士がアイデアを共有しながら自分自身のなかでの学習支援「哲学」を洗練させると共に、両大学の差異と共通性を際立たせることで、チームや組織として「学習支援」の共通理解を構築する契機とする。



「大学における学習支援」について考える（哲学カフェ）



模擬セッションの様子（理系科目サポート）



模擬セッションの様子（英会話カフェ）

(1) 主旨・概要

近年、アートの視点や文化の学びを、研究・教育やビジネスにつなげていくことの重要性・有効性が各所で叫ばれている。例えば、理工系の教科である Science, Technology, Engineering, Mathematics の頭文字をとった「STEM 教育」には、新たに“Art”の要素が取り入れられ、「STEAM 教育」と呼ばれることが多くなった。また、ビジネス領域において盛んに取り上げられていた「デザイン思考」に代わって、感性や問題発見の側面をより強調した「アート思考」が注目を集めている。

このように、「アート」の重要性は様々な場所で指摘されつつあるが、その一方で、アートとはそもそもどういうものであり、私たちはアートを通して何を学ぶことができるのかということについて、未だ共通の見解はないように思われる。殊に東北大学は、アートや文化に関わる授業がほとんどないため、学生がアートについて知る機会自体も限られていたと言える。

そこで、芸術文化に関わる研究を行ってきた当センター所属の2教員に加え、これまで「教育」の問題をテーマにした作品制作を行い、国際的に活躍している現代美術家・山本高之氏をゲストに招き、アートを通じた学びについて考えるセミナーを開催した。

【山本高之氏 略歴】

1974 年愛知県生まれ。チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン修了。小学校教諭としての経験から「教育」を中心テーマのひとつとし、子どものワークショップをベースに会話や遊びに潜む創造的な感性を通じて、普段は意識されることのない制度や慣習などの特殊性や、個人と社会の関係性を描く。近年は地域コミュニティと協働して実施するプロジェクトに多く取り組んでいる。2017 年度に、テート・ギャラリーの教育普及プログラムのリサーチでロンドンに 1 年間滞在。

(2) 開催概要

- ・日時：2020 年 2 月 5 日(水) 15:00~17:00
- ・場所：川内北キャンパス講義棟 B200 教室
- ・参加者：東北大学生・教職員 約 40 名

(3) 構成

1. はじめに／認知科学から見たアート（縣 拓充） 15:00-15:20
2. 考古学から見たアート（芳賀 満） 15:20-15:40
3. アーティストトーク（山本 高之） 15:40-16:30
4. クロストーク（山本高之×芳賀 満×フロアの皆さん [進行：縣 拓充]） 16:30-17:00



5. SLA による活動振り返りレポート

SLA としての活動を振り返って

理学研究科数学専攻 博士課程前期 2 年
SLA 数学担当 森 祥仁

1. はじめに

私は博士課程前期 1 年の後期から SLA としての活動を始めました。本稿では 1 年と半年間 SLA として活動する中で考えた事についてまとめてみます。

2. SLA に応募したきっかけ

私が SLA を知るきっかけは学内に掲載されていた SLA 募集のポスターでした(私は大学院から東北大に入学したので、このような学習支援が存在しているとは知りませんでした)。学部の数学を教えた経験は無かったので、良い経験になるだろうと考えて採用試験を受けました。

3. SLA になって良かったこと

SLA になって良かったことは以下の 3 つです：

1. 情報を伝える技術の向上、
2. 学部で学んだ数学の復習
3. 他分野の学生との交流。

以下、順を追って述べます。

数学に限った話ではありませんが、数学を教えるためには表面的に理解する以上の深い理解が要求されます。加えて自分が理解していることを分かりやすく、かつ正確に伝える技術も要求されます。前者はともかく、後者は一人で勉強している限り絶対に身につかない技術です。

SLA を利用する多くの学生が学部 1、2 年生です。大学に入学したばかりで本格的な数学に慣れていない学生が多いです。新入生に数学を教える際には思考の過程を丁寧に言語化する必要があります。このような経験を積む事で説明力が向上したように感じています。

SLA を利用する学生は教養課程の学生であることが多いです。彼らは多種多様なバックグラウンド・興味を持っています。したがって、数学の問題に取り組む際に生じる疑問点も多種多様になります。数学科以外の視点ならではの疑問点もあり、私が SLA の利用者から教えられることもしばしばありました。このように単に自分で復習することで得られる理解・視点以上に深い理解を得らえたと考えています。

SLA として採用される学生の所属は数学科・専攻に限りません。数学部会の他に物理、化学、英語、ライティング、企画部会があり、文理を問わず様々な専門知識を持つ学生が集まります。異分野の学生と気さくに交流する機会は私にとって大変貴重でした。休憩中や業務時間外に他

分野の知識・考え方を教えてもらえて大変勉強になりました。

4. 活動を通して学んだこと

SLA としての活動を通じて、他人に数学を理解してもらうためのコツは「いかにして説明せずに済みますか」という結論を得ました。一見逆説的ですが分かりにくいと思うので以下で詳しく述べてみます。

SLA を始めた頃は丁寧に論理を解説すればきっとわかってもらえるだろうと考えていました。その結果、一方的な解説をすることが多くなってしまいました。利用者の反応は期待したほど良くありませんでした。何となくわかったような気分になっただけで問題を解こうとしても手が動かなかったり、説明の途中で疑問をぶつけることに遠慮してしまって私の説明が何も頭に入っていないという学生が量産されてしまいました。今考えるとこれは当然の結果です。というのも、一方的に解説するということは講義の再現をすることであり、SLA を利用する学生はその講義がわからなくて質問しに来ているからです。

この観察を受けて、対応の方針をガラッと変えました。説明主体の対応から、疑問を投げかけ、相手に手を動かしてもらう対応に修正しました。結論から言えばこの方針転換は大成功でした。数学を理解するために必要なことは「自分で計算し、自分で何かを掴むこと」です。説明主体の対応は利用者が自ら手を動かし何かを発見する機会を奪うことになります。対して利用者の躓きを解消してくれるであろう事実と直結する知識を疑問の形で利用者に問いかけて、自ら手を動かしてもらうことは重要な数学的事実を利用者自らが発見することに繋がります。適切な疑問を選んで投げかけることは先輩だからこそできることであり、SLA が目指すともそだちそのものだと気づきました。

5. まとめ

SLA として活動することで多くの発見をすることが出来ました。中でも数学を理解してもらうためのコツを考え、実践する機会を得たことは非常に幸運でした。今後も SLA としてより良い活動が出来るように励みたいと思います。

最後になりましたが、サポート室の皆様には大変お世話になりました。私に対応に関して迷走していた時期にも丁寧にサポートして下さいのおかげで今の私があると考えています。また、各部会の皆様にも大変お世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げます。



「？」に素直に

かんがえるソファが苦手だったかんがえるソファ担当より

文学部人文社会科学考古学専修 4年
SLA 企画担当 鈴木 志保

1. はじめに

私は企画 SLA として、てつがくカフェ「かんがえるソファ」や、美術館訪問企画「美術館の楽しみ方、教えます！」を担当しました。私が SLA になった時期は、企画部会立ち上げ当初からのノウハウが少しずつ積み上げられ、安定してイベントを行えるようになってきた時期でした。一方で、企画のブラッシュアップも必要だったり、スキルがあればもっと良いイベントができると感じたりと、課題も見えてきた時期でもあったと思います。どうしたらイベントがより良くなるかを考えることが難しくもあり、また楽しくもあり、2年間の活動は非常に刺激的でした。「かんがえるソファ」の運営を通じて、SLA として感じたこと、学んだことを書き残せたらと思います。

2. 「かんがえるソファ」から学んだこと

(1) 「かんがえるソファ」は苦手でした

SLA になる以前から「かんがえるソファ」の存在は聞いたことがありましたが参加したことはなく、「何やら難しい話をするイベントなんだろうな…」と想像していました。イベントに実際に入ってみたところ…概ねイメージ通りでした。ファシリテーターグラフィックとして参加した初めての「かんがえるソファ」では、一人だけ終始難しい顔をしていた気がします。正直なところ、私は昔から難しい話が苦手で、哲学や倫理学の授業が憂鬱なほどでした。自分はきっと、ここにいる誰よりもてつがくカフェに向いていない。ここにいる中で一番話についていけない。そう感じて、ファシリテーターとしてイベントを仕切ることはもちろん、参加者の発言に対して質問することも怖いと思っていました。

しかし、参加者の発言に疑問を感じても滅多に質問せずに流れに任せていると、イベントの序盤の内容の細かいイメージが共有できておらず、中～終盤になって話が停滞することが多くなりました。話を深めようとしても空回りするような雰囲気があり、イベントの目的である「対話を通じて、新しいアイデアに気づく」を達成することができませんでした。

(2) SLA だからこそ「？」に素直に

失敗して初めて気づいたのは、疑問を感じつつもそれをはっきり示せていなかったのは私だけではないということでした。頭の回転がとても早そうに見える参加者も、疑問を感じている点は同じでした。また、「かんがえるソファ」は、参加者は学部 1・2 年生が多く、ほとんどが初対面同士です。参加者は私以上に緊張し、質問したくてもなかなかできない、という気持ちが私以上にあります。

SLA はあくまで“学習の伴走者”であり、話の全てを理解して正解を提示する必要はない。むしろ、参加者と一緒に疑問を解体していくことが大切です。SLA だからこそ、参加者以上に疑問を素直に投げかけなければなりません。SLA の役割として当たり前であり最も重要なことに、失敗を通じて気づかされました。

それからは、「良い意味で、ここにいる誰よりも馬鹿になろう」「疑問に素直になろう」と心がけて、少しやりすぎかと思うくらいに参加者の発言に問いかけを繰り返しました。すると、参加者の反応が明らかに良くなり、対話をしっかりと深めることができるようになりました。また、口調や

表情が硬くなりすぎないように気をつけたり、雑談もはさんだりと、参加者が素直に質問しやすいような雰囲気づくりにも努めました。

「？」を誰よりも素直に出すようにしたところ、私自身が「かんがえるソファ」を楽しめるようになりました。「かんがえるソファ」に苦手意識がなくなるのには時間がかかりましたが、今振り返ると誰よりもこのイベントの面白さが理解できたと思います。

3. 謝辞と、これからの SLA へ

学習支援センターのスタッフの皆様には、日々の活動で的確なアドバイスを頂いたり、行き詰まった時に私の気持ちを引き出して頂いたり、本当にお世話になりました。ありがとうございます。そして、一緒に活動した個性的で熱量あふれる SLA の皆さんにも感謝しています。SLA の活動を通じて私自身も成長できたのは、この環境とメンバーあつてのことだったと思います。

学習支援センターの創設から時間が経ち、安定して業務を行えるようになった一方で、より良い学習支援を目指して新しい道を模索する時期に差し掛かっているように感じます。最近は各部会でイベントを企画したり情報発信を工夫したりと、新しいことに挑戦していてこれからの SLA が楽しみです。一つだけ、卒業生としてアドバイスを残すなら、部会間の交流がもっとあっても良いのではないかと思います。企画部会は、分野に縛られていない分、部会と部会がつながっていくための橋渡しになってほしいと思います。

2年間、沢山のことを勉強させて頂きました。これからは OG として、SLA がこれからも発展していくことを楽しみにしています。

資料：2019年度発行ポスター

2019前期 Tohoku University Student Learning Adviser

SLA 体験 WEEK

学習支援センターでは、SLA (Student Learning Adviser) と呼ばれる学部3年生から大学院生の先輩たちが、[理系科目][英会話][レポート執筆][企画イベント]を中心に、1・2年生の学習のサポートを行っています。
SLAの窓口は15日(月)からオープンしますが、それに先立って、SLAの活動を知ったり、体験したりする会を開催します。授業の合間に気軽に覗いてみてください!

日時：4/8(月)・10(水)・12(金) 12:00-14:30 (昼休み~3階)
会場：マルチメディア教育研究棟 (M棟) 1階 [SLAラウンジ]

1. SLA利用ガイダンス & 事前登録会 ▶ 12:10~13:10 (約15分)
SLAはどんな活動を行っているところ? どうやって利用したい? どんな雰囲気なの? このガイダンスでは、年間約1,800名の方にご利用いただいているSLAの活動について案内をします。
また、SLAの窓口利用にはユーザー登録が必要になりますが、その事前登録会も合わせて行います。
2. 「英会話カフェ」体験会 ▶ 13:40-14:30 (退出自由)
SLAでは、英語で会話を楽しむことを目的とした「英会話カフェ」を開催しています。初~中級レベルの利用者がほとんどなので、英会話に自信のない方も大歓迎!
今回は、新入生の方を対象に英会話カフェを試してみる体験会を行います。英語で会話やゲームをして楽しみましょう! 見学もOKです!
3. 新入生「何でも」相談会 ▶ 12:00-14:30
初めての大学生活、分からないことや不安がたくさんあると思います。そんな新入生の皆さんの疑問に、先輩が経験に基づいてお答えします!
試験勉強・レポートはどうすればいいの? 留学したいけど、どんな準備が必要? 授業やサークルはどうやって選べばいい? 一人暮らしの気をつけたいことは? などなんでも気軽に相談ください!

SLAの活動詳細は、ガイダンスで配布された「ともそだち本」やHP、Twitterをチェック!
http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
ととと学ぼう、ととと育もう、ととと学びたい Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲1) SLA 体験 Week2019

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAがあなたの学びをサポート!

SLAとは、3年生以上の学習支援スタッフ。全学教育を学ぶ1・2年生の「わからない不安」や「もっと学びたいやる気」をどちらもサポート!

◆こんなときはお気軽にSLAへどうぞ!

- 物理 数学 化学 「授業で、ちょっと分からないところが…」
「実験レポートって、どう書けばいいの?」
「もっと専門も勉強・議論したい!」
- 英会話 「初心者だけど、英会話ができるようになりたい!」
「英語で楽しくコミュニケーションしたい!」
- ライティング 「レポートって、こんな書き方で大丈夫なのかな?」
「自分の文章表現力を高めたい!」

◆予約不要! 下記のスケジュールで、SLAは活動しています。窓口へ直接お越しください!

2019年度前期 SLA基本スケジュール 4月版

	月	火	水	木	金
昼休み 12:00~13:00			物 数		英
3講時 13:00~14:30			物 数		英
4講時 14:40~16:10	英 数	物 数 化	物 数	物 数	
5講時 16:20~17:40	英 数	物 数 化	物 数	物 数	

◆SLAでは他にも様々な企画を開催したり、学びに役立つ情報を発信したりしています。ホームページ・Twitterをチェックしてください!

http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F
ととと学ぼう、ととと育もう、ととと学びたい Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲2) 前期スケジュール 4月

2019前期 Tohoku University Student Learning Adviser

アカデミックスキルセミナー 『レポート指南書』入門ゼミ

全3回 1回90分

レポートには、決まった「型」や「ルール」があります。『レポート指南書入門ゼミ』では、基本的なレポートの書き方について、「ワーク」を交えて体験的に学びます! 1年生はもちろん、レポートや論文について改めて学び直したい2~4年生にもお勧めです。

PROGRAM

1. 思考を整理して問いを立てよう!
- 論述のススメ
◇ 学術情報を見極めよう!
- 大学図書館活用の極意 -
① 4/ 8(月) 5限 (16:20~17:50)
② 4/11(木) 3限 (13:00~14:30)
③ 4/15(月) 4限 (14:40~16:10)
2. レポートの構成を見抜け!
- アウトラインの実践法 -
◇ 誰でもできる! わかりやすい文章 - パラグラフ・ライティングの書き方 -
① 4/15(月) 5限 (16:20~17:50)
② 4/18(木) 3限 (13:00~14:30)
③ 4/22(月) 4限 (14:40~16:10)
3. 種める・引用! - 先人の知恵を借りる技 -
◇ レポートを磨け! - 推敲の奥義 -
① 4/22(月) 5限 (16:20~17:50)
② 4/25(木) 3限 (13:00~14:30)
③ 5/13(月) 4限 (14:40~16:10)

※各テーマ3回ずつ実施します。内容はどの回も同じなので、都合のよい方に来てください!

会場: 月曜 SLAラウンジ (M棟1階) 木曜 図書館(グローバル学習室) 事前申込不要・参加無料!

学習支援センターで配布された『レポート指南書』です。この冊子の内容を継続的に扱います。

SLAでは、1対1のレポート相談も受け付けています。詳しくはHPをチェック!

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F
ととと学ぼう、ととと育もう、ととと学びたい Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲3) 『レポート指南書』入門ゼミ①

Tohoku University Student Learning Adviser

Japanese Conversation Workshop 日本語会話を練習しませんか?

留学生のみなさんへ

みんなでも楽しく話して、日本語での会話を練習しましょう! 日本の文化や生活に関する話題について、話してみませんか。<中級(基本的な会話ができるレベル)以上の方向け>

日	内容	開催時間
4/19(金)	お花見 お花見した? どう楽しむ?	水曜日 16:30~17:30 金曜日 13:00~14:00 (少し遅れても参加できます)
4/24(水)	ゴールデンウィーク この祝日なんだろう? どう過ごす?	
5/ 8(水)	アニメと日本 好きなアニメは? アニメに映る日本って?	
5/10(金)	敬語の使い方 先生・先輩への言葉遣いは?	
5/15(水)	おすすめ・行ってみたいお店 お気に入り・気になるお店を紹介しよう!	
5/22(水)	東北大学豆知識 トンペイ、イカジャシって何? これがわかれば真の東北大生!?	

場所: マルチメディア教育研究棟(A05) 1階 SLAラウンジ

初めて参加する人は、窓口へ声をかけてください!

講師: 工藤 さやか(文学部 B4) フランス文学研究室 好きなもの: 音楽・音楽
鏡 耀子(文学部 M1) 国際学研究室 好きなもの: 音楽・ダンス・映画
金 亮輔(工学部 B3) 電気情報物理工学科 好きなもの: ジュラルム・バンド
松谷 凌雅(文学部 B3) 文化人文学研究室 好きなもの: ランニング・お花見

SLA(Student Learning Adviser)とは、学部3年生以上の学習支援スタッフです。友達と話す感覚で、私たちと一緒に日本語で会話しませんか?

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F
ととと学ぼう、ととと育もう、ととと学びたい Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲4) 日本語会話 4・5月

Tohoku University Student Learning Adviser 2019年度前期

SLA de 英会話

英会話カフェ体験WEEK

SLAでは、英語で会話を楽しむことを目的とした「SLA de 英会話」を毎週開催しています。事前予約は必要なく、気が向いた時にらっく来て参加しても大丈夫です！
 別館一中館101の学生を想定しており、英会話に自信のない方にも利用してもらっています。今回、特に英会話カフェ体験の方に、回ごとにテーマを設定した「体験WEEK」を開催します。英会話を試してみたいという、気になるテーマがある方、英語を通じた新しい友人を作りたい方などは、ぜひ気軽に遊びに来てください！
 ◇会場：マルチメディア教育研究棟1階（SLAラウンジ）

予約不要！
見学もOK！

1) 立って話そう新学期！ 4/22(月) 16:30~17:30
 新しい学期になって学年や環境、新しく出会った人などについて、立って話しましょう！【担当：田村（文・M2）】

2) 東北大生とファッション 4/23(火) 16:30~17:30
 東北大生といえばチェックアップ！なんて言う？東北大生のファッションについて英語でワイワイしましょう！【担当：水野（薬・4年）】

3) Which is better? 4/24(水) 16:30~17:30
 Cat or Dog? Sweet or Salty? Sendai or Hometown? 様々な2つの選択肢について、どっちの方がいいか決めよう！英会話に不慣れな人でも簡単に表現でき、英語でのディスカッションを体験できます！【担当：樋口（工・M2）】

4) ゲーム de 楽しむ英会話 4/25(木) 16:30~17:30
 気軽にできる簡単なゲームを通して、英語でのコミュニケーションを楽しみます！みんなで盛り上がりながら、英語の表現を学びましょう！【担当：藤（工・M2）】

5) 英語で地元の話をしよう！ 4/26(金) 13:15~14:15
 東北大学の思い出の地を訪れて、地域関係者から多くの学生が入学していることが知られます。皆さんの出身地について話しかけてください！質疑応答の方も大歓迎です。【担当：米田（教育・M2）】

◆その他、月~木曜の4限（14:40-16:10）の時間には、1対1での対応も行っています。詳しくはSLAサポート室にお尋ねください！

東北大学 高度教育教育・学生支援機構 学習支援センター（SLAサポート）
 ととと学ぽ、とととに育たう、とととちだ Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲5) 前期英会話カフェ体験 Week

Tohoku University Student Learning Adviser

アカデミックスキルセミナー

『レポート指南書』入門ゼミ

全3回
1回 90分

レポートには、決まった「型」や「ルール」があります。『レポート指南書入門ゼミ』では、基本となるレポートの書き方について、「ワーク」を交えて体験的に学びます！1年生はもちろん、レポートや論文について改めて学びたい2~4年生にもお勧めです。

PROGRAM

1 ◇思考を整理して問いを立てよう！
 - 論述のスムーズ
 ◇学術情報を見極めよう！
 - 大学図書館活用の極意
 ①5/27(月) 3限 (13:00~14:30)
 ②5/27(月) 4限 (14:40~16:10)

2 ◇レポートの構成を見抜け！
 - アウトラインの実践法
 ◇誰でもできる！わかりやすい文章
 - 1ラフ・3行の書き方
 ①6/3(月) 3限 (13:00~14:30)
 ②6/3(月) 4限 (14:40~16:10)

3 ◇極める・引用！-先人の知恵を借りる技-
 ◇レポートを磨け！-推敲の奥義-
 ①6/10(月) 3限 (13:00~14:30)
 ②6/10(月) 4限 (14:40~16:10)

※各テーマ2回ずつ実施します。内容はどの回も同じなので、都合のよい方に参加ください！
 ※4月に実施したものと同一内容です。

会場：SLAラウンジ（M棟1階）
 事前申込不要、参加無料！
 学部オリエンテーションで配布された『レポート指南書』です。この冊子の内容を網羅的に扱います。

東北大学 高度教育教育・学生支援機構 学習支援センター（SLAサポート）
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
 ととと学ぽ、とととに育たう、とととちだ Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲6) 『レポート指南書』入門ゼミ②

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAがあなたの学びをサポート!

SLAとは、3年生以上の学習支援スタッフ。全学教育を学ぶ1・2年生の「わからない不安」や「もっと学びたいやる気」をどちらもサポート！

◆こんなときはお気軽にSLAへどうぞ！

- 物理 数学 化学**
 - 「授業で、ちょっと分からないところがある」
 - 「実験レポートって、どう書けばいいの?」
 - 「もっと専門も勉強・議論したい!」
- 英会話**
 - 「初心者だけど、英会話ができるようになりたい」
 - 「英語で楽しくコミュニケーションしたい!」
- ライティング**
 - 「レポートって、こんな書き方で大丈夫なのかな?」
 - 「自分の文章表現力を高めたい!」

◆予約不要! 下記のスケジュールで、SLAは活動しています。窓口へ直接お越しください!

2019年度前期 SLA基本スケジュール 5月版

	月	火	水	木	金
昼休み 12:00~13:00			物 数		
3講時 13:00~14:30			物 数		英
4講時 14:40~16:10	英 ラ	英	物 数 化	物 数	英 ラ
5講時 16:20~17:40	物 数 化	物 数 化	物 数	物 数	英 ラ

◆SLAでは他にも様々な企画を開催したり、学びに役立つ情報を発信したりしています。ホームページ・Twitterをチェックしてください!

<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> @sla_tomosodachi

東北大学 高度教育教育・学生支援機構 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
 ととと学ぽ、とととに育たう、とととちだ Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲7) 前期スケジュール 5月

Tohoku University Student Learning Adviser 2019年6月版

Japanese Conversation Workshop

日本語会話を練習しませんか?

留学生のみなさんへ

日本の文化や生活に関する話題を取り上げながら、みんなで楽しく会話をします!
 中級以上(基本的な会話ができるレベル)の方向け / 参加無料 / 予約不要

◆日時
 水曜日 16:30~17:30
 金曜日 13:00~14:00
 (少し遅れても参加できます)

◆各回のテーマ

開催日	テーマ
6/ 5(木)	オノマトペ
6/ 7(金)	雨が「ザーザー降る」「シトシト降る」の違いは?
6/12(水)	敬語
6/14(金)	普段のギモンを音で解決!
6/19(水)	テレビドラマ・映画
6/21(金)	好きな番組や作品について話そう!
6/26(水)	フリートーク
6/28(金)	参加者の皆さんが話したいことを話します!

◆場所
 マルチメディア教育研究棟 1階
 "SLAラウンジ"

We are SLA(Student Learning Adviser)!
 私たちと一緒に、友達と話す感覚で日本語会話を練習しませんか?

工藤 さやか (文学部 B4) フランス文学研究室
 藤 耀子 (文学部 M1) 国語学研究室
 金 英輔 (工学部 B3) 電気情報理工学科
 松谷 凌雅 (文学部 B3) 文化人類学研究室

東北大学 高度教育教育・学生支援機構 学習支援センター <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp>
 ととと学ぽ、とととに育たう、とととちだ Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲8) 日本語会話 6月

Tohoku University Student Learning Adviser 2019年度前期

気軽に英会話 SLA de 英会話

ビギナー大歓迎! 学内で気軽に楽しく英会話の練習しませんか? SLAがあなたをサポートします!!

2種類の活動があります 好きな方に参加してみてください! 参加無料、予約不要!

カフェ 集まったみんなでお話します。SLAが英語やゲームを用意しているので、楽しく英会話してみましょう!

1on1 マンツーマンで、あなたに合わせて話します。ビギナーでカフェに参加するのは気が引けるという人、留学準備などでスピーキングを練習したい人など、誰でも歓迎!

時間：平日の4,5限を中心に活動しています。詳しいスケジュールはHPをご覧ください

場所：M棟1階SLAラウンジ ソファ席 直接その場に行って声をかければOK! ※初めて利用する人は窓口にお声がけください。

東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート) <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F

ととと学ぶ、ととと育つ、ととと成長 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲9) SLA de 英会話

Tohoku University Student Learning Adviser 2019年度前期

気軽に SLA de 英会話 英会話カフェ体験WEEK vol.2

初の趣向開催! ぜひ一度覗いてみてください!

SLAでは、英語で会話を楽しむことを目的とした「SLA de 英会話」を開催中。初級～中級レベルの学生を想定していますので、英語に自信がなくてもOK! 今回、特に英会話カフェ未経験の方に向けた「体験WEEK」を開催します。英会話を試してみたいという方、気になるアーマがある方、英語を通じて新しい友人を作りたい方などは、ぜひ気軽に遊びに来てください!

予約不要! 見学もOK!

6/24(月) 1) 旅行の体験を英語でシェア!
15:00～16:00 日本国内、もしくは海外での旅行先で撮った出来事や感じたことについて、みんなでシェアしましょう! 【担当：千葉(工/3)、田村(文/M2)】
16:30～17:30

6/25(火) 2) スポーツについて話そう!
15:00～16:00 野球、サッカー、相撲、皆さんはどんなスポーツが好きですか? 好きなスポーツについて、英語でワイワイ話しましょう! 【担当：水野(英/4)、大槻(英/4)】
16:30～17:30

6/26(水) 3) 見てください地元愛!
15:00～16:00 大学の友達や外国の人に地元をおすすめするならば? どんな観光スポットがある? 皆さんの素敵な地元について教えて下さい! 【担当：市川(工/M2)、田村(文/M2)】
16:30～17:30

6/27(木) 4) ゲーム de 楽しむ英会話
15:00～16:00 気軽にできるゲームを通して、英語でのコミュニケーションを楽しみます! みんなで盛り上がりながら、英語の勉強をしましょう! 【担当：韓(工/4)、市川(工/M2)】
16:30～17:30

会場 【晴天時】 キッチンテラス・クール前 屋外デッキ
【荒天時】 川内厚生会館(生協) 多目的室(春に教科書を持っていった部屋)
※会場では、このポスターを看板として掲示します。このポスターを挿してね!

東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート) <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F

ととと学ぶ、ととと育つ、ととと成長 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲10) 英会話カフェ体験 Week

Tohoku University Student Learning Adviser

テスト期間に向けて、7/8よりSLAの対応時間を拡大します!!

物理 数学 化学 英会話 ライティング

◆テストに向けて、授業内容で十分に理解できていないところ、怪しいなところなどは早めに解消しておきましょう!
◆テスト直前は窓口が非常に混み合います。質問には日程・時間に余裕を持って来ててください!

2019年7月8日～8月7日 SLA基本スケジュール

	月	火	水	木	金
2講時 10:30～12:00			物 数		
3講時 13:00～14:30	物 数	物 数	物 数	物 数	英
4講時 14:40～16:10	英 物	英 物	英 物	英 物	英
5講時 16:20～17:40	英 物	英 物	英 物	英 物	

★SLAでは他にも様々な企画を開催したり、学びに役立つ情報を発信したりしています。詳しくはホームページ・Twitterをチェック!

<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> @sla_tomosodachi

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F

ととと学ぶ、ととと育つ、ととと成長 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲11) 前期スケジュール(シフト拡大)

Tohoku University Student Learning Adviser

日文学術写作工作坊 如何写好一份日文学术报告?

全2回 1回90分

学术性文章有一定的「架构」与「规则」。只要掌握好这些写作原则与技巧，你/她也可以写出一份好报告! 本工作坊将对日文报告的基本架构、文法、用词以及中日文写作时的语法差异等，通过实际练习以及范例讨论与大家一起来熟悉日文学术报告的撰写技巧。日文讲义搭配中文解说，欢迎想一篇日文写作为何物的同学、正与日语报告单打独斗的同学们踊跃参加!

PROGRAM

1 ◇掌握学术报告的基础架构!
7/4(木) 5讲时(16:20～17:50)
・何谓「学术报告」
认识日本大学中常见的报告类型
・论述型报告的基本架构
「起・承・转・合」序论、本论、结论
・问题与答案、论述的关系
研究问题的设定、论理的一贯性

2 ◇学习明白易懂的日文写作技巧
7/11(木) 5讲时(16:20～17:50)
・学术写作中适切的日文表达方式
「私は～だと思つた」的表达哪样出问题?
・认识与练习「段落写作」
明白易懂的段落、主旨句、支持句、结语句
・引用・参考文献的记註方式
网络取得的资料该怎么引用? 通过范例向高学习容易理解文献记註规则

＜場所＞ 附属図書館(本棟) 1楼 多目的室
＜報名＞ 免费参加 预约者优先 (定額約30名)
＜講師＞ 赖碧珺 (学习支援中心/问题咨询)

◆关于活动内容或有任何疑问，欢迎来信咨询◆
mail: sla-support@grp.tohoku.ac.jp

東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート) <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F

ととと学ぶ、ととと育つ、ととと成長 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲12) 『レポート指南書』入門ゼミ：中国語

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAの窓口は…

友人と一緒にの利用も ウェルカムです！



質問するなら、窓口が
混雑するテスト前より、
今でしょ!!

by 月曜シフトメンバー

物理	数学	化学
英会話	ライティング	

SLAではちょっとした疑問から
ガッツリ議論、研究室選択相談まで、
どんな利用でも大歓迎！

月～木の午後を中心に活動中です③
詳細はポスター・HPなどで
Checkしてください！



東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルメディア教育研究棟1F
ととと学ぶ、ととと育つ、ととと成長 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲13) 月曜日

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAを利用すると…

量子力学も “手に取るように” 分かります！



by 火曜シフトメンバー

物理	数学	化学
英会話	ライティング	

SLAではちょっとした疑問から
ガッツリ議論、研究室選択相談まで、
どんな利用でも大歓迎！

月～木の午後を中心に活動中です③
詳細はポスター・HPなどで
Checkしてください！



東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルメディア教育研究棟1F
ととと学ぶ、ととと育つ、ととと成長 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲14) 火曜日

Tohoku University Student Learning Adviser

その物理・数学の記号の意味、 言えますか？



by 水曜シフトメンバー

物理	数学	化学
英会話	ライティング	

SLAではちょっとした疑問から
ガッツリ議論、研究室選択相談まで、
どんな利用でも大歓迎！
月～木の午後を中心に活動中です③

日時等の詳細は、別途ポスター・HPなどでCheckしてください！



東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルメディア教育研究棟1F
ととと学ぶ、ととと育つ、ととと成長 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲15) 水曜日

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAと一緒に…

夢中になれるものを 見つけよう！

飛行機 ロケット 結び目理論



孔子先生 人工衛星 卓球 顔先生

by 木曜シフトメンバー

物理	数学	化学
英会話	ライティング	

SLAではちょっとした疑問から
ガッツリ議論、研究室選択相談まで、
どんな利用でも大歓迎！

月～木の午後を中心に活動中です③
詳細はポスター・HPなどで
Checkしてください！



東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルメディア教育研究棟1F
ととと学ぶ、ととと育つ、ととと成長 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲16) 木曜日

資料

Tohoku University Student Learning Adviser

化学が好きな人!

1,2年生の学習サポート しませんか?

化学担当
SLA募集

随時募集

興味を持った方は、HPの「SLA募集」ページをご覧ください。

定員に達した時点で募集を締め切ります

SLAとは
<1,2年生の学びをサポートする学習支援スタッフ>です!

★学部3年生以上応募OK!
★週1日3h、月14h程度勤務
★時給：学部生1,200円
 修士生1,300円
★勤務地：川内北キャンパス棟

SLAをするメリット◎
- 学び直しができる!
- ほかの学科・専攻のメンバーと知り合える!
- 1年生からフレッシュな元気をもらえる!
- 学内で働ける!
- 相手にわかりやすい伝え方がわかる!

Q. 質問対応は難しい?

A. 最初は先輩と一緒に対応するので大丈夫! 研修機会もあります。

Q. 化学A-C、全部範囲に答えられるか自信がないのですが…

A. 自分の専門から遠い分野は活動しながら復習してもらえば大丈夫です!

学習支援センター及びSLAについて、詳しくはHPをご覧ください。

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F
とくと学び、とくと育とう、ととそだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

Tohoku University Student Learning Adviser

後期のSLAは 10/7(月)から 始まります!

※14日(月)は授業開講日ですがSLAはお休みです。

詳細な時間は決まり次第
ポスターやHP・Twitterで
お知らせします

HP:

@sla_tomosodachi

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F
とくと学び、とくと育とう、ととそだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲17) SLA 募集 (化学)

▲18) 後期開始お知らせ

Tohoku University Student Learning Adviser 2019年10月版

みんなで楽しく 日本語会話を練習しませんか?

留学生のみなさんへ

日本の文化や生活に関する話題を取り上げながら、みんなで楽しく会話をします!
中級以上 (基本的な会話ができるレベル) の方向け / 参加無料 / 予約不要

工藤 さやか (文学部 B4)
フランス文学研究室
好きなもの: 映画・音楽

廣 耀子 (文学研究科 M2)
国語学研究室
好きなもの: 音楽・アニメ・映画

高橋 穂香 (文学部 B3)
文化人類学研究室
好きなもの: 旅行・音楽

We are SLA (Student Learning Adviser)!
私と一緒に、友達と話す感覚で日本語会話を練習しませんか?

◆開催日・テーマ

開催日	テーマ
10/9 (水)	夏休み
10/11 (金)	夏休み利用した? ~後期最初の日本語会話! みんな来てね!
10/16 (水)	自分の専門について
10/18 (金)	あなたの専門はなに? 日本語で話してみよう!
10/23 (水)	秋といえど
10/25 (金)	紅葉、サンマ、芋栗会! あなたの秋はどんな秋?
10/30 (水)	<休み CLOSE>
11/1 (金)	※初級者向けの日本語イベント実施のため

◆日時 (少し遅れでも参加できます)

水曜日 16:30~17:30
金曜日 13:00~14:00

「各回の流れ」

Opening talk...10分
例) 60秒ジャスト自己紹介!
- 隣の人を褒めよう!

Main activity...40分
例) 指導教員とどのように話す?
- 敬語の使い方を学ぼう!
- 日本の正月の食べ物を知ろう!

Reflection...10分
- 今日の内容確認と質疑応答

◆場所
“SLAラウンジ” (学習支援センター)
川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1階

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp
とくと学び、とくと育とう、ととそだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲19) 日本語 10月

Tohoku University Student Learning Adviser

てつがくカフェ「かんがえるソファ」とは?

対話を通じて多様なアイディアにふれ、自分を見つめ直す場。

毎回一つのテーマのもとで、学部や学年もばらばらの参加者と一緒に考えを深めます。
自分1人や友達とおしゃべりでは見えてこない、新しい視点に出会ってみませんか。

かんがえるソファ

場所▶ マルチメディア教育研究棟 (M棟) 1階
SLAラウンジ

対象▶ 東北大学生 全学部・全学年
事前予約不要・参加無料

過去のテーマや議論の様子はこちらをチェック!
http://nikkushotohoku.wixsite.com/sla-project

10月のテーマ

第31回 10月8日 (火) 16:20-17:50
目標を持つことにどんな意味があるのか?

私は先生や先輩から「目標や夢を持つな」と言われてきました。一度は目標と計画を立ててみるけど、目標になかなか近づけなくて諦めた。今更に取り組んでみることに自信がなくなりました。なので、達成できない目標を立てるのから、むしろそれを達成しないほうが気が楽です。今この瞬間を充実させて生きていくのと同じように、目標を持つことの意味って何でしょうか、皆さんと一緒に探ってみたいですね!

第32回 10月23日 (水) 16:20-17:50
やる気は必要なのか?

少し前にやる気スイッチという言葉が流行りましたが、やる気を出す方法はそれぞれ、でもスイッチって本当にあるのでしょうか。やる気はあるのにやる気を出せ! と叱られることもある。やる気を気にしなくても、いつの間にか集中しているときもあります。それに、やる気がなくとも仕事や課題はこなせるとも思います。やる気って必要なのでしょうか? やる気がないのは悪いことなのでしょうか? 皆さんの考えをぜひ聞かせてください!

Time Table

16:20-16:35	アイスブレイク
16:35-17:35	かんがえる時間
17:35-17:50	振り返り

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F
とくと学び、とくと育とう、ととそだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲20) かんがえるソファ 10月

Tohoku University Student Learning Adviser

Japanese Conversation Workshop for Beginners

初級者向け SLA日本語会話

日本人学生と一緒に、日常で使える日本語を練習しましょう！
理解できない部分があれば英語でも説明しますので、日本語の聞き取りや表現に自信がない人も安心して参加してください。

In this event, you can learn practical Japanese phrases for daily life through conversation with Japanese students. If you couldn't understand some part in Japanese, we will explain the meaning in English.

≪contents≫

①自己紹介をしてみよう！
Introduce yourselves

②「自動詞&他動詞」を練習！
Let's use intransitive/transitive verbs!

③自由に会話しよう！
Let's enjoy free conversation!

◆開催日 Date
10月30日 (Wed) 16:30~17:30
11月 1日 (Fri) 13:00~14:00

◆予約方法 How to reserve
参加無料・予約優先
Free to participate / Reservation priority
(We will stop accepting applications once all the places are taken.)

◆対象レベル Level
日本語能力試験 (JLPT) [N4~N3]

◆場所 Place
SLAラウンジ (学習支援センター)
川内北キャンパス
マルチメディア教育研究棟 1階

We are SLAs!
(Student Learning Advisers)
Let's talk with us!

東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp>
ともと学び、ともに育とう、ともぞち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲21) 日本語 初心者向け

Tohoku University Student Learning Adviser

教科書が省いた物理

#01 単振動はもう飽きた！

～一般的な振動を考えよう～

2019.10.28 (mon) 16:20-17:50

物理の授業であまりやらないことや、教科書が省いた前提についてあえて考えてみるイベント。今回のテーマは「非線形振動」！！
単振動に一手間加えるだけで、おもしろいことがたくさん出てきます。普段の勉強から少し離れて、自由にアイデアを出しながら物理を楽しんでみませんか？

イベント内容

0. 当日までに事前問題を解いてくる
◆問題は下のQRコードから！
1. 単振動(事前問題)について確認
2. 振動に関する疑問を出し合う
◆非線形性、等時性、共振振動数、etc
3. グループごとに疑問を追求
◆もちろんSLAが議論をサポートします！
4. 共有・振り返り

申込方法
下右のQRコードから要申込
(申込はイベント直前でもOKですが、申込多数の場合、締め切り可能性があります)

対象者
学部1・2年生
(非線形振動の知識はなくてもOK)

開催場所
マルチメディア教育研究棟1階
SLAラウンジ

問い合わせ： 学習支援センター (SLAサポート) sla-support@grp.tohoku.ac.jp
ともと学び、ともに育とう、ともぞち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲22) 物理イベント

Tohoku University Student Learning Adviser

答えのないテーマについて、学部や学年が様々な参加者と一緒に話し合い、考えを深めます。
自分1人や友達とおしゃべりでは見えてこない、新しい視点を割り出してみませんか？

てつがくカフェ かんがえるソファ

大学生だからこそできる協創を体験しませんか？

開催日・テーマ

第33回 11月7日 (木) 16:20-17:50
「つまらない」についてかんがえる
～つまらないを考えると意外と面白い？～

第34回 11月11日 (月) 16:20-17:50
「えらい」についてかんがえる
～子どもの「えらい」と大人の「偉い」、なんかちがう？～

第35回 11月19日 (火) 16:20-17:50
「飽きた」についてかんがえる
～飽きてしまう時ってどんな時？～

第36回 11月25日 (月) 14:40-16:10
「うらやましい」についてかんがえる
～「マジうらやま」の気持ちはどこから来る？～

先着 10名程度

事前予約優先・参加無料
予約フォームはこちら
もしくは下記メールアドレスにお名前、参加希望日をご連絡ください。
project-sla@grp.tohoku.ac.jp
当日も参加を受け付けています。
15分前から整理券を発行します。

Time Table
アイスブレイク…15分
かんがえる時間…60分
ふりかえり…15分

過去のテーマや議論の様子はこちら
[web pageをCHECK！](#)

場所： マルチメディア教育研究棟 1階 SLAラウンジ
対象： 東北大学生 全学部・全学年

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F
TEL: 222-8323, 222-8325 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲23) かんがえるソファ 11月

SLA的

1年生向け 物理の学びポイント!

11月版

質点系の力学・電磁気学をチェック!

多体問題は定石を使って攻めよう
重心座標、相対座標で運動を考える
一つの質点ごとの運動方程式から重心、相対運動のものへ

剛体の運動に関わる物理量を理解しよう
慣性モーメント(I)・角運動量(L)・トルク(N)の関係は？
ヒント：並進運動 $M \frac{dv}{dt} = F$ との対応を考えよう
質量(M) ↔ 運動量(p) ↔ 力(F) ↔

静電ポテンシャルの使い方を理解しよう
便利だけど難しい鏡像法(鏡映法)の確認を！
コツ：導体表面の境界条件を満たすように仮想電荷を置く

学び方のヒント

ある教科書が分からなかったら別の教科書を参照してみよう。
演習問題の場合は、図書館等で類題を探してみよう。

物理のミニクイズ

日本の建物は地震で簡単に崩壊しないよう、ある物理量に注意して設計されています。どのような物理量でしょうか？
答えはQAのブログをチェック！

気になるところは5分間に気軽に聞きに来てね！ 場所はM棟1階
Tohoku University Student Learning Adviser

▲24) 物理の学習ポイント 11月

Tohoku University Student Learning Adviser 2019年度後期

SLA de 英会話

気軽に英会話を練習できる活動を行っています！
楽しんで話せるよう準備していますので、ぜひ覗いてみてください！

日程：中国出身、家庭教師で楽しもう！
水野(英4)：米居住経験、身が軽くて話しやすいよ！
大槻(英4)：留学経験、英会話の楽しさを伝えよう！
田村(英2)：カナダ留学、動機を持った練習をしたい人は是非！

英会話やってみただけ、いきなりネイティブ相手はちょっと…お金をかけずに練習したい！色々な学部・学年の人と話をしてみたい！

こんな人はぜひSLA英会話に！

2種類の活動があります

1on1 主に4限
マンツーマンであなたに合わせて話します。カフェに参加するのは気が引けるという人、留学準備などでたくさん話したい人はこちらをどうぞ！友人と2~3人での利用もOK！

カフェ 主に5限
集まったみんなで話します。SLAが話題やゲームを用意しているの、楽しく参加できます！ワイワイ楽しみたい人は、こちらをどうぞ！

基本スケジュール

	月	火	水	木	金
3限					カフェ
4限	1on1	1on1	1on1	1on1	カフェ
5限	カフェ	カフェ	カフェ	カフェ	

場所：M棟1階SLAラウンジ
ソファ一席
直接その場で声をかければOK！
※初めて利用する人は窓口にお声かけください。

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
http://sla.ds.ihe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F

ととと学ぼう、ととと育とう、とととどろ Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲25) SLA de 英会話

Tohoku University Student Learning Adviser

SLA de 英会話 初めての方歓迎 WEEK

11/25 (月) ~ 12/6 (金)

期間中、特に英会話初心者や初回利用者向けに開催！
気になっていた方はこの機会にぜひどうぞ！
空きコマを利用し、お金をかけずに英語力を高めよう！

Twitter はじめました！ @SLAenglish

2種類+1の活動があります

1on1 約30分間、あなたに合わせてマンツーマンで対応します。友人と2~3人での利用もOK！

カフェ 集まったみんなで話します。SLAが用意した話題やゲームで、ワイワイ楽しく参加できます！

★期間限定企画★
英語学習サイトなどを使って自分で英会話の力を鍛えていく、「英会話の自主トレの方法」をSLA田村が教えちゃいます！

合同自主トレ

場所：M棟1階 SLAラウンジ

予約不要！
途中参加・退出OK！

	月	火	水	木	金
3限					合同自主トレ
4限	1on1	1on1	1on1	1on1	カフェ
5限	カフェ	カフェ	カフェ	カフェ	

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
http://sla.ds.ihe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F

ととと学ぼう、ととと育とう、とととどろ Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲26) 後期英会話カフェ体験 Week

Tohoku University Student Learning Adviser

好評につき今年もやります

美術館の楽しみ方、教えます！

12月3日(火)・5日(木) 13:00-14:20

定員 各回10名程度 (申込優先)

対象 全学部・全学年

参加無料

申込: <https://forms.gle/qFvryDMhNurHasjV6> (締切12/2・4)

「美術館行ってなんか難しそう…」
そう思っている人ぜひ！

川内キャンパスから徒歩5分の宮城県美術館。いつも横目に通り過ぎるだけで行ったことが無い方も多いのでは？

この企画の目的は、みんなで美術館に行き「美術館の楽しみ方を学ぶ」こと。「美術館ってなんか敷居高いなあ」そう思っている方が美術館や美術館を身近に感じ、そのきっかけを作れたらと考えます。学芸員の方とお話できるので、「作品ってどうやって集めてるの?」「今度の特別展の見どころは?」といった質問もできますよ。

■集合：宮城県美術館 エントランスホール ※学生証持参

■内容
●常設展を自由に鑑賞します
●常設展の中から気になる作品を選んで、どんなところに魅力を感じたのか、他の参加者と共有して楽しみましょう！
●選んだ作品について学芸員の方から解説して頂き、理解を深めましょう

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
ととと学ぼう、ととと育とう、とととどろ Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲27) 美術館ツアー

Tohoku University Student Learning Adviser

学部2年~修士課程の皆さんへ！
(2020年4月時点で学部3年生以上)

週3~5時間程度勤務
時給1200円~

自分の専門やスキルを活かして学ぶ楽しさを伝えよう！

2020年4月活動開始 SLA募集!

SLAとは、東北大学独自の「学生による学生のための学習支援スタッフ」です。一橋に全学教育(主に1・2年生)の学びをサポートしてくれる仲間を募集します！

募集枠
物理/数学/化学 担当…各数名 英会話 担当…各数名
1・2年次範囲の理系科目に関する質問対応・企画発案 英会話カフェの実施など、英会話の学習支援

ライティング 担当…若干名 企画 担当…若干名 日本語会話 担当…若干名
レポート・論文等に関する質問対応・企画発案 ※修士以上の学生 > 学習イベント等の企画・実施・広報 日本語会話をベースにした留学生向けワークショップの開催

◆応募・採用の流れ
1. 活動説明会へのエントリー (1月31日15時締切)
右のQRコードにアクセスし、webのフォームからエントリーしてください。
後日、活動説明会の日程を連絡します。
<https://forms.gle/xkgkQ54e3MlQaJ04A>
2. 活動説明会への参加 (1月27日~2月7日)
SLAの活動内容、応募・就任について説明を行います。説明会を開催した上で、応募するかどうかを考慮して下さい。
3. 面接・試験の実施 (2月~3月9日 ※個別調整可)
説明会の内容を踏まえ、正式に応募いただいた方に対して後日実施。計1.5時間程度。内容は科目ごとに異なります。
4. 採否結果の通知 (~3月13日)

◆問い合わせ先/SLAの詳細
mail: sla-support@grp.tohoku.ac.jp
web: <http://sla.ds.ihe.tohoku.ac.jp/>

活動説明会へのエントリー締切
1/31(金) 15:00まで

応募条件
①東北大学の学生で、2020年4月時点で学部3年生以上
②各自自身の専攻との関連が深い
③SLAのコンプライアンスを熟知し、学生としての学び合いや大学での学生生活に際して責任感がある
④SLAとしての学び合い、SLA研修を通じたスキル・能力アップに意欲がある
⑤専攻科目以外に、関連する領域の知識が豊富である
⑥留学生は、業務に支障のない程度の日語での日本語能力が確認可能である
⑦応募資格は、専攻が英語ができる

勤務条件
募集期間: 2020年4月~9月
就業時間: 2020年4月~9月
就業時間: 平日 週に3~5時間程度(夜間勤務)
勤務場所: 川内北キャンパス 総務課
時給: 学部生1200円、修士生1300円

東北大学 学習支援センター(SLAサポート) 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
ととと学ぼう、ととと育とう、とととどろ Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲28) 後期 SLA 募集

Tohoku University Student Learning Adviser 2019年12月版

留学生のみなさんへ

みんなで楽しく日本語会話を練習しませんか？

日本の文化や生活に関する話題を取り上げながら、みんなで楽しく会話をします！
中級以上(基本的な会話が出来るレベル)の方向け / 参加無料 / 予約不要

講師 さやか(文学部 B4) フランス文学研究室 好きなもの:映画 音楽
 鏡 麗子(文学研究科 M2) 国語学研究室 好きなもの:音楽 ティスティー 映画
 高山 翔圃(経済学部 B3) 好きなもの:ドライブ、動物、肉!
 松谷 凌雅(文学部 B3) 文化人類学研究室 好きなもの:フロンティア、お花見

We are SLA(Student Learning Adviser)!
私たちと一緒に、友達と話す感覚で日本語会話を練習しませんか？

◆開催日・テーマ

開催日	テーマ
12/4(水)	リフレッシュ
12/6(金)	何か忙しいこの季節...オススメのリフレッシュ方法を教えて!
12/11(水)	旅行
12/13(金)	あなたの旅行のスタイルは?
12/18(水)	年末年始の過ごし方
12/20(金)	令和初の年越し。あなたはどう過ごしますか?
12/25(水)	フリートーク
	どんな話題になるかは当日のお楽しみ!

◆日時 (少し遅れても参加できます)
水曜日 16:30~17:30
金曜日 13:00~14:00

◆会場
SLAラウンジ(学習支援センター)
川内北キャンパス マルメディア教育研究棟 1階

東北大学 高度教育推進・学生支援機構 学習支援センター <http://sla.cis.ihc.tohoku.ac.jp>
とも学び、ともに育とう。とぞぞち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲29) 日本語 12月

Tohoku University Student Learning Adviser

答えのないテーマについて、学部や学年が様々な参加者と一緒に話し合い、考えを深めます。
自分1人や友達とのおしゃべりでは見えてこない、新しい視点を創り出してみませんか？

てつがくカフェ かんがえるソファ

大学生だからこそできる協創を体験しませんか？

開催日・テーマ

第37回 12月12日(木) 16:20-17:50
「社会人」についてかんがえる
(例:学生と社会人の違いって何?)

第38回 12月17日(火) 16:20-17:50
「SNS」についてかんがえる
(例:「人とつながる」のは何のため?)

第39回 12月23日(月) 16:20-17:50
「コミュニティ」についてかんがえる
(例:なぜひとりじゃだめなのか?)

先着 10名程度
事前予約優先・参加無料
予約フォームはこちら

もしくは下記メールアドレスにお名前、参加希望日をご連絡ください。
project-sla@grp.tohoku.ac.jp
当日も参加を受け付けています。

Time Table
アイスブレイク...15分
かんがえる時間...60分
ふりかえり...15分

場所: マルメディア教育研究棟 1階 SLAラウンジ
対象: 東北大学生 全学部・全学年

過去のテーマや議論の様子はweb pageをCHECK! →

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルメディア教育研究棟 1F
056-265-2121, 056-265-2565 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲30) かんがえるソファ 12月

Tohoku University Student Learning Adviser

答えのないテーマについて、学部や学年が様々な参加者と一緒に話し合い、考えを深めます。
自分1人や友達とのおしゃべりでは見えてこない、新しい視点を創り出してみませんか？

てつがくカフェ かんがえるソファ

大学生だからこそできる協創を体験しませんか？

開催日・テーマ

第40回 1月16日(木) 16:20-17:50
「主体性」についてかんがえる
(例:なぜ大学生は主体的であるべきなのか?)

第41回 1月20日(月) 16:20-17:50
「時間」についてかんがえる
(例:なぜ私たちは忙しいのか?)

第42回 1月24日(金) 14:40-16:10
「空気を読む」についてかんがえる
(例:なぜKYではダメなのか?)

先着 10名程度
事前予約優先・参加無料
予約フォームはこちら

もしくは下記メールアドレスにお名前、参加希望日をご連絡ください。
project-sla@grp.tohoku.ac.jp
当日も参加を受け付けています。

Time Table
アイスブレイク...15分
かんがえる時間...60分
ふりかえり...15分

場所: マルメディア教育研究棟 1階 SLAラウンジ
対象: 東北大学生 全学部・全学年

過去のテーマや議論の様子はweb pageをCHECK! →

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルメディア教育研究棟 1F
056-265-2121, 056-265-2565 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲31) かんがえるソファ 1月

東北大学 学習支援センター主催「学びの転換セミナー」

アートから学ぶ創造的思索

ゲスト 山本高之氏 (アーティスト)

「アート思考」や「STEAM教育」など、アートの視点や文化の学びを、研究・教育やビジネスにつなげていくことの有効性が盛んに叫ばれています。しかし、「アート」とはそもそもどのようなもので、私たちはアートを通して何を学ぶことができるのでしょうか？
本イベントでは、これまで「教育」の問題をテーマにした作品制作を行い、国際的に活躍している現代美術家・山本高之さんをゲストに招いて、アートや文化とその学びについて深く考えます。アートの見方を知りたい、アートを通して新しい視点を得たい方などは、ぜひご参加ください。

- はじめに/認知科学から見たアート 15:00-15:20 熊 拓亮(東北大学 高度教育推進・学生支援機構 助教)
- 考古学から見たアート 15:20-15:40 芳賀 潤(東北大学 高度教育推進・学生支援機構 教授)
- アーティストトーク 15:40-16:30 山本 高之(アーティスト)
- クロストーク 16:30-17:00 山本 高之×芳賀潤×フロアの皆さん。[進行:熊 拓亮]

日時▶ 2月5日(水) 15:00~17:00
場所▶ 川内北キャンパス 講義棟 B200教室
対象▶ 東北大学生・教職員 / その他関心のある方
参加▶ 申込優先(当日受付可)
問い合わせ 東北大学 学習支援センター
sla-support@grp.tohoku.ac.jp

申込はこちら
http://sla.cis.ihc.tohoku.ac.jp/blog_cat/ama30200/

▲32) 学びの転換セミナー

資料

＝編集後記＝

『学習支援センター（SLA サポート）年次活動報告書』は今回、第6号の刊行となりました。2019年度は、前年度までの取り組みを発展させつつ、従前のあり方を振り返る一年となりました。

2019年度は、相談窓口を開設し1対1で丁寧に学生の学習相談に応じていく形をさらに充実させていくのに留まらず、SLAが持つ多様な学術的・社会的情報の発信力を向上させつつ、留学生の学習支援を拡充し、重要な基盤固めの1年になりました。時間的・心理的な理由で窓口に来られない学生にも有益な学習情報を届けられるように、アウトリーチ活動にも取り組んできました。多くの留学生を有する東北大学において、真に国内学生と留学生が「学び合う」環境の構築も、一歩ずつではありますが進めることができたと考えております。

2020年の年明け以降は、新型コロナウイルス感染拡大により世界中で大きな混乱が生じ、私たちの「当たり前」が大きく根底から覆されることとなりました。翌2020年度には、すべての授業がオンライン化を迫られ、それに伴って当センターでも、すべての学習支援活動をオンライン化すべく、急遽対応せざるを得ない状況となりました。結果としては、この2019年度が、それ以前の形態で活動ができた「最後の一年」になったと言えるかもしれません。

末筆となりましたが、2019年度も学内外の多くの皆様、多くの組織・機関に支えられ、無事に当センターの活動を終えることができました。そして何よりも、これまで長きに渡りセンターの活動を支えてくれた全スタッフに、感謝と労いの言葉を贈りたいと思います。ご支援頂いておりますすべての皆様に、この場を借りてお礼を申し上げます。

(佐藤 智子)

学習支援センター(SLA サポート)年次活動報告書 -2019年度-
Annual Report 2019 / Center for Learning Support (SLA Support Office)

2021年3月25日発行
東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター(SLA サポート)
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41番地 マルチメディア教育研究棟1F
website : <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/>

印刷 北日本印刷株式会社

※SLA学生の各種作成物の情報は、学生個人の見解によるものも含まれることをあらかじめご了承ください。
※本冊子掲載の写真データの無断使用を固く禁じます。
